第十四條　鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條　鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス

第十六條　試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條　農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長、採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條　特許ヲ得タル鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十五條　鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登錄簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登錄ス

第十六條　試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其ノ許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム

第十七條　農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長、採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セス

第十九條　試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條　特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買、讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

採掘權ヲ賣買、讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買、讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クヘシ其登錄ヲ受クサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條　他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ

試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條　他人所屬ノ鑛區内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ

鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條　宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條　鐵道、馬車鐵道、公道、河溝、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下ト雖モ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ニアラサレハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條　鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲ササルモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條　鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受クタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出ササルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條　鑛業人ハ一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條　前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立ク再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條　鑛業人ハ坑内實測圖二葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ」

鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲メニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條　鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

前項所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アルモノハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條　第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條　前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條　鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出ヲ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條　第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ屆出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以內ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラス特許ヲ與フヘシ

第三十九條　鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

第四十條　鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製產物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章　鑛區

第四十一條　鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條　出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以內ニ訂正シテ差出サヽルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條　特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以內ノ期限ヲ定メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條　鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出スヘシ」

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第四十五條　鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ納メサルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條　鑛區ヲ合併シ又ハ分割シテ欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章　土地使用

第四十七條　試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携帶スヘシ

第四十八條　左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

一　坑口ヲ開穿スル爲

一　鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一　坑道、道路、鑛道、馬車鑛道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一　鑛業上必要ノ製錬場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

一　貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場合ニ係ルトキ

一　土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サヽルトキ

第五十條　土地借受人ハ貸渡ヲ受クタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地盡喞ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得」

其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條　土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應シ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條　土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滯シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滯借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限內ニ取除テナサヽルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條　鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ貸渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條　鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受クタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此

ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條　土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條　所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條　鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章　鑛業警察

第五十八條　鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲クルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

一　坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安

一　鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護

一　地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條　鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條　前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ

此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條　第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條　農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條　農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章　鑛夫

第六十四條　鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ從事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督

署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條　左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

一　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ行爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條　左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

一　身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘサルトキ

一　鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ

一　約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セサルトキ

第六十八條　鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條　鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條　鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ姓名、年齡、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條　農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

一　一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト

一　女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト

一　十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條　鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

一　鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一　前項ノ場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一　前項ノ負傷ニ由リ癈疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト

第七章　鑛業稅及鑛區稅

第七十三條　鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業製產物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス

鑛區ヲ採掘スル者ニハ鑛業稅ヲ課セス

第七十四條　前條鑛業製產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條　鑛業人ハ鑛業稅ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業

ノ年ニ係ルモノハ鑛業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ」

鑛區稅ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條　鑛業人納稅期限内ニ鑛業稅及鑛區稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受クタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章　罰則

第七十七條　第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條　認可ヲ得ズシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尚ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條　第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條　第三十九條ニ依リ屆出ツヘキ事項ヲ詐ヲ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條　第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐ヲ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條　第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條　第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徵シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章　附則

第八十九條　此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條　此ノ條例實施以前ニ借區人ノ訴可ヲ得借區年限滿期後尚ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條　此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條　此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

○鑛業ニ關スル手數料

明治二十五年三月勅令第二十六號

廢鑛業ニ關スル手數料ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　鑛業ニ關シ次ニ揭クタル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一試掘認可願	一件毎ニ金參圓
一試掘地訂正願	一件毎ニ金壹圓
一試掘延期願	一件毎ニ金壹圓
一採掘特許願	一件毎ニ金拾五圓
一鑛區訂正願	一件毎ニ金五圓
一鑛業特許證書換願	一件毎ニ金五圓
一採掘權書入登錄願	一件毎ニ金參圓
一鑛區ノ合併若ハ分割願	一件毎ニ金五圓
一鑛業特許證再下渡願	一件毎ニ金壹圓
一坑內實測圖證明請求	一件毎ニ金五圓
一測量認可請求	一件毎ニ金壹圓
一鑛山監督署長ノ到定請求	一件毎ニ金五圓
一農商務大臣ノ裁定請求	一件毎ニ金拾圓

第二條　鑛業條例第九十條ニ依リ明治二十六年五月三十一日迄ニ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ手數料金五圓ヲ納ムヘシ

第三條　手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第四條　本令ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治二十三年勅令第百五十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○二箇以上ノ借區ヲ合併シ一借區ト爲スノ許可ヲ得タルトキノ借區年限

明治二十五年一月農商務省告示第一號

二箇以上ノ借區ヲ合併シ一借區ト爲スノ許可ヲ得タルトキ其借區年限ハ原借區中最後ニ許可ヲ得タル借區ノ年限ニ據ルモノトス

○鑛山監督署名稱位置及管轄區域

明治二十五年三月農商務省令第三號

鑛山監督署名稱位置及管轄區域左表ノ通相定ム

鑛山監督署名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京鑛山監督署	武藏國東京	東京府 埼玉縣 神奈川縣 新潟縣 群馬縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 靜岡縣 山梨縣 長野縣 宮城縣 福島縣
秋田鑛山監督署	羽後國秋田	巖手縣 青森縣 山形縣 秋田縣

注意

一採掘高ノ單位ハ石炭ハ斤量其他ノ鑛物ハ凡ヲ貫量ヲ用ユヘシ

一製出高ノ單位ハ金銀ハ匁量其他ノ製出高ハ凡ヲ斤量ヲ用ユヘシ

大阪鑛山監督署	攝津國大阪	三重縣 滋賀縣 福井縣 富山縣 德島縣
		京都府 兵庫縣 奈良縣 愛知縣 岐阜縣 石川縣 和歌山縣 高知縣
廣島鑛山監督署	安藝國廣島	岡山縣 鳥取縣 島根縣 廣島縣 山口縣 愛媛縣
福岡鑛山監督署	筑前國福岡	長崎縣 福岡縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣 大分縣 沖繩縣
札幌鑛山監督署	石狩國札幌	北海道

○同上支署名稱及管轄區域

明治二十四年七月勅令第百四十五號第七條ニ依リ鑛山監督署支署ヲ置キ其名稱位置及管轄區域左表ノ通相定ム

鑛山監督署支署名稱位置及管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
大阪鑛山監督署金澤支署	加賀國金澤	福井縣（若狹國及越前國坂井郡ヲ除ク）石川縣 富山縣
福岡鑛山監督署鹿兒島支署	薩摩國鹿兒島	宮崎縣 鹿兒島縣 沖繩縣

○鑛業警察規則

明治二十五年三月農商務省令第七號

鑛業警察規則左ノ通相定ム

鑛業警察規則

第一條　鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑內ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ

第二條　竪坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ卷揚竪坑中人音ノ達セサル場所ニハ通信機ヲ設クヘシ

第三條　卷揚臺ヲ用ヰテ人ヲ昇降セシムル竪坑ニハ板圍アル竪牢ノ梯子道ヲ設クヘシ

第四條　竪坑內ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以內トシ少クトモ三十尺每ニ踏棚ヲ設クヘシ

第五條　採鑛場ノ外總テ丸木梯子ヲ用ユルコトヲ得ス

第六條　人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ安全機及上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ卷揚臺ニ用ヰル細綱ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス

第七條　坑內自轉車道及ヒ機械卷揚道ニハ軌長ノ一方ニ幅三尺以上ノ人道ヲ設クヘシ

前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ少クトモ距離二十間每ニ避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ

避害所ハ幅六尺奧行軌道ヨリ六尺以上タルヘシ

第八條　竪坑ノ上下周圍ニ於ケル交通運搬ノ用ニ供スル坑道ハ竪坑ヨリ六尺以上ノ距離ヲ置クヘシ

交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第九條　金屬山ニ於テ一分時間少クトモ鑛夫一人ニ付五十立方尺牛馬一頭ニ付二百五十立方尺ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ」石炭坑ニ於テハ前項通氣量ヲ二倍以上ニ增加スヘシ

第十條　破裂瓦斯ヲ發出スル石炭坑ニ於テハ之ヲ安全ノ度ニ稀薄ナラシムルマテ通氣量ヲ增給スヘシ

前項ノ石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑內各工場ヲ巡視セシムヘシ若シ危險ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行スルニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

第十一條　新空氣ノ送入ニ付テハ其送入口ヨリ最遠ノ工場ニ直送シタル後分岐シテ他ノ工場ニ周流スルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十二條　安全燈ハ鑛夫ノ入坑每ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ檢查シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

鑛夫ハ安全燈ヲ開クコトヲ得ス

第十三條　安全燈ヲ用非ル坑內ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帶スルコトヲ得ス

第十四條　鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十五條　裝藥ノ際鑛漿込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス

導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ同場所ニ近寄ルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スコトヲ得ス

第十六條　同一鑛區內ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ採掘ノ許可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル樣協議ノ上試掘又ハ採掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十七條　試掘ノ認可若クハ採掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ樣修理スヘシ

第十八條　鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第十九條　農商務省鑛山局員及鑛山監督署員ハ鑛業ヲ臨視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ查閱スルコトヲ得

第二十條　鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ届出ツヘシ

第二十一條　鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十二條　本則ニ違反シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得

ス

第二十四條　本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

○砂鑛採取出願手續

明治二十五年六月農商務省令第十二號

砂鑛採取出願手續左ノ通相定ム

砂鑛採取出願手續

第一條　明治十二年工部省布達第十四號ニ依ル砂鑛採取願書及圖面ハ自今所轄鑛山監督署ニ差出ス可シ

第二條　前條ニ依リ出願ヲ爲シタル者ハ三日以內ニ願書及圖面ノ寫ヲ添ヘ採取地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官採取ノ事業公益ニ害アリト認ムルトキハ前項ノ届書ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ其意見ヲ農商務大臣ニ上申スヘシ

○鑛業條例實施前提出ノ出願書同條例實施後調査上申方

明治二十五年三月農商務省訓令第四號

鑛業條例實施以前ニ提出シタル左記ノ出願ニ就テハ同條例實施後ニ至ルモ尙ホ從前ノ手續ニ依リ調査ノ上本大臣ニ上申スヘシ

一　試掘及借區願
一　試掘又ハ借區ノ增減區願
一　試掘延期願
一　試掘又ハ借區ノ相續讓受渡及加除名願
一　試掘又ハ借區許可取消願

○上申書回送方

明治二十五年四月農商務省訓令第六號

鑛業條例施行細則第七條及明治二十五年農商務省訓令第四號ノ上申書ハ所轄鑛山監督署ニ回送スヘシ

○官有地ヲ試掘若クハ採掘スルノ手續

明治二十五年四月農商務省訓令第七號

試掘若クハ採掘ノ出願御料地若クハ官有地ニ係ルトキハ主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

○鑛山監督署長權限

明治二十五年四月農商務省訓令第八號

鑛山監督署長權限左ノ通相定ム

第一條　鑛山監督署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付凡テ其責ニ任ス

第二條　鑛山監督署長ハ管內ヲ巡視シ及ヒ部下ノ職員ニ管內巡廻ヲ命シ又ハ臨時緊急ノ場合ニ於テ管外出張ヲ爲シ及ヒ之ヲ命スルコトヲ得

第三條　鑛山監督署長ハ判任官以下ノ歸省看護幕參賜地療養願ヲ許可シ及ヒ除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第四條　鑛山監督署長ハ月俸十二圓又ハ日給五十錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第五條　鑛山監督署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第六條　農商務大臣ニ經伺ヲ要スヘキ事項ハ總テ鑛山局長ヲ經由スヘシ

○鑛業明細表差出方

明治二十五年五月農商務省訓令第十三號

本年一月一日ヨリ五月三十一日ニ至ル鑛業明細表ハ明治六年工部省第十七號達雛形ニ照準調製セシメ來ル八月三十一日マテニ取纏メ差出スヘシ

○採取行業明細表

明治二十五年五月農商務省訓令第十四號

採取行業明細表ハ從前ノ通明治十三年工部省第六號布達雛形ニ照準調製セシメ翌年一月三十一日限リ取纏メ差出スヘシ

但一箇年一表ニ調製セシムヘシ

○將來發掘ノ坑物ヲ引當トシテ外國人ヨリ金子借受又ハ先賣ノ約定等ヲ禁ス

明治七年十一月布告第百二十四號

坑物ノ儀ハ明治六年第二百五十九號布告日本坑法ニ掲載ノ通政府ノ所有物タルハ勿論ニ付繼令開坑ノ許可ヲ受候共其坑中將來開發ノ品ヲ引當ニ致シ外國人ヨリ金子借入又ハ先キ賣約定等ノ儀ハ不相成候條此旨布告候事

○砂金砂鐵採取行業明細表雛形

明治十三年三月工部省達第六號

昨十二年第十四號ヲ以砂金砂鐵試掘借區開坑之名稱相廢候ニ付テハ該稼業者ヨリ從前差出來候行業明細表之儀左ノ雛形ニ照準取調可差出此旨布達候事

雛形（略ス）

○採掘特許者ニ非サル鑛物製煉從事者ニ係ル件

明治二十五年五月農商務省訓令第十五號

採掘特許者ニアラスシテ鑛物製錬業ニ從事スルモノアルトキハ左ノ二項ニ準據スヘシ

一　新規從事ノ場合ニ於テハ製錬場ノ位置、製錬人ノ族籍姓名ヲ其都度報告スヘシ爾後廢業其他ノ異動ヲ生シタルトキモ亦同シ

一　製錬人ヲシテ左ノ雛形ニ依リ前一箇年ノ工程ヲ製錬行業明細表ニ調製セシメ翌年一月三十一日限リ取纏メ差出スヘシ

雛形（略ス）

第二章　漁業

○捕魚採藻ノ爲メ海面使用方法

明治八年十二月布告第百九十五號

從來人民ニ於テ海面ヲ區畫シ捕魚採藻等ノタメ所用致居候者モ有之候處右ハ固ヨリ官有ニシテ本年二月第二十三號布告以後ハ所用ノ權無之候條從前ノ通所用致度者ハ前文布告但書ニ準シ借用ノ儀其管轄廳へ可願出此旨布告候事

〔參照〕明治八年二月二十日布告第二十三號

從來雜稅ト稱スル慣慣ニ因リ區々ノ收稅ニテ輕重有無不平均ニ付別紙略スノ稅目ノ分本年一月一日ヨリ相廢シ候（以下地方稅規則等ニ依リ徵收ニ付之ヲ除ク）

但從前官有地借用右代料トシテ米金相納候分ハ是迄ノ通可相心得事

○捕魚採藻ノ爲メ海面所用願出許可ノ者內務省ヘ屆出シム
明治八年十二月 太政官達第二百十五號

捕魚採藻ノタメ海面所用ノ儀ニ付今般第百九十五號ヲ以布告候ニ付テハ右借用願出候者ハ調査ノ上差許其都度內務省ヘ可屆出此旨相達候事（九年第七十四號公達ニ依リ但書ヲ除ク）

○捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ者適宜府縣稅ヲ賦セシム
明治九年七月 太政官達第七十四號

明治八年十二月第二百十五號ヲ以捕魚採藻ノタメ海面所用ノ儀ニ付相達置候所詮議ノ次第有之右但書取消シ候條以來各地方ニ於テ適宜府縣稅ヲ賦シ營業取締ハ可成從來ノ慣習ニ從ヒ處分可致此旨相達候事

○捕魚採藻ノ爲所用ノ者湖川ト雖モ海面ニ準シ處分シ其他官有ノ池沼借用料收入所用差許方
明治九年十月 內務省達乙第百十六號

捕魚採藻ノ爲メ海面所用之儀ニ付本年第七十四號ヲ以沿海府縣ヘ公達ノ旨モ有之付テハ湖川ト雖モ總テ海面ニ準シ處分可致其他有ニ屬スル池沼ハ人民ノ願ニ因リ他ニ無障碍分ハ明治七年當省乙第五十五號達ニ照準各種ノ名義ヲ以借用料收入所用可差許積相心得當省ヘ可申出此旨相達候事

○漁業組合準則
明治十九年五月 農商務省令第七號

漁業組合準則左ノ通相定ム依テ其準則ニ基キ組合ヲ設置セシメ其規約認可ノ上當省ヘ屆出ヘシ

漁業組合準則

第一條　漁業（水產動植物採捕ヲ併稱ス）ニ從事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作リ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ管轄廳ノ見込ヲ以テ組合ヲ要セサルコトアルヘシ

第二條　組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ增進スルヲ目途トスヘシ

第三條　組合ハ左ノ二類トス

第一類　捕魚採藻（遠海漁業若クハ大地引臺網捕鯨鯡漁昆布採收ノ類）各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類　河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條　前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條　組合ノ規約ニ揭クヘキ事項ハ左ノ如シ

一組合ノ名稱及事務所ノ位置
二組合ノ目的
三役員選擧法及權限
四議會ニ關スル規程
五加入者及退去者ニ關スル規程
六違約者處分ノ方法
七費用ノ徵收及賦課法
八捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
九漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事
十漁場區域ニ關スル事

十一前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條　組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第七條　組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作リ若クハ之ヲ更正セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第八條　二府縣以上ニ涉ル組合及聯合會ノ規約ハ交涉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ

第九條　二府縣以上ニ涉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○魚兒介苗其他未成長ノ苔藻等捕採制限方
明治十九年六月 農商務省訓令第九號

魚兒介苗其他未成長ノ苔藻等濫リニ之ヲ捕採セサル樣各地ノ狀況ニ從ヒ適宜之カ制限ヲ立ツヘシ

但明治十八年當省第二十三號達ニ依リ經伺ノ上施行スヘキ儀ト心得ヘシ

○日本朝鮮通漁規則
明治二十三年一月 無號

朕帝國ト朝鮮國トノ通漁規則ヲ締結シタルニ依リ茲ニ之ヲ公布セシメ明治二十三年一月十一日ヨリ施行セシム

日本朝鮮兩國通漁規則

大日本大朝鮮國政府ハ日本明治十六年七月二十五日朝鮮開國四百九十二年六月二十二日兩國全權大臣ノ協議訂定セル朝鮮國貿易規則第四十一款ニ據リ兩國海濱ニ往來捕魚スル者ノタメニ漁業稅ヲ定メ取締規則ヲ立ルヲ必要トシテ日本政府ハ代理公使近藤眞鋤ニ委任シ朝鮮政府ハ督辦交涉通商事務閔種默ニ委任シ各委命ヲ奉シテ會議定立スル各條左ノ如シ

第一條　兩國議定地方ノ海濱三里（日本國海里ノ算測ニ據ル已下之ニ準ス）以內ニ於テ漁業ヲ營マントスル兩國漁船ハ其船ノ間數所有主ノ住所姓名及乘組人員ヲ詳記シ其船主若クハ代理人ヨリ願書ヲ認メ日本漁船ハ其領事官ヲ經テ開港場地方廳ヘ朝鮮漁船ハ議定地方ノ郡區役所ニ差出シ該船ノ檢査ヲ經テ免許鑑札ヲ受クヘシ

但シ免許鑑札ハ漁業ノ時必ラス携帶スヘシ

第二條　漁業免許ノ鑑札ヲ受クル者ハ漁業稅トシテ左ノ割合ニ照シ稅金ヲ納ムヘシ而シテ此鑑札ハ之ヲ受ケタル日ヨリ滿一年間其効ヲ有スルモノトス

乘組人	十名已上	日本銀貨拾圓
同	五名已上九名已下	同　伍圓
同	四名已下	同　參圓

第三條　漁業免許ノ鑑札ヲ受ケタル此國漁船ハ其捕獲シタル魚介ヲ彼國海濱ノ地方ニ於テ販賣スルコトヲ得ヘシト雖モ彼國政府ニ於テ衞生上又ハ其他ノ事故ニ由リ一般ニ販賣ヲ禁シタル魚介類ハ之ヲ販賣スルコトヲ許サス

第四條　兩國ノ漁船ハ漁業免許ノ鑑札ヲ受ケタルモノト雖モ特許ヲ得ルニアラサレハ兩國海濱三里以內ニ於テ鯨鯢ヲ捕獲スルコトヲ許サス

第五條　此國ノ漁船彼國海濱三里以內ニ於テ地方ノ禁制ニ背キ魚介其他海產ノ蕃殖ヲ害スヘキ方法ヲ用ユルコト勿ルヘシ又ハ各地方ニ於テ魚介ノ種類ヲ限リ其捕獲ヲ禁制シタル時期ニ方リテハ彼是ノ漁民決シテ該魚介ヲ捕獲スルコト勿ルヘシ

第六條　兩國地方官署ノ官吏ハ此規則ヲ執行スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ該地方海濱三里以內ニ在ル彼國漁船內ヲ查檢シ若シ違犯者アレハ之ヲ押留スルコトヲ得但シ朝鮮地方官ニテ日本船ヲ押留シタルトキハ其趣速カニ最寄日本領事官ニ通知シ該規則ニ從テ處分ヲ求ムヘシ

第七條　漁業免許ノ鑑札ヲ受ケスシテ海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲シ若クハ捕獲セントシタル漁船ハ五圓已上拾五圓以下ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第八條　第一條免許鑑札ヲ携帶セサルモノ第四條ヲ犯スモノ及ヒ第六條地方官吏ノ查檢ヲ拒ムモノハ壹圓已上貳圓已下ノ罰金ニ處ス但シ第四條ヲ犯シタル者ハ別ニ捕獲シタル鯨鯢ヲ沒收ス

第一條乘組人員ヲ僞リ稅金ヲ不足納シタル者ハ其不足高二倍ノ罰金ニ處ス

第三條禁制ノ魚介ヲ販賣シ及第五條魚介漁產ノ蕃殖ヲ害スルノ方法ヲ用ヒ若クハ禁制ノ魚介ヲ捕獲シタルモノハ日本海濱ニ於テハ地方規則ニ照シテ處分シ朝鮮海濱ニ於テハ壹圓已上貳圓已下ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第九條　漁業鑑札ヲ他人ニ貸附シ海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲セシメタルモノハ貸者借者共ニ該鑑札ニ相當スル稅額二倍ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第十條　兩國議定地方ニアラサル海濱三里以內ニ於テ地方ノ禁制ニ背キ魚介其他海產ノ蕃殖ヲ害スヘキ方法ヲ用ユルコト勿ルヘシ

第十一條　此規則ニ據ヲ處分スヘキ者ハ日本國海濱ニ於テハ日本地方裁判所ノ裁斷ニ歸シ朝鮮國海濱ニ於テハ其地方官ヨリ最寄日本領事官ニ告訴シ其裁斷ニ歸スヘシ

第十二條　此規則實行ノ後更ニ增減スヘキ事項出來スルトキハ雙方協議改正スルヲ得漁業稅ニ至テハ此規則調印ノ日ヨリ二年間施行ノ後漁利ノ有無ヲ看テ再ヒ改正スヘシ

茲ニ雙方記名調印シ右確實ナルヲ證スル者也

大日本國明治二十二年十一月十二日

代理公使　近藤眞鋤　印

大朝鮮國開國四百九十八年十月二十日

督辦交涉通商事務閔種默　印

○薩哈嗹島沿岸海產業課稅假規則

明治二十二年十一月
外務省告示第二號

露領薩哈嗹島沿岸ニ於ケル海產業許可年限ハ本年終期ニ相違候處今般露國黑龍政區（アムールスカヤオブラスチ）太守ニ於テ明治二十三年（千八百九十年）ヨリ向フ五箇年間之ヲ繼續スルコトヲ許シ海產業課稅假規則ヲ左ノ通改定シ明治二十三年ヨリ施行候旨在ニルサコフ副領事久世原ヘ通知アリタリ

一千八百九十年ヨリ五箇年間薩哈嗹島沿岸ニ於テ施行スヘキ海產業課稅假規則

露國民又ハ外國人ニシテ薩哈嗹島ニ來航シ各種ノ海產業ヲ營ム者ハ左ノ成規ニ基キ露國又ハ外國港ニ之ヲ輸送スルヲ許可

ス

第一條　來航者ニシテ營業シ得ヘキモノハ左ノ如シ

イ　紅魚（鮭及鱒）ノ捕漁、及ヒ鹽漬製但シ其製方ハ樽漬（露製ノ如キ）又ハ乾製（日本製ノ如キ）スルヲ得ヘシ

ロ　鯡ノ捕漁、及ヒ鹽漬製、肥料〆粕ノ製、鯡油ノ煎煮及ヒ鯡（カズノコ）鰾ノ製造

ハ　鱈ノ捕漁、乾製、壓搾及ヒ肝油ノ製造

ニ　鮫ノ捕獲、肉及ヒ鰭ノ製造

ホ　鯨ノ網獵、肉及ヒ筋ノ鹽漬製竝ニ油ノ煎煮

ヘ　海鼠ノ捕獲及ヒ煎鼠ノ製造

ト　昆布ノ採收

第二條　左ノ場合ニ於テハ各種ノ海產業ヲ營ムコトヲ允ルサス

イ　紅魚漁ヲ許可セサルハ「アニワ」灣內ニ於テハ「タナ、イ」川口ヨリ北方「カルサコフ」港ニ至ル及ヒ同港ヨリ南方「プッセ」灣迄」東海岸ニ於テハ「トンナイチヤ」湖ヨリ北方「パラアノフスキーポスト」（「マヌエ」）ニ至ル「シツカ」川及ヒ其川口「ツイミ」川及ヒ「ヌイ灣」

ロ　鯡漁ヲ允可セサルハ「アニワ」灣內ニ於テハ「スヽヤ」川口ヨリ南方大泊（ポロアルリ）ニ至ル」東海岸ニ於テハ「ロレイ」迄ニ「シラ、カ」

ハ　薩哈嗹島西海岸中「クシユンナイ」ヨリ北方「ドーエ」軍務電營所ニ至ル間

第三條　薩哈嗹島ニ於テ若シ土人或ハ徒刑民村落ノ爲メ必要アリト認ル時ハ每時黑龍政區太守（アムールスカヤグラフヤ）ノ允可ヲ得タル上地方行政ノ處分ヲ以テ前記ノ場所外ニ於テモ海產業ヲ營ムコトヲ禁止スル事アルヘシ

第四條　總テ諸川々口ヨリ海岸近方又ハ其川內ニ於テ建網或ハ留網ヲ設ケ海ヨリ川口ヘ又ハ川口ヨリ其上流ヘ魚類進行ノ自由ヲ妨クヘキ漁獵ヲ營ムヲ禁止ス

第五條　稅銀ノ定額ハ左ノ如シ

イ　鮭、鱒、鯡、（鹽漬製）及ヒ鱈（乾製）鯡ノ肥料〆粕、鯡鰾、鮫肉及ヒ鱶翅ニ束把セシ乾昆布各一「プード」（我四貫三百二十目）ニ付露國民ハ露紙幣五哥及ヒ外國人ハ同紙幣七哥トス

ロ　鱈及ヒ鯡油一「プード」ニ付露國民ハ露紙幣十哥外國人ハ同紙幣十六哥トス

但鱈及ヒ鯡油ハ其地方村落或ハ薩哈嗹島各監獄署ニ需用スル分ハ無稅ヲ以テ販賣スルコトヲ許可ス

ハ　鹽漬製ノ鱶筋及ヒ同肉竝ニ煎熬鱶油各一「プード」ニ付露國民ハ露紙幣三哥外國人ハ同紙幣五哥トス

ニ　乾製又ハ其他ニ製造セシ海鼠一「プード」ニ付露國民ハ露紙幣六十哥外國人ハ同紙幣一留トス

ホ　備役者ノ住居竝ニ營業上ノ建物借地料ハ現規ノ儘タルヘシ

ヘ　各種木材ハ定價表ニ基キ徵稅ス其方法下記ノ如シ小屋ノ屋根掛ノ爲メ木皮ヲ剝キタル立樹其上截口太サ四乃至八「ウエルシヨーク」（「ウエルシヨーク」一「アルシン」ハ我曲尺二尺三寸五分）長サ五乃至十「アルシン」（「アルシン」ハ我ハ其根ヨリ伐採スルモ又皮ノミ剝キタルモ同シク三十哥ヲ徵收ス其上截口三「ウエルシヨーク」ヨリ大ナラサル立樹ハ一本ニ付十哥太サ二「ウエルシヨーク」迄ノ樹ハ一本ニ付五哥細木ハ百本ニ付弐

留或ハ一本ニ付貳哥トス

鯡油煎熬ニ用ユル薪木ハ便宜ニ依リ一「サアジエニ」我曲尺七尺立方ヨリ徴收セスシテ之カ爲メ用ユル釜ノ容量ニ基キ其支用ヲ計ルコト左ノ如シ

釜ノ容量十五「ウエドロー」一「ウエドロー」ハ我六升八合餘トシ一日ニ十回焚キ十四日間ニ於テ製造シ得ル〆粕並ニ油ハ概略二百五十「プード」タリトス薪税一「プード」ニ付貳哥ト假定セハ即チ凡ソ五留ト成ル是ニ由テ釜一箇ニ付該額ヲ課税ス暖室用又ハ食物調理用ニ供スル薪木モ同ク便宜ニ由リ一「サアジエニ」ヨリ徴收セスシテ來航ノ傭役夫、水夫、及ヒ船主各一人ニ付營業中露紙幣三十哥ヲ課ス尤モ如何ナル木材ヲ用ユルモ同シ

但大木ヲ伐採シ之ヲ海岸ヨリ輸出スルハ堅ク禁止ス然レトモ怒濤ノ爲メ帆檣ヲ毀損シタル事實アルニ際スレハ之ヲ伐採シ帆檣ヲ取換ユルハ此限ニ非ス如此時ハ其代價ヲ納ムルニ及ハス

第六條　薩島各村落ニ在住スル露國人並ニ土民等ニハ各種ノ業ヲ營ムヲ許可ス而シテ該產物自己需用ノ爲ナレハ税銀ヲ課セス然レトモ若又之ヲ輸出セントセハ該目的ヲ以テ來薩スル露國民ト同一ノ税銀ヲ賦課ス

第七條　營業ノ爲メ來薩スル露國民ハ本島ニ設置セラレタル徒刑村落ノ内ヨリ力役者ヲ雇入レサル可カラス然レトモ若シ徒刑民中ヨリ必用スル丈ケノ人員ヲ得サル場合ニ限リ地方ノ行政處分ヲ以テ露國又ハ外國ノ力役者ヲ船舶ニ搭載シ來薩スルコトヲ許ス

第八條　「カルサコフ」州警察廳ニ於テハ各營業者ヨリ税銀ヲ徴收シ且ツ同業者ヘ其許可書ヲ交附シ之カ監督ヲ司トル而シテ營業終結ノ上ハ薩島長官ニ税額ノ精算書ヲ添ヘ納入シ「ニコラエフスク」州會計局ヲ經由シ國財省ノ豫算トシテ國庫ニ納附ス○同證書ニハ營業ノ種類及ヒ其許可セラレタル場所ヲ明記シアルヘシ

第九條　各船舶ニシテ營業場ヘ出テ行クモノハ日本營業者ヨリ該船鑑札ニ記載アル噸數額ニ二割五分(記載ノ總噸數額ヨリ)ヲ附加徴税ス若シ不漁ニ際スレハ其税ノ總額或ハ其若干部ヲ返附ス斯クノ如キ船舶ノ證書並ニ收獲シタル產物ノ積量ヲ定ムルニハ「カルサコフ」港ニ於テ地方官委員トナリ同港ニ在ル日本副領事館員ノ内一名立會ノ上之ヲ施行ス

第十條　其他ノ營業者ヨリハ產物ヲ積載スル送狀ニ基キ徴收ス

第十一條　來航ノ營業者並ニ其雇夫及ヒ水夫等ハ營業中地方官ニ服從セサルヘカラス而シテ地方ノ徒刑民又ハ土人ノ村落ニ對シ凌辱等ヲ爲スヘカラス萬一地方村落ニ障害ヲ及ス者又ハ現規則ヲ犯ス者又ハ不正ノ貿易ヲ營ム者又ハ不正ノ納税等ヲ爲ス者アリテ之ヲ發覺スル時ハ地方行政ノ權内ニ於テ其營業ヲ禁止ス

第十二條　若シ成規ノ證書ヲ所持セス又ハ指示セサル場所ニ於テ營業シタル時ハ其犯罪者タル外國ノ營業者及ヒ船主ニ對シ記載ノ噸數ニ二倍ノ罰金ヲ賦課シ貨物及ヒ營業道具ヲ沒收シ將來ノ營業及ヒ薩哈嗹島ノ居住ヲ禁止ス若シ又此際營業許可書ヲ贋造セシヲ發覺セハ審判ノ手續ヲ爲シ刑法ノ明文ト現存條約ニ基キ之ヲ裁斷ス露國民ト雖トモ一樣該則ヲ以テ處斷ス但シ罰金ニ至テハ同民ノ爲メニ定メラレタル

税額ニ應シ算出スルモノトス

但產物ヲ海岸ニ殘シ無税ヲ以テ輸出セント企圖シタル船主又ハ營業者モ前記罰金及ヒ沒收ノ手續ニ準シ處分ス如何トナレハ彼等ハ更ニ證書ヲ受領セス又更ニ税金ヲ納メスシテ再ヒ來薩シ得ルヲ以テナリ

露曆一千八百八十九年八月八日本書ヲ確定ス

黑龍政區太守ゲネラルアジユータント男爵コルフ手記

本文ト相違ナキヲ證ス

事務局總理官ツンコフスキー手記

本文ト相違ナキヲ證ス

カルサコフ州警察廳書記生代理ステ、フエリドマン手記

○狩獵規則

明治二十五年十月勅令第八十四號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ狩獵規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

狩獵規則

第一章　獵具獵法

第一條　此規則ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、網繩又ハ撲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ

前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條　爆發物、据銃若クハ危險ナル罠及陷穽ヲ以テ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官東京府下ハ警視總監以下倣之ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條　日出前、日沒後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若クハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條　左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一　御獵場
二　禁獵制札アル場所
三　公道
四　公園
五　社寺境内
六　墓地
七　欄、柵、圍障ヲ設ケ又ハ作物植付アル他人ノ所有地但所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第五條　地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章　狩獵免許

第六條　狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但欄、柵、圍障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス

第三十條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　免狀ヲ分チテ職獵免狀、遊獵免狀トシ更ニ分チテ各甲乙ノ二種トス

職獵免狀ハ生計ノ爲ニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ遊獵免狀ハ遊樂ノ爲ニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ下付スルモノトス

第八條　左ニ揭クル者ハ職獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス
一　判任以上ノ官吏及其待遇ヲ受クル者
二　所得稅ヲ納ムル者
三　地租拾五圓以上ヲ納ムル者
四　所得稅拾五圓以上ヲ納ムル者ノ家族
第九條　免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許料ヲ納ムヘシ
職獵免狀（甲種　金五拾錢
　　（乙種　金壹圓
遊獵免狀（甲種　金五圓
　　（乙種　金拾圓
第十條　甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス
第十一條　免狀ノ使用ハ免許本人ニ限ルモノトス但甲種職獵免狀ヲ有スル者ハ助手トシテ無免狀ノ者三人以下ヲ同伴スルコトヲ得
第十二條　獵者ハ出獵ノ際必ス免狀ヲ攜帶スヘシ
警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢查スルコトヲ得獵區管理人其管理スル獵區內ニ於テモ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢查ヲ拒ムコトヲ得ス
第十三條　免狀ヲ亡失シタルトキハ其地ノ所轄警察署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ屆出ツヘシ
免狀ヲ亡失シ若クハ毀損シタルトキハ其再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手數料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ
第十四條　十六歲未滿ノ者ハ乙種ノ免狀ヲ受クルコトヲ得ス
第十五條　免狀ハ其効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以內ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第三章　獵區設定

第十六條　日本臣民ニシテ獵區ヲ設定セント欲スル者ハ十箇年以內ノ期限ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受クヘシ
獵區ノ設定ニ關スル制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル
第十七條　官有ノ森林、原野、水面ヲ借用シテ獵區ト爲サント欲スル者ハ管轄官廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ
獵區設定ノ場所他人ノ所有ニ係ルトキハ先ツ其所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ受クヘシ
第十八條　一獵區ノ面積ハ千五百町歩ヲ以テ最大限トシ一箇年金拾圓ノ割ヲ以テ免許料ヲ納ムヘシ連續ノ面積最大限ヲ越ユルトキハ其越ユル所百町歩マテ毎ニ一箇年金壹圓ノ割ヲ以テ免許料ヲ增納スヘシ
農商務大臣ハ土地ノ情況ニ因リ前項ノ免許料ヲ低減スルコトヲ得
第十九條　獵區內ニ於テハ免許本人及其承諾ヲ受ケタル者ノ外狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
第二十條　獵區內ト雖モ免狀ヲ有スル者ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス
第二十一條　獵區ヲ廢シ又ハ其區域ヲ減縮スルトキハ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ屆出ツヘシ
第二十二條　農商務大臣ハ免許本人此規則ニ違背シタルトキ若クハ第十六條第二項ノ制限ニ從ハサルトキ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其獵區ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許

ヲ取消スコトヲ得
第二十三條　第二十一條及第二十二條ノ場合ニ於テ既納ノ免許料ハ還付セサルモノトス

第四章　鳥獸保護

第二十四條　左ニ揭クル鳥獸ハ捕獲スルコトヲ禁ス
一　鶴各種
一　燕各種
一　雲雀
一　鶺鴒
一　四十雀（シジュウカラ）
一　日雀（ヒガラ）
一　五十雀（ゴジュウカラ）
一　莖雀（ヨシスヾメ）
一　鶯（ウグヒス）
一　杜鵑（ホトトギス）
一　啄木鳥（キツツキ）
一　鵯（ヒヨドリ）
一　猿（サル）
一　田鼠（ハタネズミ）
一　一歲以下ノ鹿
第二十五條　左ニ揭クル鳥獸ハ三月十五日ヨリ十月十四日マテヲ保護期トシ其期間捕獲スルコトヲ禁ス
一　雉（キヾス）
一　鶸（ヒワ）
一　鶉
一　鴻雁
一　烏各種（カラス）
一　鷄各種（ニハトリ）
一　鵐（ホヽヂロ）
一　鴫各種（シギ）
一　鵯（ヒヨドリ）
一　鶫（ツグミ）
一　鷺各種
一　鳩各種（ハト）
一　鵙（モズ）
一　桐鳥（アヲヾト）
一　秩父（チヽブ）
一　鹿（カノシヽ）
一　羚羊（カモシカ）
一　兎
地方長官ハ土地ノ情況ニ因リ農商務大臣ノ認可ヲ經テ適宜三十日以內前項ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得
第二十六條　第二十四條及第二十五條ニ揭クル鳥獸ト雖モ野鳥同業ノ保護學術研究其他特別ノ理由ニ因リ驅除又ハ捕獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ特ニ其許可ヲ與フルコトヲ得
有害鳥獸ヲ驅除又ハ捕獲スル爲メ必要ト認ムル場合ニ於テハ地方長官ハ特ニ其許可ヲ與フルコトヲ得
第二十七條　捕獲ヲ禁セサル鳥獸ト雖モ特ニ保護ヲ要スルトキハ農商務大臣ハ此規則ニ拘ハラス其捕獲ヲ停止スルコトヲ得
第二十八條　第二十四條及第二十五條ニ揭クル鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若クハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス

第五章　罰則

第二十九條　第六條第一項及第二十條ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ第十四條ニ違背シテ乙種免狀ヲ受ケタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第八條ニ違背シテ職獵免狀ヲ受ケタル者ハ七圓以上七十圓以下ノ罰金ニ處ス（二十五年十一月勅令第九十三號ヲ以テ改正ス）

第三十條　第二條第一項、第三條、第四條第一乃至第六ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其効力ヲ失フモノトス

第三十一條　第四條第七、第十二條第一項第三項、第二十四條、第二十五條第一項、第二十八條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但第四條第七ニ付テハ土地所有者又ハ管理人ノ告訴ヲ待テ處斷ス

第三十二條　第十三條第一項、第十五條、第二十一條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第三十三條　此規則ハ明治二十五年十月十五日ヨリ施行ス但銃器ヲ使用セサル狩獵ノ免許ハ明治二十六年十月十五日ヨリ施行ス

此規則施行以前職獵免狀又ハ遊獵免狀ヲ受ケタル者ハ更ニ免狀ノ下付ヲ要セス引續キ銃獵ヲ爲スコトヲ得但職獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ第八條ニ該當スルトキハ第九條ニ依リ更ニ遊獵免狀ヲ受クヘシ

第三十四條　明治十年一月第十一號布告鳥獸獵規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○狩獵免狀有効期限變更ノ件

明治二十五年十月勅令第八十五號

朕狩獵免狀有効期限變更ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十五年勅令第八十四號狩獵規則ニ定ムル乙種狩獵免狀ノ有効期限ハ本狩獵期ニ限リ明治二十五年十一月十五日ヨリ明治二十六年四月十五日マテトス

○狩獵規則施行細則

明治二十五年十月農商務省令第十三號

狩獵規則施行細則左ノ通定ム

狩獵規則施行細則

第一條　狩獵規則第一條ニ掲クル各種ノ網ハ羆罾、投網、霞網及其他ノ張網、鶴繩ハ流シ鶴、張鶴繩、撲ハ高撲、千本撲トス

第二條　銃器ノ制限ハ銃砲取締規則ノ定ムル所ニ依ル

第三條　狩獵免狀ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ免狀ノ種類及住所族籍職業氏名年齡ヲ詳記スヘシ

前項ノ願書ニハ狩獵規則第三十條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及若シ處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ（明治二十五年十一月農商務省令第十五號ヲ以テ改正）

第四條　狩獵規則第九條ノ免許料ハ狩獵免狀下付ノ際其金額ニ相當スル登記印紙ヲ免狀ノ受領書ニ貼付消印スヘシ

狩獵規則第十三條第二項ニ據リ免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルトキハ其手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第二項ノ登記印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ（同上）

第五條　獵區ヲ設定セント欲スル者ハ年限ヲ定メ願書ニ其地

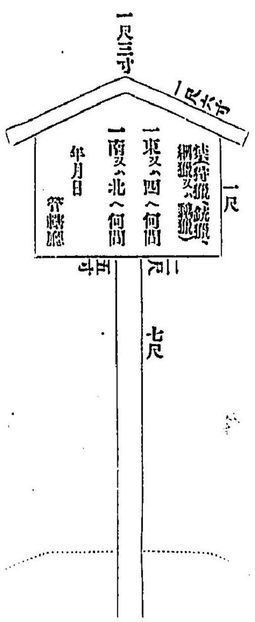
形及面積ヲ記載シタル圖面ヲ添フヘシ其變更ニ係ルトキ亦同シ

獵區設定ノ免許料ハ免許ヲ受ケタルトキ其受書ニ免許年限ニ相當スル總額ノ登記印紙ヲ貼付消印スヘシ（同上）

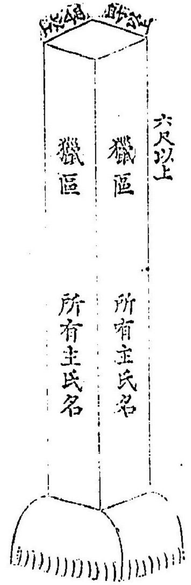
第六條　狩獵免狀ヲ受ケタル者ニシテ族籍氏名ヲ變換シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ地方長官（東京府下ハ警視總監以下倣之）ニ又其移轉ノ地、他ノ管轄廳ニ屬スルトキハ甲乙兩地ノ地方長官ニ三週日以内ニ屆出ツヘシ

第七條　禁獵制札ノ建設ヲ要スル者ハ其理由ヲ詳記シ地方長官ニ出願スヘシ但シ該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第八條　地方長官ニ於テ建設スヘキ禁獵制札ノ雛形左ノ如シ



第九條　獵區ニハ其周圍五十間ヲ超ヘサル距離毎ニ見易キ場所ヲ撰ヒ左ノ雛形ニ依リ木標ヲ建設シ其旨所轄警察署ニ屆出ツヘシ



附則

第十條　從來土地所有者ニ於テ禁獵制札ヲ建設シタルモノハ更ニ地方長官ニ願出テ新制札ノ建設ヲ請フヘシ但シ該建設費ハ出願者ノ負擔トス

第十一條　遊獵免狀ヲ受ケタル外國人ハ條約規程内ニ限リ狩獵スルコトヲ得若シ其規程外ニ於テ狩獵シタルトキハ該免狀ハ爾後無効ノモノトス（同上）

○北海道ニ於テ臘虎竝膃肭獸ノ獵獲ヲ禁ス

明治十七年五月布告第十六號

自今北海道ニ於テ臘虎竝膃肭獸ヲ獵獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十三條ニ照シテ處斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス

○北海道ニ於テ臘虎竝膃肭獸獵出願方

明治二十一年四月農商務省告示第四號

北海道ニ於テ臘虎竝膃肭獸獵ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ北海道廳ヲ經テ當省ヘ願出ヘシ

○北海道ニ於テ鹿捕獲禁止
明治二十五年十一月農商務省令第十六號

鹿ノ捕獲ハ北海道廳管内ニ於テハ明治二十五年第八十四號狩獵規則第二十五條ノ保護期外タリトモ同規則第二十七條ニ依リ當分ノ内之ヲ停止ス

本令ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○所轄官林内有害鳥獸驅除捕獲方
明治二十五年十二月農商務省訓令第三十七號

所轄官林内ニ於テ有害鳥獸ノ驅除捕獲ヲ必要ト認ムル場合ハ勅令第八十四號狩獵規則第二十六條及當省訓令第二十八號本則取扱手續第一條及第二條ニ準據シ地方廳ノ承認ヲ得タル上部下ノ吏員ヲシテ驅除捕獲方實施セシメ其驅除捕獲シタル鳥獸ノ名稱及ヒ員數ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ纏メ地方廳ヘ報告スル儀ト心得ヘシ

○北海道三重縣宮崎縣御料地ハ掛官吏ノ銃獵ヲ許ス
明治二十三年八月農商務省訓令第四十三號

北海道廳管下御料局札幌支廳三重縣下同度會郡務所宮崎縣下同諸縣事務所々轄御料地内ニ限リ宮内省掛官吏ニ鑑札ヲ渡證キ巡視ノ際猛獸ノ害ヲ防キ又ハ有害ノ鳥獸ヲ除ク爲メ九月一日ヨリ右銃獵ヲ差許セリ

但鑑札雛形ハ本年三月本省訓令第十九號ノ通リ

○北海道鹿獵規則
明治十一年六月開拓使乙第二十號布達

明治九年十一乙第十一號布達當「使」管内鹿獵規則別紙ノ通改正候條此旨布達候事

北海道鹿獵規則（別紙）

鹿ハ北海道物産ノ一ニシテ其利タル尠シトセス然ルニ從來獵法制限ナキニ因テ妄獵濫殺繁殖ノ法ヲ缺クノミナラス自然其種ヲ減シ其價ヲ落シ人民モ亦遂ニ其利ヲ失フニ至ラントス故ニ之ヲ保護シ永ク其利ヲ失ハサラシメンカ爲茲ニ規則ヲ設クルコト左ノ如シ

第一條　免許鑑札ナクシテ鹿獵ヲ爲スハ自今之ヲ禁ス

第二條　鹿獵志願ノ者ハ左ノ書式ニ照準シ地方廳「札幌本廳及ヒ函館根室兩支廳ヲ以下ヘ倣フ」ヘ願書差出シ免許鑑札ヲ受ク可シ

第三條　鑑札ヲ受クルニハ獵獵ハ一枚ニ付金五圓ツヽ獵銃ヲ納ムヘシ

但蓧蝦夷人ノ職獵ハ當分納稅ニ及ハス

第四條　獵者ノ員ハ年々札幌「本廳」管内職獵五百名遊獵三十名函館「支廳」管内職獵百名遊獵十名根室「支廳」管内職獵百三十名（内三十名冬遊獵十名内五名冬獵五名冬獵ト定メ滿員ノ後願出ル者ヘハ鑑札ヲ與ヘス（十一年開拓使乙第二十一號布達ヲ以テ根室支廳管内職獵冬獵員ヲ改ム）

但シ十勝國及釧路國一圓並ニ跨振國勇拂郡植苗村字美々ヨリ四方ヘ四里ツヽハ鹿種繁息ノ爲メ該地在籍蕃土人ノ外ハ當分出獵スルコトヲ許サス（十三年三月開拓使上「但書改正」）

第五條　免許鑑札ヲ受ケタル者ト雖モ毒矢ヲ以テ獵殺スルヲ禁ス

第六條　鑑札ハ一期限ノミ効アリトス且一己ノ用ト爲スヘキモノニシテ貸借賣買讓受スルヲ禁ス

第七條　獵業ハ根室國一圓並北見國ノ内網走紋別常呂斜里ノ四郡ハ五月一日ヨリ十月三十一日マテ其他ハ九月一日ヨリ翌年二月二十八日（閏年ハ二十九日）マテヲ一期限トシ右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス

但免許鑑札ハ毎年三月五日限リ最初受取タル地方廳ヘ返納スヘシ

第八條　鑑札ヲ與フヘカラサルモノ及ヒ銃獵禁制ノ場所ハ鳥獸獵規則第七條同第八條ノ通リタルヘシ

第九條　此規則ヲ犯ス者ノ罰則等ハ總テ鳥獸獵規則第十四條ヨリ第十七條マテノ通タルヘシ

（願書式略之）

○臘虎竝臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則
明治十九年十二月勅令第八十號

臘虎竝臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臘虎竝臘肭獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條　明治十七年第十六號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵場區域内ニ於テ臘虎幷ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スヘシ

但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帶シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲セントコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二條　臘虎幷ニ臘肭獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルトキハ獵船ノ名、噸數、乘組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メタル徽章ヲ當ニ船檣又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲クヘシ

第三條　臘虎幷ニ臘肭獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第二條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印（烙印ヲ用ユルモ妨ナシ）ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第四條　前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎幷ニ臘肭獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若クハ船舶ニ積載シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルトキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押ヘ直ニ告發スヘシ

但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎幷ニ臘肭獸ノ生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若クハ本邦在留露國及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國内ニ輸入スルコトヲ得

第三章　諸業組合

○鱒種檢查規則
明治十九年八月農商務省令第九號

鱒種微粒子病（一名黑癍病）豫防ノ爲メ鱒種檢查規則左ノ通相定メ原種ノ檢查ハ明治二十年檢查期ヨリ施行シ製絲用種ノ檢查ハ同二十一年檢查期ヨリ施行ス

鱒種檢查規則

第一條　凡ソ鱒種ヲ製造シ又ハ鱒種ヲ販賣セントスル者ハ管

轉廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ

第二條　蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其檢査ヲ受クヘシ

第三條　檢査證印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第四條　蠶種檢査所ハ管轄廳ニ於テ管內便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ

但地方ノ狀況ニ由リ巡廻檢査ヲナスモ妨ケナシ

第五條　蠶種檢査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ

但檢査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　春蠶種ノ檢査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ檢査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス

第七條　蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ檢査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ屆出ツヘシ

第八條　蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種（販賣用種ノ製造ニ用フルモノヲ云フ）ト製絲用種トニ區別シテ檢査所ニ差出スヘシ

第九條　病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ檢査證印ヲ付シ其以上ニ及フモノニハ都テ廢棄證印ヲ付スルモノトス

第十條　廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス

第十一條　蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢業スルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ屆出テ鑑札ヲ返納スヘシ

但寄留若クハ轉籍地ニ於テ營業セントスルトキハ第一條ニ據ルヘシ

第十二條　第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○蠶種檢査規則中蠶ノ原種製絲用種ノ檢査施行延期

明治二十一年三月農商務省令第二號

明治十九年省令第九號蠶種檢査規則中春蠶ノ製絲用種夏蠶秋蠶（夏期及秋期ニ飼育スルモノ）ノ原種及製絲用種ノ檢査ハ當分其施行ヲ延期ス

但施行ノ期限ハ追テ之ヲ告示スヘシ

○蠶絲業組合準則

明治十八年十一月農商務省達第四十一號

蠶絲業組合準則左ノ通相定候該準則ニ基キ組合爲相立其規約認可ノ上取締所ニ係ルモノハ當省ヘ可屆出此旨相達候事

蠶絲業組合準則

第一條　蠶絲業ニ從事スルモノハ郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但自用ノミニ供スル者ハ此限ニ非ス

第二條　組合ノ名稱ハ何府縣下何郡區町村蠶絲組合ト稱スヘシ

第三條　組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項　繭ハ春夏秋若クハ黃白ノ種類又ハ大陽殺蒸殺燥殺等混淆シタルモノヲ賣買セサル事

第二項　製絲ニ最モ良好ナル種類ヲ育養スル事

第三項　桑樹ノ栽培蠶兒ノ養法ヲ全良ナラシムル事

第四項　繭ノ貯藏法ヲ完全ナラシムル事

第五項　蠶卵ノ檢査法ヲ設ケ蠶病ヲ豫防スル事

第六項　繭荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第七項　一梱ハ勿論一綛若クハ一把中良否混淆等ノモノヲ製造販賣セサル事

但等級ヲ區分シテ一梱トナシタルモノハ此限ニアラス

第八項　生絲ノ製造及結束ニ不正ノ重量ヲ付シ賣買セサル事

第九項　綾取アル揚簍ヲ用ヒ尺度ヲ一樣ナラシムル事

第十項　生絲ノ結束及綛ノ量目ヲ一樣ナラシムル事

第十一項　提造島田折返造等ノ生絲ヲ揚返サスシテ其儘改造賣買セサル事

第十二項　生絲檢査法ヲ設ケ其精粗ヲ監別シ及ヒ製造上ノ弊害ヲ矯正スル事

第十三項　生絲荷造ノ上ハ其組合ノ名稱及製造者若クハ取扱人ノ姓名ヲ記入シタル標章ヲ付シ賣買スル事

第四條　各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條　組合員ハ必其組合ノ證票ヲ携帶スヘシ但證票ニハ管轄地方廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　組合委員ハ時々組合內ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條　各府縣下便宜ノ地ニ取締所ヲ置キ各組合ヲ統轄シ組合規約ノ實施ヲ監査スヘシ

第八條　取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互選スヘシ

第九條　組合及取締所ニ關スル費用收支ハ各組合員集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條　全國中便宜ノ地ニ蠶絲組合中央部ヲ設ケ各地方蠶絲組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ

第十一條　蠶絲組合中央部ノ規約ハ當省ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　蠶絲組合中央部ノ役員ハ各地方蠶絲組合取締所ノ役員中ヨリ互選スヘシ

但時宜ニヨリ役員外ノ者ト雖モ之ヲ選擧スルヲ得

第十三條　蠶絲組合中央部ノ費用收支ハ各地蠶絲組合取締所役員ノ集議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十四條　右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クル事ヲ得

○蠶絲組合並取締所設置期限

明治十八年十二月農商務省達第四十八號

本年當省第四十一號達蠶絲組合並取締所ノ儀ハ來十九年三月三十日限リ設置爲致ヘシ

○蠶種檢査規則取扱手續

明治十九年八月農商務省訓令第十四號

當省令第九號蠶種檢査規則取扱手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

蠶種檢査規則取扱手續

第一項　蠶種檢査規則第一條ニ據リ下付スヘキ鑑札ハ製造鑑札ト販賣鑑札トニ區別スヘシ

第二項　販賣鑑札ハ輕便ナルモノヲ用ヒ販賣ノ爲外出スル時ハ之ヲ携帶セシムヘシ

第三項　檢査所ハ可成郡役所戶長役場ノ一部ヲ以テ之ニ充テ經費ノ節減ヲ旨トスヘシ

第四項　蠶種ノ產額多カラスシテ製造者各地ニ散在スル地方ニ於テハ蠶種檢査規則第四條但書ニ據リ便宜巡回檢査ノ法ヲ設クヘシ

第五項　檢查員ハ蠶業ニ熟達セルモノヲ選用シ其氏名及ヒ履歷書ヲ當省ニ届出ツヘシ

第六項　原種ヲ檢查スルニハ蠶種ノ全面ヲ撫摩シテ卵子百粒許ヲ取リ其中ヨリ惡キモノ五十粒ヲ撰ヒテ之ヲ十分シ其一分毎ニ之ヲ小乳鉢ニ盛リ苛性加里ノ稀薄液一滴ヲ加ヘテ能ク之ヲ磨碎シ其液ヲ顯微鏡ニ照シテ四隅及ヒ中央テ丁寧ニ視察シ之ヲ一回ノ檢察トス）毎鏡而微粒子ノ有無ヲ檢シ左表ニ據リ病毒ノ歩合ヲ定ムヘシ

（表略ス）

○茶業組合規則

明治二十年十二月農商務省令第四號

茶業組合規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

但十七年三月第四號達茶業組合準則ハ廢止ス

茶業組合規則

第一章　總則

第一條　此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條　茶業者ハ製品ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ

但自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨ナシ

第三條　組合ノ設置ハ郡區ノ區畫ニ依ルヘシ若シ一郡區内ニ於テ茶業者小數ナルトキハ近隣郡區ノ同業者ト合併スルコトヲ得

第四條　郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者トヲ區別シテ組合ヲ設クルノ必要アルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　組合ノ名稱ハ何府縣何郡區茶業組合ト稱スヘシ

第六條　組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條　組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設クヘシ（二十三年二月十七日農商務省令第三號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

第八條　組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其義務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條　組合及聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ（二十五年三月省令第五號ヲ以テ改正）

但二府縣以上ノ組合員全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設クルノ必要アルトキハ其規約ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ（二十三年一月農商務省令第一號ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第二章　組合員

第十條　組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條　組合員ハ組合及會議所ノ規約竝ニ府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約ヲ遵守シ且費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス（同上）

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條　社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表

人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責ニ任セシムヘシ

第三章　役員

第十三條　各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

但組長ヲ選任又ハ改選シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ヲ選任又ハ改選シタルトキハ其郡度届出ツヘシ（同上ヲ以テ更正）

第十四條　組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條　組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條　組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ仲裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條　（二十二年三月十五日農商務省令第五號ヲ以テ削除ス）

第十八條　聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條　聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條　聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議ニ列スルコトヲ得

第二十一條　中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條　中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員中ヨリ定員倍數ノ候補者ヲ選定シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ（同上ヲ以テ更正）

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ選擧スルコトヲ得

第二十三條　中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第二十四條　役員ノ任期ハ二箇年トス若シ役員其任ニ適セサルトキハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ

但補闕役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニ依ルヘシ（同上ヲ以テ本條挿入）

第四章　會議

第二十五條　會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

但中央會議定時會ノ會期ノ二週日以内臨時會ノ會期ハ一週日以内トス若シ會期ヲ延長スルノ必要ヲ生シタルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ（二十五年十月農商務省令第十四號ヲ以テ但書追加）

第二十六條　聯合會議ノ事務員ハ會議ニ於テハ會議所在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十七條　聯合會議ノ議員ハ部下各組合員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議々員之ヲ選定スヘシ

第二十八條　中央會議ノ議員ハ三年以上繼續シテ左ノ資格ノ一ニ該當シ仍引續キ該當スル者ニ限ル

一　茶園一町歩以上ヲ所有シ栽培スルコト

一　製茶五千斤以上ヲ製造スルコト
一　製茶二萬斤以上ヲ賣買スルコト

第二十九條　前條ノ資格ニ該當スル者ナキ地方ニ於テハ其資格ニ最モ近キ者ヲ選出スヘシ（二十五年三月省令第五號ヲ以テ前條本條共挿入）

第三十條　聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額又ハ開港地ヘ輸送額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ（二十四年三月五日農商務省令第二號ヲ以テ本條中ヲ追加ス）

第三十一條　議員ノ任期ハ二箇年トス補闕議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ルヘシ（同上）

第三十二條　會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十三條　會議ノ正副議長及議員ノ氏名竝ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第三十四條　農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第三十五條　會議ハ議員半數以上出席セサレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス

但議員半數以上ノ闕席三日以上ニ渉ルトキハ半數以内ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第三十六條　議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章　規約

第三十七條　各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ準據シ之ヲ定ム

一　違約者處分ノ方法
一　經費賦課徴收支出ノ方法
一　其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十八條　聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一　聯合會議所ノ位置
一　製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法
一　製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法
一　部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法
一　聯合會議議員及ヒ事務員選擧ノ方法
一　聯合會議ニ關スル規程
一　違約者處分ノ方法
一　經費賦課徴收支出ノ方法
一　其他地方ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十九條　中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一　中央會議所ノ位置
一　全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法
一　内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法
一　組合ノ位置
一　組合員ノ證票
一　粗惡不正茶取締ノ方法
一　役員選擧ノ方法
一　組合入退社取扱ノ方法
一　中央會議々員及ヒ事務員選擧ノ方法
一　中央會議ニ關スル規程
一　經費賦課徴收支出ノ方法

一　其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第六章　罰則

第四十條　此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○茶業組合及會議所設置規約議定ノ期限

（明治二十一年一月農商務省訓令第二號）

明治二十年十二月農商務省令第四號ニ據リ設置スヘキ茶業組合及會議所ハ本年二月二十九日マテニ之ヲ設ケ其規約ヲ議定セシムヘシ

○製茶産額僅少ノ府縣ハ茶業組合規則ノ施行ヲ停止スルコトヲ得

（明治二十二年七月農商務省令第七號）

一府縣管内製茶産額僅少ニシテ明治二十年十二省令第四號茶業組合規則ヲ施行シ難キ狀況アリト認メタルトキハ其府縣ニ限リ該規則ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ別ニ告示ヲ以テ其府縣ヲ指定ス

但組合ノ設ケナキ府縣ノ茶業者組合ノ設ケアル府縣ニ於テ茶ヲ製造シ又ハ販賣スルトキハ其府縣ノ組合規約ヲ循守スヘキモノトス

○茶業組合規則施行停止ノ地方

（明治二十二年七月農商務省告示第六號）

明治二十二年七月當省令第七號ニ據リ左ノ縣下ニ茶業組合規則ノ施行ヲ停止ス

群馬縣　山梨縣　長野縣　福島縣　宮城縣　靜岡縣
青森縣　秋田縣　山形縣　香川縣　沖繩縣

○同業組合準則

（明治十七年十二月農商務省達第三十七號）

同業者組合ヲ結ヒ規約ヲ定メ營業上福利ヲ增進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不便候處往々其目的ヲ達スルコト能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ作リ認可ヲ請フ者アルトキハ此準則ニ基ツキ可取扱此旨相達候事

但認可ノ都度當省ニ届出ツヘシ

同業組合準則

第一條　農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設クントスルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作リ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ

第二條　同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ以テ目的ト爲ス可シ

第三條　同業組合ノ規約ニ揭クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項　組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱
第二項　組合ノ地區及事務所ノ位置
第三項　目的及方法
第四項　役員ノ選擧法及權限
第五項　會議ニ關スル規程
第六項　加入者及退去者ニ關スル規程
第七項　費用ノ徴收及賦課法

第八項　違約者處分ノ方法
右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項
第四條　組合ノ設ケル地區內ニ於テ組合員ト同業ヲ營ム者ハ其組合ニ加盟スヘシ
但事業ノ規模及趣向ヲ異ニスルカ爲メ加盟シ難キカ或ハ加盟ヲ拒ムヘキ事情アルトキハ管轄廳ニ申出テ其認定ヲ請フ可シ
第五條　同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス
第六條　同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告ス可シ
第七條　規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フ可シ
第八條　分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作リ認可ヲ請フ可シ
第九條　同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フ可シ
但其聯合二府縣以上ニ渉ルトキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フ可シ

○同業組合準則適用方

明治十八年八月農商務省達第三拾五號

客歲十一本省達第三十七號同業組合準則ハ專ラ管下重要物産ノ改良蕃殖ニ關スル農商工業者ノ組合ニ限リ適用スル儀ト可心得此旨更ニ相達候事

第四章　特許　意匠　商標

○特許條例

明治二十一年十二月勅令第八十四號

廢特許條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

特許條例

第一條　新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得
特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ
第二條　左ニ揭クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　飮食物嗜好物
二　醫藥並其調合法

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得」

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス
第九條　特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス
第十條　特許ヲ受ケタル發明ト雖モ左ニ揭クルモノハ其特許ヲ無効トス

一　新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ
二　第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ
三　發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシコトヲ發見セラレタルモノ

四　發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ
第十一條　特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ
第十二條　前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ
第十三條　特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト牴觸シ又ハ他人ノ特許發明ト牴觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其牴觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ
關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシ其審定書ヲ關係人ニ送付スヘシ
第十四條　前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ルコトヲ得ス
第十五條　第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得
第十六條　特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト牴牾スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得
第十七條　特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得
第十八條　審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ
第十九條　特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス
第二十條　第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得
第二十一條　第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス
第二十二條　特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受クサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス
第二十三條　特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス
第二十四條　特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一　特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ
二　特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ
三　特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ黙許シタルトキ

第二十五條　特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條　特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條　特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條　特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　特許ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ金五圓

二　特許ノ賣與讓與其有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ　一發明毎ニ金三圓

三　特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ　證書一枚毎ニ金壹圓

四　特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ金五圓

五　審判ヲ請求スルトキ　一事件毎ニ金七圓

第三十一條　特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

一　五年ノ特許　金拾圓

二　十年ノ特許　金拾五圓

三　十五年ノ特許　金弐拾圓

第三十二條　特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條　特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ謄寫ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三十四條　特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條　他人ノ特許品ヲ僞造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ僞造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ前項ニ同シ

第三十七條　前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第三十八條　詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受クタル者又ハ特許ヲ受クサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ一圓以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條　特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條　被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以內ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條　明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受クタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受クタル特許ト同一ノ効アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

○特許條例施行細則

明治二十五年十一月農商務省令第十七號

明治二十二年八月農商務省令第一號特許條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

特許條例施行細則

第一章　總則

第一條　凡ソ特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通ヲ作リ之ニ差出ノ年月日及ヒ差出人ノ氏名身分職業及ヒ住所ヲ記載シ明細書及ヒ圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ

審判請求書、始末書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ニハ正本ノ外關係人又ハ對手人ノ員數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第二條　書類ハ字體ヲ明瞭ニ認メ文字ヲ改竄スヘカラス若シ挿入削除又ハ欄外ノ記入アルトキハ之ニ捺印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ字體ヲ存シ其數ヲ欄外ニ記載スヘシ

第三條　書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルトキ若クハ之ニ關シテ照會ヲ要スルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以內ニ訂正改造若クハ回答テナサシムヘシ

第四條　差出人ニ於テ書類、圖面、雛形等ニ不完全又ハ不明瞭ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ其訂正若クハ改造ヲ出願スルコトヲ得

前項ノ出願要部ニ變更ヲ生スルトキハ之ヲ許可セス

第五條　審判請求書、始末書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長(又ハ審判長)ハ其訂正書ヲ關係人又ハ對手人ニ送付スヘシ

第六條　已ムヲ得サル事故ノ爲メニ此細則ニ定メタル期限内ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲シ難キトキハ其事由ヲ記載シ口頭審判ノ期日ニ係ルトキハ對手人ノ連署ヲ以テ期限内ニ延期請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ヲ相當ト認メタルトキハ特許局長（又ハ審判長）ハ六十日以内ニ於テ更ニ期限ヲ定メ之ヲ差出人及ヒ關係人若クハ對手人ニ通知スヘシ

第七條　出願人此細則ニ定メタル期限又ハ特許局長（又ハ審判長）ノ定メタル期限内ニ成規若クハ指定ノ手續ヲ爲サヽルトキハ其出願ヲ無効トス

審判請求書、始末書、延期請求書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辯書及ヒ訂正書ハ前項ノ期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス

第八條　審判請求書、始末書、抵觸若クハ審判ニ關スル答辯書ニハ主張ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第九條　書類、圖面、雛形及ヒ見本ハ證據物トシテ差出シタルモノヽ外其下戻ヲ求ムルコトヲ得ス

第十條　出願人、請求人、關係人又ハ對手人ニ於テ代人ヲ使用スルトキハ委任狀ヲ添ヘ其旨ヲ屆出ツヘシ

代人ヲ不適當ト認メタルトキハ特許局長（又ハ審判長）ハ農商務大臣ノ認可ヲ經更ニ代人ヲ選定セシムルコトヲ得

第十一條　特許年限ノ變更ハ特許ヲ與ヘタル後ニ於テ之ヲ許サス

第十二條　特許ノ登錄、改訂、取消、無効及ヒ削除其他特許ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章　特許出願

第十三條　特許願書ハ第一號乃至第三號書式ニ從ヒ之ヲ作リ特許條例第三十條第一號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼附スヘシ

第十四條　出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニヲ特許證ヲ受ケントスルトキハ特許願書ニ其旨ヲ附記シ、特許條例第八條ノ改更發明ニ係ルトキハ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ得ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添フヘシ

第十五條　特許願書ト同時ニ明細書又ハ圖面ヲ差出シ難キトキハ先ツ願書ノミヲ差出シ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得

願書ニ後レテ明細書又ハ圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第十六條　特許願書及ヒ明細書、圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第十七條　特許願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニヲ特許證ヲ受ケントスル者ハ特許原簿登錄以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章　明細書、圖面雛形及ヒ見本

第十八條　明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　發明ノ名稱

發明ノ性質及ヒ目的ニ從ヒ其種類ヲ表示スルニ足ルヘキ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス

二　發明ノ性質及ヒ目的ノ要領

三　圖面アルトキハ其略解

圖面ノ位置、視點及ヒ符號ヲ以テ示シタル部分ヲ明記スルヲ要ス

四　發明ノ詳細ナル說明

普通ノ知能ヲ以テ發明ヲ實施スルニ妨ケナカラシムル爲メ發明及ヒ其實施ニ必要ナル事項ヲ詳細ニ圖面アルトキハ之ニ對照シテ說明シ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス

五　改更發明ニ係ルトキハ其原發明トノ關係

原發明ト改更發明トノ區別、二者結合ノ要點及ヒ二者相須テ生スヘキ作用ヲ明確ニ記載スルヲ要ス

六　特許ノ請求區域

發明ヲ構成スルニ闕クヘカラサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第十九條　明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ左ノ場合ニ限ルヘシ

一　特許權利ノ範圍ヲ明示スル爲メ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スルトキ

二　特許權利ノ存スル所ヲ明確ナラシムル爲メ同一發明又ハ發明ヲ構成スル新規ナル部分ヲ數樣ニ記載スルトキ

第二十條　圖面ニハ發明ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示シ改更發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ト改更發明トノ關係ヲ示スヘシ

第二十一條　雛形及ヒ見本ハ發明ニ必要ナル部分ノミニ付キ金屬又ハ木材等ヲ用ヒテ堅牢ニ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以内トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

但特許出願ノ發明、物質ニ係ルトキ又ハ特許局長ノ認可ヲ經若クハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第二十二條　特許證主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第二十三條　雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲナサヽルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章　審査

第二十四條　審査ハ左ニ記載スル願書ノ外發明ノ種類ニ依リ願書ノ順號ニ從テ之ニ著手スヘシ

一　特許條例第七條ニ該當スル特許願書

二　同條例第二十六條ノ改訂願書

三　同條例第二十七條ノ削除願書

第二十五條　左ニ記載スルモノハ新規有益ノ發明トナスコトヲ得ス

一　發明以前公ニ知ラレタルモノ

二　特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ

但特許ニ依リ公ニ用ヒラレタルモノハ新規ナルコトヲ妨ケス

三　發明ノ目的ニ於テ新ナル好結果ヲ生シ得ヘカラサルモノ

第二十六條　左ニ記載スル出願ハ其發明、新規有益ナルモ特許ヲ與フヘカラサルモノトス

一　特許條例第二條第一號又ハ第二號ニ該當スルモノト認メラルル出願

二　特許條例第十條第三號又ハ第四號ノ事實アルモノト認メラルル出願

第二十七條　改良發明トシテ特許ヲ與フルハ特許發明ノ請求區域ヲ利用シテ更ニ發明ヲ加ヘ同一目的ニ於テ好結果ヲ生スヘキモノニ限ル

第二十八條　審査上發明ノ雛形若クハ見本ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以內ニ之ヲ差出サシムヘシ

第二十九條　審査上發明ノ試驗ヲ必要トスルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ出願人ヲシテ其試驗ヲナサシムルコトヲ得

第三十條　特許ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　願書ノ順號

二　發明ノ名稱

三　出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所

四　特許請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領

五　拒絕ノ理由

明細書ニ對照シ正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スヘシ若シ第十九條ニ依リ請求區域ヲ二項已上ニ分

テ初査定トナシ前査定ヲ取消スヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其事由ヲ出願人ニ通知スヘシ

第三十四條　特許條例第十五條ニ依リ審判ヲ請求シタル場合ニ於テ拒絕ノ理由ヲ不當ナリトスル審決アリタルトキハ特許局長ハ更ニ審査ノ手續ヲナスヘシ

前項ニ依リ審査ヲナストキハ再ヒ同一ノ理由ヲ以テ其特許ヲ拒絕スル査定ヲナスコトヲ得ス

第五章　牴觸

第三十五條　發明ノ牴觸ハ左ノ區別ニ依リ特許ノ請求區域ニ同一ノ項目アルトキニ限リ生スルモノトス

但第十九條ニ依リ明細書ニ分載セサル部分及ヒ第六十條ニ依リ權利ノ放棄ト見做スヘキ部分ニ付テハ牴觸ヲ生セス

一　二箇以上ノ特許出願ニ係ル發明

二　特許出願ニ係ル發明及ヒ特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明

三　二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明

四　改訂出願ニ係ル發明及ヒ特許發明

第三十六條　牴觸ノ審査ハ牴觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ著手スヘシ

牴觸ノ審査結了已前審査官ニ於テ牴觸事項ノ發明ニアラサルコトヲ發見シタルトキハ牴觸ノ審査ヲ中止ス

第三十七條　特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ニシテ單ニ第十九條ニ依リ分載セサル爲メ他ノ特許出願ニ係ル發明ノ請求區域ト牴觸セサル場合ニ於テハ特許局長ハ出願人ニ其旨ヲ照會シテ明細書ヲ訂正スルト否トヲ回答セシムヘシ

第三十八條　牴觸ノ告知書ハ牴觸ノ部分ヲ明示シタル理由書ト共ニ之ヲ關係人ニ送付スヘシ

關係人前項ノ告知書及ヒ理由書ヲ受取リタルトキハ六十日以內ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出スヘシ此期限內ニ差出サヽルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ已前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ爭フコトヲ得ス

第三十九條　關係人、始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ他ノ關係人ニ送付シ三十日以內ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

關係人、答辯書ヲ差出シタル後審査上關係人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尙ホ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十條　發明ノ牴觸ヲ解除セントスル者ハ牴觸ノ審査結了已前ニ其牴觸ニ係ル特許又ハ願書ノ取消若クハ發明ノ牴觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其牴觸ヲ解除シ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四十一條　始末書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　牴觸ノ番號

二　牴觸發明ノ名稱

三　關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所

四　事實上ノ陳述

發明ヲ考案完成シタル事實、年月日及ヒ其發明ヲ圖面、雛形又ハ見本ニ作リタル事實、年月日ヲ明確ニ記載スルヲ要ス

五　事實上主張ノ證明
六　差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
七　年月日

第四十二條　抵觸ニ關スル答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　抵觸ノ番號
二　抵觸發明ノ名稱
三　關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
四　答辯ノ要旨
五　事實上ノ辯論
六　事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出タル證據方法ニ對スル陳述
七　差出人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
八　年月日

第四十三條　抵觸ノ査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　抵觸ノ番號
二　抵觸發明ノ名稱
三　關係人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
四　關係人ノ陳述ノ要領
五　査定ノ理由
正確ナル證據ニ基キ適切ニ且明確ニ記載スルヲ要ス
六　査定主文
七　査定ヲナシタル審査官ノ官氏名
八　年月日

第六章　審判

第四十四條　審判ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ請求書ヲ作リ特許條例第三十條第五號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ再査定書又ハ抵觸査定書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

一　請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
二　係爭事件ノ表示
三　請求ノ要旨
四　事實上若クハ法律上ノ辯論
五　事實上主張ノ證明
六　請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
七　年月日

第四十五條　審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ三十日以内ニ答辯書ヲ差出サシムヘシ

對手人答辯書ヲ差出シタル後尚ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ヲナサシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲナスヘシ

第四十六條　答辯書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　審判ノ番號
二　請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
三　係爭事件ノ表示
四　答辯ノ要旨
五　事實上若クハ法律上ノ辯論
六　事實上主張ノ證明又ハ對手人ノ申出タル證據方法ニ對スル陳述

七　請求人若クハ被請求人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
八　年月日

第四十七條　審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サントスルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ申出アリタルトキハ審判長ハ其旨ヲ對手人ニ通知スヘシ

第四十八條　對手人答辯書ヲ差出シタル後審判ノ請求ヲ取消シタル者ハ審判入費ヲ負擔スヘシ

但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス

第四十九條　審判ハ書類及ヒ口頭ノ二種トス

第五十條　口頭審判ハ請求人及ヒ被請求人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲナス

第五十一條　口頭審判ヲナストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ請求人及ヒ被請求人ニ通知スヘシ

第五十二條　請求人若クハ被請求人成規又ハ指定ノ期限内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ辯論終結ト見做シ又第五十一條ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘審判ヲ終結スルコトヲ得

第五十三條　審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ノ謄本ヲ作リ之ニ局印ヲ捺シ請求人及ヒ被請求人ニ送附スヘシ

口頭審判ノ場合ニ於テハ尚ホ之ヲ言渡スヘキモノトス

第五十四條　審決書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　審判ノ番號
二　請求人被請求人及ヒ其代人ノ氏名身分職業及ヒ住所
三　請求人及ヒ被請求人ノ陳述ノ要領
四　審決ノ理由
明細書ニ對照シ査定書アルトキハ其査定書ニ對照シ適切ニ且ツ明確ニ記載スルヲ要ス
五　審決主文
六　審判ヲナシタル審判官ノ官氏名
七　年月日

第七章　特許

第五十五條　特許條例第四條ニ依リ特許ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ特許料納付用紙ヲ添ヘ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受クタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面各二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ

第五十六條　出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ其發明ヲ特許原簿ニ登錄シ同時ニ其旨ヲ出願人ニ通知シテ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ

前項特許料ノ納付、執務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第五十七條　特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ付キ協議セシムヘシ

前項ノ協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認メタル報酬ノ種類、數額、方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ又特許原簿ノ登錄ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第五十八條　特許證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ特許原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附トナス

第五十九條　特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及ヒ特許ノ年限ヲ標記スヘシ

第六十條　特許證主第十九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第六十一條　特許ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ特許證主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第八章　賣與、讓與、共有及ヒ書入

第六十二條　特許條例第二十二條ニ依リ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受クントスル者ハ第五號若クハ第六號書式ニ從ヒ請求書ヲ作リ特許條例第三十條第二號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登錄シ契約書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ特許證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第六十三條　賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル屆書ニ特許證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ特許證ニ裏書ノ上之ヲ特許證主ニ返付スヘシ

第六十四條　共有ニ屬スル特許ヲ賣與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ其登錄ヲナササルヘシ

第九章　再下付願

第六十五條　特許條例第二十五條ニ依ル再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作リ同條例第三十條第三號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六十六條　第六十五條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル特許證ヲ下付スヘシ

第十章　改訂及削除願

第六十七條　特許條例第二十六條ニ依ル特許證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

一　特許權利ニ關係ナキ說明又ハ圖面ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキ

二　請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタルトキ

三　過テ自己ノ發明ニ係レル範圍ヲ超過シテ特許權利ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ

四　特許權利ノ範圍ヲ擴張スルコトナク一箇ノ特許證ヲ分離シテ數箇ノ特許證トナスコトヲ必要トスルトキ

第六十八條　改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作リ特許條例第三十條第四號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書若クハ改訂圖面ヲ添ヘ現特許證及ヒ附屬ノ明

細書、圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第五十五條及ヒ第五十六條ノ手續ニ依リ其旨ヲ特許原簿ニ附記シ改訂特許證ヲ返付スヘシ

第六十九條　改訂特許證ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第七十條　特許條例第二十七條ニ依ル明細書ノ削除願ハ第十九條ニ從ヒ分戴シタル請求區域ノ項目ヲ刪滅シ特許權利ノ範圍ヲ一部放棄セントスル場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

第七十一條　削除願書ハ第十號書式ニ從ヒ之ヲ作リ特許條例第三十條第四號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ特許證ヲ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ヲ附記シ特許證ニ裏書ノ上之ヲ出願人ニ返付スヘシ

特許願（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

第一號書式（用紙竪長ニ十五字詰第一號ニ準ス）

一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

右ハ別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械、製造品、合成物）ニシテ何年何月何日私（私共）ノ完成シタル發明ニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

本籍（及現住所）

身分、職業

發明者　氏名　印

年月日

農商務大臣（爵）氏名殿

特許願（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

第二號（他人ノ特許發明ヲ改良シ特許ヲ願出ルトキ）

一何々ノ改良（原發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

右ハ別紙明細書ニ記載スル通何某所有第何號特許證ノ何々（原發明ノ名稱）ノ發明ニ就キ私（私共）ニ於テ改良ヲ加ヘ何年何月何日完成シタルモノニ有之特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度特許證主ノ承諾書（特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハサルニ付其事由書）ヲ添ヘ此段相願候也

本籍（及現住所）

身分、職業

發明者　氏名　印

年月日

農商務大臣（爵）氏名殿

特許願（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

第三號（相續者ヨリ特許願出ルトキ）

一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）

右ハ何年何月何日亡何某ノ完成シタル發明ニ係リ私相續候處別紙明細書ニ記載スル通ノ工術（機械、製造品、合成物）ニシテ特許條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ特許相受度此段相願候也

本籍（及現住所）

發明者　亡何某相續者

身分、職業

特許願人　氏名　印

年月日

農商務大臣（爵）氏名殿

二名以上ナルトキハ各要名捺印スヘシ以下準テ此例ニ依ル

第四號（特許證書式）

第何號

特許證

本籍（及現住所）
身分、職業　氏名

何々（發明ノ名稱）

本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ特許條例ニ據リ右記名ノ者ニ何年間特許ヲ與フルモノ也

年　月　日

農商務大臣（爵）氏名　印
農商務省特許局長　氏名　印

第五號（特許ノ變與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ特許證ニ變與（讓與、共有又ハ書入）登錄請求書）

一第何號特許證
一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）
一發明者氏名

右私（私共）所有特許ヲ別紙契約書之通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度契約書正副二通竝ニ特許證相添此段請求候也

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

本籍（及現住所）
身分、職業　特許證主　氏名　印
本籍（及現住所）
身分、職業
買受（讓受、共有、書入受）人　氏名　印

農商務省特許局長氏名殿

第六號（書入中ノ特許ノ變與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ）

特許證變與（讓與、共有又ハ書入）登錄請求書

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號特許證
一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）
一發明者氏名

右私（私共）所有特許證ヲ別紙契約書之通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度契約書正副二通竝ニ特許證相添此段請求候也

本籍（及現住所）
身分、職業　特許證主　氏名　印
本籍（及現住所）
身分、職業
買受（讓受、共有、書入受）人　氏名　印

農商務省特許局長氏名殿

第七號（特許證ノ再下付ヲ願出ルトキ）

特許證再下付願

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號特許證
一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）
一發明者氏名

右私（私共）所有特許證何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損（亡失）候ニ付特許證再下付相成度此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業　特許證主　氏名　印

年　月　日

農商務大臣（爵）氏名殿

第八號（特許證ノ改訂ヲ願出ルトキ）

特許證改訂願

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號特許證ノ
一何々（發明ノ名稱ヲ掲クヘシ）
一發明者氏名

右私（私共）所有特許證附屬ノ明細書（圖面）中何々事由ヲ記スヘシノ爲メ特許ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ發明ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂特許證下付相成度別紙改訂明細書（改訂圖面）竝ニ現特許證及ヒ附屬明細書（圖面）相添此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業　特許證主　氏名　印

年　月　日

農商務大臣（爵）氏名殿

第九號（改訂特許證書式）

第何號

改訂特許證

本籍（及現住所）
身分、職業　氏名

何々（發明ノ名稱）

特許條例ニ據リ（何某ニ）明治何年何月何日何年間特許ヲ與ヘタル特許證ニ對シ本證附屬明細書（圖面）ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年　月　日

農商務大臣（爵）氏名　印
農商務省特許局長　氏名　印

第十號（明細書ノ削除ヲ願出ルトキ）

明細書削除願

（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號特許證
一何々（發明者ノ名稱ヲ掲クヘシ）
一發明者ノ名義

右（私）（私共）所有特許證附屬ノ明細書ニ於テ私（私共）（前記發明者）ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ請求區域中ニ記載シタルコトヲ發見候間明細書中特許請求區域第何項（第何頁何行目何ノ字ニ至ル若干字ヲ）削除致度此段相願候也

本籍（及現住所）
身分職業　特許證主　氏名　印

年　月　日

農商務大臣（爵）氏名殿

○農商務省特許局ニテ登錄セル特許意匠及商標登錄方（明治二十三年十月農商務省告示第九號）

本年九月法律第七十八號ヲ以テ登記法第一條ニ追加規定ノ農商務省特許局ニ於テ登錄シタル特許意匠及商標ノ登記ハ當省特許局ヨリ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ通知シテ之ヲ爲スヘキニ付本人ニ於テ其登記ヲ登記所ニ請求スルヲ要セス

○特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並ニ書類謄本圖面調製ノ手數料及請求手續ヲ定ム（明治二十二年一月農商務省告示第一號）

特許條例意匠條例及商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許公

報商標公報ノ拂下代價竝ニ書類謄本圖面調製ノ手數料及請求手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　印刷書類拂下代價ハ明細書一部ニ付金貳錢五厘特許公報一部ニ付金拾五錢商標公報一部ニ付金貳錢五厘トス

第二條　書類ノ謄本手數料ハ十三行二十五字詰一枚ニ付金拾錢トス但字數一枚ニ滿サルモノハ一枚ヲ以テ算ス

第三條　圖面調製手數料ハ一枚ニ付金二拾五錢以上金五圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル所ニ依ル（三十四年三月農商務省告示第二號ヲ以テ本項中改正ス）

第四條　印刷書類ノ拂下ヲ望ム者ハ竇捌人東京市京橋區八官町十三番地彦根正三ニ就テ購入スヘシ（二十四年四月農商務省告示第三號ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第五條　書類ノ謄本又ハ特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出スヘシ但圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ差出スヘシ尤モ審査用ノ爲メ既ニ其發明ノ雛形見本又ハ粗圖竝明細書ヲ差出シタルモノハ之ヲ添フルニ及ハス（同上）

第六條　意匠條例第二十五條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其意匠登錄證ノ番號及日附ヲ請求書ニ記載シテ差出スヘシ

第七條　手數料ハ特許局長ノ通知ニ依リ相當ノ登記印紙ヲ納付書ニ貼用シ消印ノ上特許局ニ差出スヘシ（二十五年二月農商務省告示第二號ヲ以テ本條ヲ改正ス）

○意匠條例（明治二十二年十二月勅令第八十五號）

脫意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠條例

第一條　工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登錄ヲ受クルヲ專用スルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル意匠ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　登錄出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條　意匠ノ登錄ヲ受クソト欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　意匠專用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　意匠ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス但出願人協議ノ上連名ニテ其登錄ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　意匠ノ登錄ヲ受クル者又ハ之ヲ受クントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登錄出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條　登錄ヲ受クタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登錄ヲ受クタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十二條　意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條　意匠專用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受クサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登錄ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條　登錄意匠主其登錄證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登錄意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　登錄意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登錄標記ヲ爲スヘシ

第十八條　意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　意匠ノ登錄ヲ出願スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ　金三圓

二　登錄意匠ノ竟與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ　金五拾錢

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ

證書一枚毎ニ　金壹圓

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ

一意匠ニ付物品一類毎ニ　金貳圓

五　審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ　金七圓

第十九條　意匠登錄證又ハ其改訂登錄證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登錄料ヲ納ムヘシ

一　三年ノ專用　金壹圓

二　五年ノ專用　金貳圓

三　七年ノ專用　金四圓

四　十年ノ專用　金八圓

第二十條　登錄意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄意匠ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ

應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登錄標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ前第一項ニ同シ

第二十四條　前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登錄意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十五條　第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　登錄意匠主第十七條ノ登錄標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ竊盜俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○意匠條例施行細則

明治二十五年十一月農商務省令第十八號

明治二十二年一月農商務省令第二號意匠條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

意匠條例施行細則

第一章　總則

第一條　特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

第二條　意匠專用年限ノ變更ハ意匠原簿ニ登錄ノ後ニ於テ之ヲ許サス

第三條　意匠ノ登錄、改訂、取消及ヒ無効其他意匠ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ特許公報ニ公告スヘシ

第二章　登錄出願

第四條　登錄願書ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作リ意匠條例第十八條第一號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第五條　出願人他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登錄ヲ受クントスルトキハ登錄願書ニ其旨ヲ附記スヘシ

第六條　登錄願書及ヒ明細書、圖面、見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第七條　登錄願書ヲ差出シタル後他人ト連名又ハ他人ノ記名ニテ登錄ヲ受クントスル者ハ意匠原簿登錄以前ニ其旨ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿登錄ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章　明細書、圖面、雛形及ヒ見本

第八條　明細書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作リ圖面ニ通ヲ添フヘシ

一　意匠ノ名稱

意匠ノ性質及ヒ其意匠ヲ應用スル物品ノ種類ニ從ヒ普通ノ名稱ヲ附スルヲ要ス

二　意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱

第三十六條ノ物品類別ニ從ヒ其物品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス

三　意匠ノ詳細ナル說明

形狀ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ形狀、模樣ノ意匠ニ付テハ全部及ヒ各部ノ圖樣位置、色彩ノ意匠ニ付テハ色彩ヲ施スヘキ圖樣色名及ヒ其配色ノ位置ヲ各々圖面ニ對照シテ說明シ其意匠故實ニ基クルトキハ故實ノ概要ヲ記述シ併セテ請求區域ニ用ユヘキ文字ノ意義ヲ明確ニスルヲ要ス

四　專用權請求ノ區域

意匠ヲ構成スルニ缺クヘカラサル事項ノミヲ明確ニ記載スルヲ要ス

第九條　明細書中請求區域ヲ數項ニ分載スルハ意匠專用權ノ範圍ヲ明示スル爲メ意匠ヲ構成スル新規ナル部分ヲ各別ニ記載スル場合ニ限ルヘシ

第十條　圖面ニハ意匠ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫眞ニ依リ其意匠ヲ示スコトヲ得ルトキハ臺紙ヲ附セサルモノニ限リ圖面ニ代用スルコトヲ得

第十一條　雛形及ヒ見本ハ意匠ニ必要ナル部分ノミニ付キ之ヲ造リ其長サ幅及ヒ高サハ曲尺一尺以內トシ破損若クハ變化ヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

但特許局長ノ認可ヲ經又ハ特ニ徵收シタル場合ハ此限ニアラス

第十二條　登錄意匠主ハ特許局長ノ指圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其意匠ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第十三條　雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ

差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以內ニ受取方ヲナサヽルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

雛形又ハ見本ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章　審査

第十四條　審査ハ意匠條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル後願書日附ノ順序ニ從ヒ日附相同シキモノハ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ著手スヘシ

第十五條　左ニ記載スルモノハ新規ノ意匠トナスコトヲ得ス

一　意匠條例第二條第二號ニ該當スルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

二　公ニ知レ又ハ公ニ用ヒラレスト雖モ已ニ他人ニ於テ登錄ヲ出願シ其權利ヲ放棄シタル意匠ト同一若クハ之ニ類似スルモノ

第十六條　左ニ記載スル意匠ハ新規ナルモ登錄ヲ許スヘカラサルモノトス

一　皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類似スルモノト認ムヘキ圖形ヲ使用シタル意匠

二　意匠條例第二條第一號ニ該當スル意匠

三　意匠條例第八條ニ該當スル登錄出願ノ意匠ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同シキモノ
四　工業上ノ物品ニ應用セサル意匠
五　形狀模樣若クハ色彩ヲ主トセサル意匠
六　商品ノ目印タルニ止マル意匠

第十七條　登錄ヲ拒絕スル査定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　願書ノ順號
二　意匠ノ名稱
三　意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
四　出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
五　登錄請求ノ要領再査定ニ係ルトキハ不服理由ノ要領
六　拒絕ノ理由

明細書及ヒ雛形見本ニ對照シ適切ニ且明確ニ記載シ若シ第九條ニ依リ請求區域ヲ二項以上ニ分載シタルトキハ各項ニ付キ別々ニ其理由ヲ記載スルヲ要ス

再査定ニ係ルトキハ不服ノ理由ヲ反駁シ初査定ノ理由ヲ攻術辯明スルヲ要ス

七　査定主文
八　査定ヲナシタル審査官ノ官氏名
九　年月日

第十八條　再審査ヲ請求スル者ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ不服理由書ヲ作リ査定書ノ日附ヨリ三十日以內ニ差出スヘシ

一　願書ノ順號
二　意匠ノ名稱
三　意匠ヲ應用スル物品ノ類別及ヒ名稱
四　出願人及ヒ其代人ノ氏名、身分、職業及ヒ住所
五　不服ノ要旨
六　事實上ノ辯論

明細書ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ要ス

七　事實上主張ノ證明
八　出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印
九　年月日

第十九條　登錄ヲ許スヘシト認ムル意匠ト同一若クハ之ニ類似スル意匠ノ登錄出願ニ對シ拒絕ノ査定ヲナシタルトキハ其拒絕ノ査定確定スルマテ一方ノ登錄ノ査定ヲ中止スヘシ

第二十條　特許條例施行細則第二十八條第三十二條乃至第三十四條ハ意匠ノ審査ニ關シテモ之ヲ適用ス

第五章　審判

第二十一條　特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ意匠ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス

但審判請求書ニハ意匠條例第十八條第五號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章　登錄

第二十二條　意匠條例第四條ニ依リ登錄ヲ許スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登錄料納付用紙ヲ添ヘ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ意匠條例第十九條ノ登錄料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書及ヒ圖面各二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以內ニ差

出スヘシ

第二十三條　出願人登錄料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以內ニ意匠登錄證ヲ送付スヘシ

前項登錄料ノ納付銳務時間ノ最後一時間若クハ其以後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ銳務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第二十四條　意匠登錄證ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製シ意匠原簿ノ日ヲ以テ其日附トナス

第二十五條　登錄意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登錄意匠ノ四字意匠登錄證ノ日附及ヒ專用ノ年限ヲ標記スヘシ

第二十六條　登錄意匠主第九條ニ依リ記載シタル部分ニ屬スルモノヲ分離シテ應用シタル物品ヲ販賣シタルトキハ其部分ニ對スル權利ヲ放棄シタルモノト見做スヘシ

第二十七條　意匠ノ專用權ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ登錄意匠主氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第七章　資與、讓與、共有及ヒ書入

第二十八條　意匠條例第十三條ニ依リ資與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ第五號書式ニ從ヒ請求書ヲ作リ同條例第十八條第二號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ意匠登錄證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登錄シ契約書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ意匠登錄證ニ裏書ノ上

契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十九條　資與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル屆書ニ意匠登錄證ヲ添ヘ差出スヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ意匠登錄證ニ裏書ノ上之ヲ登錄意匠主ニ返付スヘシ

第三十條　共有ニ屬スル意匠ノ專用權ヲ資與、讓與、共有又ハ書入トナサントスルトキハ他ノ共有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ其登錄ヲナササルヘシ

第八章　再下付願

第三十一條　意匠條例第十五條ニ依ル再下付願書ハ第七號書式ニ從ヒ之ヲ作リ同條例第十八條第三號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第三十二條　第三十一條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル意匠登錄證ヲ下付スヘシ

第九章　改訂願

第三十三條　意匠條例第十六條ニ依ル意匠登錄證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

一　明細書ノ說明ト圖面ノ符合セサルコトヲ發見シタルトキ
二　請求區域ノ意義ヲ變更スルコトナクシテ之ヲ明確ナラシムヘキ必要アルコトヲ發見シタルトキ
三　過テ自己ノ案出ニ係レル範圍ヲ超過シテ意匠專用權ノ範圍トナシタルコトヲ發見シタルトキ

第三十四條　改訂願書ハ第八號書式ニ從ヒ之ヲ作リ意匠條例

第十八條第四號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ改訂明細書一通若クハ改訂圖面二通ヲ添ヘ現意匠登錄證及ヒ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十二條及ヒ第二十三條ノ手續ニ依リ其旨ヲ意匠原簿ニ附記シ改訂意匠登錄證ヲ送付スヘシ

第三十五條　改訂意匠登錄證ハ第九號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第十章　物品類別

第三十六條　意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコトヲ左ノ如シ

第一類　衣服
衣、裘、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類　頭飾、服飾、帽子
櫛、笄、根掛、胸飾、腕環、指環、釦鈕、帽子等

第三類　時計及ヒ其附屬品
袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類　傘、杖及ヒ履物類
傘、杖、下駄、草履、靴等

第五類　携帶品
烟具、扇、懷中物、手提等

第六類　家具
棚、簞笥、机、椅子、卓子、寢臺等

第七類　敷物
段通、油氈、花莚其他各種ノ敷物

第八類　燈燭及ヒ其附屬品
火鉢、煖爐、烟草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類　點燈器
行燈、燭臺、手燭、燈籠、「ランプ」、瓦斯燈、電氣燈等

第十類　建築附屬品
障、戸、屏、柵、欄間、欄干等

第十一類　織物及ヒ他類ニ屬セサル織物製品
絹、綿、麻、毛織物、服紗、手巾、寢掛、卓被等

第十二類　他類ニ屬セサル編物、組物
「レース」、打紐、飾緣等

第十三類　他類ニ屬セサル漆器（假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス）
飲食器、手箱、香合等

第十四類　他類ニ屬セサル陶器（煉火石、瓦等モ之ニ屬ス）
飲食器、花瓶、香爐等

第十五類　他類ニ屬セサル玻璃
飲食器、紋樣玻璃等

第十六類　他類ニ屬セサル七寶
花瓶、香爐、手箱、香合等

第十七類　他類ニ屬セサル金屬製品
貴金屬、賤金屬及ヒ合金ノ製品

第十八類　他類ニ屬セサル石材製品
寶石其他石類ノ製品

第十九類　他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品
盆、箱、花籃、籃、籠、屏、柱聯、茶托、箸、硯屏、墨盡、筆筒等

第二十類　紙及ヒ他類ニ屬セサル紙製品
紋紙、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙袋、書簡筒、

文匣、一閑張等

第二十一類　皮革及ヒ他類ニ屬セサル皮革製品
紋革、文匣、馬具等

第二十二類　他類ニ屬セサル物品
背式用紙寸法第十三行二十五字詰

第一號意匠ノ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一何々ノ名稱ヲ揭クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ案出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業
案出者　氏名　印
年月日
登錄願人　會社（組合）名　社印
又ハ所在地
社（組）長又ハ重役
氏名　印
（會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル）

農商務大臣（伯）氏名殿

第二號相續者ヨリ意匠ノ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一何々ノ名稱ヲ揭クヘシ

右ハ亡何某ノ案出ニ係ル私相續候處別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共）ノ案出候モノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業
案出者　亡何某相續者
登錄願人　氏名　印

農商務大臣（伯）氏名殿

第三號他人ノ案出ニ係ル意匠ノ登錄ヲ願出ルトキ

意匠登錄願（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一何々ノ名稱ヲ揭クヘシ

右ハ別紙明細書及圖面（寫眞）ノ通ノ意匠ニシテ私（私共、當會社、當組合）ヨリ何某ノ本籍ヲモ記スヘシ託シ案出セシメタルモノニ有之意匠條例ニ觸レサルモノト確信候間何箇年ノ登錄相受度此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業
登錄願人　氏名　印

農商務大臣（伯）氏名殿

第四號意匠登錄證書式

意匠登錄證

第何號

本籍（及現住所）
身分、職業
氏名

何々（意匠ノ名稱）

意匠條例ニ據リ前記ノ意匠ヲ登錄シ本證附屬明細書ノ請求區域ニ對シ右記名ノ者ニ何年間專用權ヲ與フルモノ也

年月日　農商務大臣（伯）氏名　印

第五號（登錄意匠ノ賣與、讓與共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ　登錄意匠賣與ヘ讓與、共有又ハ書入登錄請求書）（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號意匠登錄證

一何々（登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一染出者氏名

右私（私共）所有登錄意匠ヲ別紙契約書ノ通賣與（讓與、共有又ハ書入）候間登錄相成度契約書正副二通竝ニ意匠登錄證相添此段請求候也

本籍（及現住所）
身分、職業　登錄意匠主　氏名　印
年月日

農商務省特許局長氏名殿

第六號（書入中ノ登錄意匠ノ賣與、讓與、共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキ　登錄意匠賣與ヘ讓與、共有又ハ書入登錄請求書）（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號意匠登錄證

一何々（登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一染出者氏名

農商務省特許局長氏名殿

本籍（及現住所）
身分、職業　登錄意匠主　氏名　印
年月日

買受（讓受、共有）人　氏名　印

第七號（意匠登錄證ノ再下付ヲ願出ルトキ　意匠登錄證再下付願）（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號意匠登錄證

一何々（登錄意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一染出者氏名

右私（私共）所有意匠登錄證何々事由ヲ記ニ依リ毀損（亡失）候ニ付意匠登錄證再下付相成度此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業　登錄證主　氏名　印
年月日

農商務大臣（伯）氏名殿

第八號（意匠登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキ　意匠登錄證改訂願）（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一第何號意匠登錄證

一何々（意匠ノ名稱ヲ掲クヘシ）

一染出者氏名

右私（私共）所有意匠登錄證附屬ノ明細書（圖面又ハ寫眞）中何々事由ヲ記ノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤モ之カ爲メ意匠ノ要部ニ變更ヲ生スル義無之候間

改訂意匠登錄證下付相成度別紙改訂明細書（改訂圖面又ハ寫眞）竝ニ現意匠登錄證及附屬明細書（圖面又ハ寫眞）相添此段相願候也

本籍（及現住所）
身分、職業　登錄意匠主　氏名　印
年月日

農商務大臣（伯）氏名殿

第九號（改訂意匠登錄證書式）

第何號

改訂意匠登錄證

本籍（及現住所）
身分、職業　氏名

何々（意匠ノ名稱）

意匠條例ニ據リ（何某ニ）明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル登錄意匠ニ對シ本證附屬明細書（圖面）ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年月日　農商務大臣（伯）氏名　印
（農商務省特許局長　氏名　印）

○商標條例

明治二十一年十二月勅令第八十六號

商標條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

商標條例

第一條　自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條　左ニ揭クル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　商品普通ノ名稱若クハ內外國ノ旗章ノミヲ以テ要部ト爲スモノ

三　他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條　商標ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一商標每ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　商標ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審查官ヲシテ其商標ヲ審查セシメ登錄ヲ許スヘシト查定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　商標專用ノ年限ハ二十年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノ

ヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリタル出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無效トス

第十一條　商標ノ審查査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條　登錄商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受クサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス

第十三條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登錄ノ效ヲ失フモノトス

一　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ商標登錄ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ

二　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三　登錄商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四　登錄商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五　登錄商標主靡滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條　登錄商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ繼用セントスル者ハ更ニ其登錄ヲ出願スルコトヲ得

第十五條　登錄商標主其登錄證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登錄商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　商標ノ登錄ヲ出願スルトキ　金參圓

一　商標ニ付商品一類毎ニ　金壹圓

二　登錄商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登錄ヲ請求スルトキ

一　商標ニ付商品一類毎ニ　金參圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ

證書一枚毎ニ　金壹圓

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ

一　商標ニ付商品一類毎ニ　金貳圓

五　審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ　金七圓

第十八條　商標登錄證又ハ其改訂登錄證又ハ其繼用登錄證ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登錄料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條　特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條　登錄商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條　第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

ヲ得

第二十條　登錄商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條　第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○商標條例施行細則

明治二十二年一月農商務省令第三號

商標條例施行細則左ノ通改正シ明治二十五年十二月一日ヨリ施行ス

商標條例施行細則

明治二十五年十一月農商務省令第十九號

第一章　總則

第一條　特許條例施行細則第一條乃至第十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

第二條　商標ノ登錄、改訂、取消及ヒ無效其他商標ニ關スル必要ノ事項ハ特許局長ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經之ヲ官報及ヒ商標公報ニ公告スヘシ

第二章　登錄出願

第三條　登錄願書ハ第一號書式ニ依リ第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ一類毎ニ之ヲ作リ商標條例第十七條第一號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第四條　二人已上ノ出願人連名ニテ登錄ヲ受ケントスルトキハ登錄願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證スル事由書ヲ添フヘシ

第五條　登錄願書又ヒ明細書見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ願書ニ順號ヲ附シ其順號ヲ出願人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ差出ス書類ニハ願書ノ順號ヲ記載スヘシ

第六條　登錄願書ヲ差出シタル後他人ト連名ニテ登錄ヲ受ケントスル者ハ其旨ヲ記載シタル願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證スル事由書ヲ添ヘ商標原簿登錄已前ニ之ヲ差出スヘシ若シ其出願原簿錄登ノ後ニ係ルトキハ受理セス

第三章　明細書見本及ヒ印版

第七條　明細書ニハ商標ノ見本二箇ヲ添ヘ一箇ハ明細書ノ首部ニ貼付シテ其貼目ニ捺印スヘシ

但明細書ニハ商標ノ見本二箇ヲ添ヘ一箇ハ明細書ノ首部ニ貼付シテ其貼目ニ捺印スヘシ

一　商標全部構造ノ說明

商標ノ見本ニ付圖樣文字ノ形狀、位置、書體、方向、裝飾、附記等ヲ說明スルヲ要ス

二　商標ノ要部

商標ノ見本ニ付キ特別著明ノ外觀アル部分ノミヲ記載スルヲ要ス

三　商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱

第三十四條ノ商品類別ニ從ヒ其商品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス

四　商標使用ノ方法

商標ヲ實地商品ニ使用スル方法ヲ說明スルヲ要ス

第八條　商標ノ見本ハ實際使用スヘキ商標ヲ用ユヘシ

前項ニ依リ難キトキハ摸寫若クハ縮寫シタルモノヲ以テ見本トナスコトヲ得

第九條　商標ノ印版ハ版面ノ廣サ曲尺方一寸八分以內厚サ曲尺七分六厘トシ木版又ハ鉛版ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

前項ノ制限ニ依リ難キトキハ版面ノ廣サニ限リ長サ曲尺七寸以內幅五寸以內ニ於テ之ヲ造ルコトヲ得

第十條　商標ノ印版ハ見本全部ノ構造ヲ悉ク一箇ノ版面ニ彫刻シ彩色等ノ爲メ之ヲ分劃セサルヲ要ス時日ヲ經テ版面ニ反リヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

第十一條　商標印版ノ不用ニ屬シタルトキハ許特局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人通知書ノ日附ヨリ九十日以內ニ受取方ヲ爲サヽルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

印版ヲ亡失毀損スルモ特許局ハ辨償ノ責ニ任セス

第四章　審查

第十二條　審查ハ商標條例第十六條ノ改訂願書ノ外願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經過シタル後願書ノ順序ニ從ヒ之ニ著手スヘシ

同シキモノハ願書ノ順號ニ從ヒ日附相

第十三條　左ニ記載スル圖形、字體又ハ其結合ハ商標ノ要部トナスヘキ特別著明ノ外觀ナキモノトス

一　商品ノ品位、品質若クハ効能ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ

二　商品ノ名稱、形狀又ハ其原料ヲ指示スルニ止マル記號、圖形ノミヲ以テ成ルモノ

三　普通ニ使用セラルヽ地名、姓氏、人名、家號、會社名ノミヲ普通ノ書體ニ依リ記セルモノ

四　地紋樣ノ圖形ノミヲ以テ成ルモノ

五　現ニ同業者間ニ普通ニ用ヒラレ又ハ商業上慣用セラルヽ目印記號ノミヲ以テ成ルモノ

第十四條　左ニ記載スル商標ハ特別著明ノ要部ヲ具フルモ登錄ヲ許スヘカラサルモノトス

一　皇室ノ御紋章ト同一又ハ之ニ類似スルモノト認ムル商標

二　商標條例第二條第一號、第二號又ハ第三號ニ該當スル商標

三　商標條例第八條ニ該當スル登錄出願ノ商標ニシテ願書日附ノ後ナルモノ又ハ其日附ノ相同シキモノ

第十五條　同一商品ニ使用セントスル二箇以上ノ商標ニシテ左ニ記載スル場合ノ一ニ該當スルトキハ互ニ類似シタルモノトス

一　離隔上ノ觀察ニ於テ差異ナキトキ

二　商標上ヨリ生スヘキ自然ノ稱呼同一ナルカ又ハ相紛ハシキトキ

第十六條　登錄ヲ拒絕スル查定書ハ左ニ記載スル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ作ルヘシ

一　願書ノ順號

二　商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱

三　出願人及ヒ其代人ノ名稱、身分、職業及ヒ住所

四　不服ノ要旨

五　事實上ノ辯論

明細書及ヒ見本ニ對照シ拒絕ノ理由ヲ反駁スルニ止ムルヲ要ス

六　事實上主張ノ證明

七　出願人又ハ其代人ノ署名及ヒ捺印

八　年月日

第十八條　登錄ヲ許スヘシト認ムル商標ト同一若クハ之ニ類似スル商標ノ登錄出願ニ對シ拒絕ノ查定ヲナシタルトキハ其拒絕ノ查定確定スルマテ一方ノ登錄ノ查定ヲ中止スヘシ

第十九條　特許條例施行細則第三十二條乃至第三十四條ハ商標ノ審查ニ關シテモ之ヲ適用ス

第五章　審判

第二十條　特許條例施行細則第四十四條乃至第五十四條ハ商標ノ審判ニ關シテモ之ヲ適用ス

但審判請求書ニハ商標條例第十七條第五號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第六章　登錄

第二十一條　商標條例第四條ニ依リ登錄ヲ許スヘキモノト查定シタルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經其旨ヲ記載シタル通知書ニ登錄料納付用紙ヲ添ヘ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ商標條例第十八條ノ登錄料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通及ヒ商標ノ印版一箇ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十

一　商標ヲ使用スル商品ノ類別及ヒ名稱

二　商標ヲ使用スル商品ノ類別ニ從ヒ其商品ノ名稱ヲ記載スルヲ要ス

三　商標ヲ使用スル方法

商標ヲ實地商品ニ使用スル方法ヲ說明スルヲ要ス

第八條　商標ノ見本ハ實際使用スヘキ商標ヲ用ユヘシ

前項ニ依リ難キトキハ摸寫若クハ縮寫シタルモノヲ以テ見本トナスコトヲ得

第九條　商標ノ印版ハ版面ノ廣サ曲尺方一寸八分以內厚サ曲尺七分六厘トシ木版又ハ鉛版ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

前項ノ制限ニ依リ難キトキハ版面ノ廣サニ限リ長サ曲尺七寸以內幅五寸以內ニ於テ之ヲ造ルコトヲ得

第十條　商標ノ印版ハ見本全部ノ構造ヲ悉ク一箇ノ版面ニ彫刻シ彩色等ノ爲メ之ヲ分劃セサルヲ要ス時日ヲ經テ版面ニ反リヲ來スヘキモノハ差出人ニ於テ相當ノ手當ヲナスヘシ

日以内ニ差出スヘシ

第二十二條　出願人登錄料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シテ十五日以内ニ商標登錄證ヲ送付スヘシ

前項登錄料ノ納付執務時間ノ最後一時間若クハ其已後又ハ休日ニ係ルトキハ次ノ執務日ニ納付シタルモノト見做スヘシ

第二十三條　商標登錄證ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製シ商標原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附トナス

第二十四條　商標ノ專用權ヲ相續シタルトキハ其相續人ヨリ登錄商標主其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキ氏名住所ヲ變換シタルトキ及ヒ改印シタルトキハ本人ヨリ速カニ其旨ヲ届出ツヘシ

第七章　賣與、讓與及ヒ共有

第二十五條　商標條例第十二條ニ依リ賣與、讓與又ハ共有ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ第三號書式ニ從ヒ請求書ヲ作リ同條例第十七條第二號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ契約書正副二通及ヒ商標登錄證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ登錄シ契約書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ商標登錄證ニ裏書ノ上契約書ト共ニ請求人ニ返付スヘシ

第二十六條　共有ノ登錄ヲ受ケタル者ニシテ後日其契約ヲ解除シタルトキハ關係人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ記載シタル届書ニ商標登錄證ヲ添ヘテ差出スヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ特許局長ハ其事由ヲ移動原簿ニ附記シ商標登錄證ニ裏書ノ上之ヲ登錄商標主ニ返付スヘシ

第二十七條　共有者中ノ一人若クハ數人其商標ノ專用權ヲ他ノ共有者ニ賣與又ハ讓與セントスルトキハ第二十五條第一項ノ手續ニ從ヒ之ヲ請求スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ第二十五條第二項ノ手續ニ依リ之ヲ處分スヘシ

第八章　續用登錄願及ヒ再下付願

第二十八條　商標條例第十四條ニ依ル續用登錄願書ハ第四號書式ニ從ヒ之ヲ作リ同條例第十七條第一號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ登錄有効期限内ニ差出スヘシ

第二十九條　商標條例第十五條ニ依ル再下付願書ハ第五號書式ニ從ヒ之ヲ作リ同條例第十七條第三號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ

第三十條　第二十九條ノ出願アリタルトキハ特許局長ハ其事由及ヒ下付ノ年月日ヲ裏書シタル商標登錄證ヲ下付スヘシ

第九章　改訂願

第三十一條　商標條例第十六條ニ依ル商標登錄證ノ改訂願ハ左ノ場合ニ於テ之ヲナスコトヲ得ルモノトス

一　明細書ノ說明ト商標見本ト符合セサルコトヲ發見シタルトキ

二　明細書ニ揭ケタル商標見本ノ構造ヲ變更セシシテ商標要部ノ範圍ヲ擴メ若クハ削減シ又ハ他ノ部分ト交換スルノ必要アルコトヲ發見シタルトキ

三　商品ノ指定第三十四條ノ商品類別ニ違ヒタルコトヲ發見シタルトキ

第三十二條　改訂願書ハ第六號書式ニ從ヒ之ヲ作リ商標條

例第十七條第四號ノ手數料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ改訂明細書一通若クハ改訂見本二個ヲ添ヘ現商標登錄證及ヒ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ第二十一條及ヒ第二十二條ノ手續ニ依リ其旨ヲ商標原簿ニ附記シ改訂商標登錄證ヲ送付スヘシ

第三十三條　改訂商標登錄證ハ第七號書式ニ依リ之ヲ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附トナス

第十章　商品類別

第三十四條　商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類　化學品及ヒ藥劑

酸類、鹽類、「アルカリ」、漂白粉、護謨、膠、燐、石鹼、酒精、「グリセリン」、「キナヱン」、「モルヒネ」、丁幾劑、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等

第二類　染料及ヒ顏料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、緑青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黄等

第三類　塗料

漆、假漆、油漆、膠、靴墨等

第四類　香料（ソコン）及ヒ煙料

香油、髮脊、香袋、香水、炷香、線香、煉香等

第五類　金屬及ヒ其半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛板、錫、合金等

第六類　金屬ノ製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第七類　利器及尖刃器

鎌、鋸、鑿、錐、鑢、針、釘、眞刀、小刀、剃刀、庖丁、鳶口等

第八類　貴金屬及ヒ其製品（「アルミニウム」金、「ニッケル」銀ノ製品モ之ニ屬ス）

黄金、銀、四分一、紫銅其他貴金屬ノ合金鏤品、彫鏤品、「モール」等

第九類　珠玉及ヒ其彫鏤品

珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黄玉、碧玉及ヒ其模造品等

第十類　鑛物類（但石炭ハ第五十一類ニ屬ス）

第十一類　石材及ヒ其製品竝彫鏤品

版石、大理石、砥石、石器及ヒ其模造品等

第十二類　漆喰類

漆喰、「セメント」、石膏等

第十三類　陶磁器類

陶磁器、土器、甎場、瓦、煉化石等

第十四類　七寶燒

第十五類　玻璃及ヒ其製品

玻璃塊、玻璃管、彩色玻璃等

第十六類　機械類

紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸製造機械、汽機、汽罐等

第十七類　農工器具

犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘扱、鐵槌、繩墨等

第十八類　學術上ノ器械

理化學、醫術及ヒ測量等ノ器械

第六類　金屬ノ製品

第十九類　度、量、權衡
第二十類　運送用ノ車類
荷車、馬車、人力車、自轉車等
第二十一類　樂器
琴、三味線、胡弓、笛等
第二十二類　時計及ヒ其附屬品
第二十三類　銃砲、彈丸、火藥、烟火等
第二十四類　蠶種紙、繭
第二十五類　眞綿及ヒ木棉綿
第二十六類　生絲、絹絲及ヒ天蠶絲(琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス)
第二十七類　綿絲
第二十八類　毛絲
第二十九類　麻絲
第三十類　絹織物
第三十一類　木綿織物
第三十二類　毛織物
第三十三類　麻織物
第三十四類　絹、綿、麻、毛外ノ織物及ヒ交織物
第三十五類　絲類ノ編物及ヒ組物
「レース」、打紐、網等
第三十六類　被服
衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等
第三十七類　釀造物及ヒ飲料
酒、酢、醬油、蜜柑水、曹達水、氷等
第三十八類　砂糖類
砂糖、糖蜜、蜂蜜等
第三十九類　菓子及ヒ麵包類
干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、飴、砂糖漬等
第四十類　茶及ヒ咖啡類
第四十一類　烟草類
第四十二類　穀、菜、種子及ヒ菓物類
五穀、蔬菜、草、菓實、種子、根球、麴種モヤシ等
第四十三類　挽粉、澱粉、麪類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等
第四十四類　味噌、嘗物及ヒ漬物類
第四十五類　貯藏食品
鰹節、鯣、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、鹹製品等
第四十六類　牛乳製品
凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
第四十七類　烟具及ヒ袋物
烟管、烟袋、烟管筒、懷中物等
第四十八類　紙及ヒ其製品
紙、色紙、短冊、擬革紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等
第四十九類　筆、墨類
筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、「ペン」等
第五十類　皮革及ヒ其製品
馬具、革包、文匣、革帶、靴、唐弓弦等
第五十一類　燃料類
炭、附木、摺附木、燈心等
第五十二類　油、蠟類

油、蠟、蠟燭、脂肪等
第五十三類　肥料
干鰯、鯡粕、油粕、骨粉等
第五十四類　木竹材
第五十五類　木、竹、籐製品及ヒ其漆塗、蒔繪品類
指物、挽物、曲物、桶類、編物、組物等
第五十六類　角、甲、牙類ノ製品
第五十七類　藁及ヒ草ノ製品
疊表、莚、編笠、繩、麥藁細工等
第五十八類　傘、杖及ヒ履物
傘、杖、下駄、草履、鼻緒等
第五十九類　扇子及ヒ團扇
第六十類　提燈及ヒ「ランプ」類
第六十一類　齒磨及ヒ洗粉
第六十二類　刷子及ヒ髢類
第六十三類　玩具類
花簪、鞠、碁、將棊、人形、獨樂、楊弓、押繪、造花、骨牌等
第六十四類　錦繪及ヒ寫眞類
第六十五類　書籍、新聞紙、雜誌類
第六十六類　他類ニ屬セサル商品

書式(用紙美濃十三行二十五字詰)

第一號(商標ノ登錄ヲ願出ルトキ)

商標登錄願　(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

別紙明細書ニ記載ノ商標ハ商標條例ニ觸レサルモノト確信候間登錄相受度此段相願候也

本籍(及現住所)

營業名　(出願商標ヲ使用スル業名以下此例ニ依ル)

身分

年　月　日　登錄願人　氏　名　印

又ハ所在地

營業名

登錄願人　會社(組合)名　社組印

社(組)長又ハ重役

氏　名　印

(會社又ハ組合ヨリ差出ス書面ノ署名方ハ總テ此例ニ依ル)

農商務大臣(爵)氏名殿

第二號(商標登錄證書式)

第何號

商標登錄證

本籍(及現住所)

營業名

身分　氏　名

商標條例ニ據リ本證附屬明細書ニ記載ノ商標ヲ登錄シ右記名ノ者ニ二十年間專用權ヲ與フルモノ也

年　月　日　農商務大臣(爵)氏　名　印

農商務省特許局長　氏　名　印

第三號(登錄商標ノ賣與、讓與又ハ共有ノ登錄ヲ請求スルトキ)

(登錄商標賣與(讓與又ハ共有)登錄請求書)　(此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)

一第何號商標登錄證

右私所有登錄商標ヲ別紙契約書之通營業ト共ニ賣與(讓與又ハ共有)候間登錄相成度契約書正副二通並ニ商標登錄證相添此段請求候也

本籍(及現住所)
身分、職業
登錄商標主　氏　名　印
本籍(及現住所)
身分、職業
買受(讓受共有)人　氏　名　印
年　月　日
農商務省特許局長氏名殿

第四號 登錄商標ノ續用ヲ願出ルトキ
登錄商標續用登錄願 (此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)
一第何號商標登錄證
右私所有登錄商標來ル明治何年何月何日ニテ專用年限滿期之處尚ホ引續キ專用致度ニ付更ニ登錄相受度此段相願候也
本籍(及現住所)
身分職業
登錄商標主　氏　名　印
年　月　日
農商務大臣(爵)氏名殿

第五號 商標登錄證ノ再下付ヲ願出ルトキ
商標登錄證再下付願 (此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)
一第何號商標登錄證
右私所有商標登錄證何々事由ヲ記スヘシニ依リ毀損(亡失)候ニ付商標登錄證再下付相成度此段相願候也
本籍(及現住所)
身分、職業
登錄商標主　氏　名　印
年　月　日
農商務大臣(爵)氏名殿

第六號 商標登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキ
商標登錄證改訂願 (此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ)
一第何號商標登錄證
右私所有商標登錄證附屬ノ明細書(見本)中何々事由ヲ記スヘシノ爲メ登錄ノ効力ヲ全クシ難キニ付別紙之通改訂致度尤之カ爲メ商標ノ要部ニ變更ヲ生スル儀無之候間改訂商標登錄證下付相成度別紙改訂明細書(改訂見本)並ニ現商標登錄證及ヒ附屬明細書(見本)相添此段相願候也
本籍(及現住所)
身分、職業
登錄商標主　氏　名　印
年　月　日
農商務大臣(爵)氏名殿

第七號 改訂商標登錄證書式
第何號
改訂商標登錄證
本籍(及現住所)
營業名
身分　氏　名
商標條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日登錄ヲ許可シタル商標ニ對シ本證附屬明細書(見本)ノ通改訂ヲ許可スルモノ也
年　月　日
農商務大臣(爵)氏　名　印
農商務省特許局長　氏　名　印

○特許願書、意匠登錄願書、商標登錄願書ノ明細書、圖面ノ認方
明治二十五年十二月
農商務省告示第十七號

明治二十五年十二月一日以後出願ニ係ル特許願書、意匠登錄願書、商標登錄願書ニ添フヘキ明細書、圖面ハ左ノ標準ニ依リ認ムヘシ

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左二分綴料一寸ヲ餘シ楷行ノ内ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二　明細書ニハ特許條例施行細則第十八條、意匠條例施行細則第八條、商標條例施行細則第七條ノ諸項目ヲ順次各別項ト爲シテ記載スヘシ

三　明細書中圖面ト對照シテ說明スルトキハ單ニ符號ノミヲ以テ部分ヲ指示スヘカラス必ス其符號ノ上ニ指示スヘキ部分ノ適當ナル名稱ヲ附スルヲ要ス

四　商標登錄願書ニ添フヘキ明細書ニハ商標ノ色彩ニ係ル說明ヲ爲スヲ要セス

五　圖面ハ礬水引ノ純白ナル美濃紙薄葉紙等ヲ用ヒ凡ソ其上部曲尺一寸下部八分左三分右一寸五分ヲ餘シ竪曲尺七寸二分横四寸六分ノ面内ニ於テ寫眞石版ノ原料ニ適スヘキ樣濃墨ヲ用ヒ鮮明ニ調製スヘシ
但意匠圖面中圖樣大ニシテ縮少スルトキハ之カ意匠ヲ精密ニ示シ難キ場合ニアリテハ本項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

六　圖面ヲ製スルニ其紙ノ横ヲ竪ニ用ユルハ妨ケナシト雖モ同一ノ紙面ヲ竪横混合シテ用ユヘカラス

七　圖面ハ成ルヘク一枚ニ認メ已ムヲ得サル場合ノ外其紙數ヲ增加スヘカラス

八　發明、意匠ノ名稱ハ圖面中ニ記載スヘカラス

九　圖面ハ色彩ニ係ルモノヽ外一切著色スルヲ要セス

十　圖ノ離レタルモノハ一箇每ニ第一圖、第二圖ト番號ヲ付シ又一部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用ユヘシ但番號及符號ハ圖ノ妨ケトナラサル樣濃墨ニテ明瞭ニスヘシ

十一　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサル場合ニハ其部分ヨリ少シク離シテ符號ヲ記シ極小ノ直線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得スシテ陰ノ上ニ施ストキハ其部分タケ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

十二　裁斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又裁斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ノ差ヒタル斜線ヲ用ユヘシ

十三　凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲メ圖面ニ陰ヲ施スコトヲ要スルトキハ線ヲ用ヒテ簡明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス

十四　活版ニ應用スヘキ文字及記號ニ係ル意匠ノ圖面ヲ調製スルニハ左ノ項目ニ依ルヘシ

一、片假名、平假名、數字若クハ羅馬字ノ如キ數ニ定限アル文字ニ係ル意匠ナルトキハ其各字ノ全體ヲ示スヘシ

二、漢字ノ如キ數ニ定限ナキ文字ニ係ル意匠ナルトキハ其各字ノ全體ヲ示スヲ要セス唯之ヲ構成スル部分卽チ偏、旁、冠、構等ノ各種類ヲ擧示スヘシ若シ文偏、旁等ノ一部分ヲ以テ示シ難キ文字全體ニ係ル意匠ナルトキハ其全般ヲ推知スルニ足ルヘキ若干ノ字例ニ依テ之ヲ示スヘシ

三、文字ノ全體又ハ偏、旁等ニ關セス唯其點畫ニ屬スル形狀ニ係ル意匠ナルトキハ各種點畫ノ形狀竝ニ之ヲ以テ組成セル文字ノ全體數種ヲ示スヘシ

第五章　勸業

○內國勸業博覽會五ケ年目ニ開設ス

明治十年十二月布告第八十八號

內國勸業博覽會ノ儀明治十年ヲ以第一會トシ爾後五ケ年目毎ニ明治十四年ヲ以テ第二會トス　被開候條此旨布告候事

但本會開設ノ場所及日限諸規則等ハ三ケ年前ニ布告スヘキ事

○博覽會開設屆出方

明治十一年四月內務省達乙第三十三號

各府縣於テ博覽會開設候節以來官設民設ヲ論セス發會以前右規則書相添可屆出候且ツ出品目錄審査薦告狀寫トモ是又追テ差出可申尤閉場之後ニ至リ該會之景況別紙書式ニ照シ取調申報可致候此旨相達候事

但物産會等ニテ博覽會ニ類似之分モ本文ニ準シ可屆出事

別紙

（括弧內ハ朱書）

明治何年何府縣下管設博覽會景況報告書

會場地名　某國郡某地　　會主何〔府縣廳又ハ何會社〕

開場　何月何日　　閉場　何月何日

通券假格　何程〔又ハ平日何程　日曜何程〕　　通券料收額　何程

出品主　何人　　觀客　何人〔又ハ平日何人　日曜何人〕

列品數　何品　　列品總價　何程

〔但賣價ヲ記スヘシ〕

天產物　何品　　同價額　何程

內製工品　何品

機械　何品

列品賣數　何品

〔但別ニ賣店ヲ設ルモノハ其賣數價額ヲ別記スヘシ〕

褒賞授附　何人　　特別何人　一等何人　二等何人　三等何人　四等何人　五等何人　六等何人

但シ尙此外ニ等級及褒狀其他等級ヲ付セス物品ヲ授付シ甲乙ノ種類等アラハ一々分記スヘシ

會場總費　何程

內　何程

府縣秘又ハ會社費

審査官人名

審査物名　　族籍姓名

同　　同姓名

一般ノ景況云々

但列品中特異發見ノ礦物若クハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ製工品ハ從前其地方ニ無キ所ニシテ新タニ製出セシモノ就中輸入品ニ代用スヘキモノ機械ハ新發明若クハ洋式模造ニテ便益ノ實驗アルモノ等ハ特ニ之ヲ標記シ其他一般物産工藝ノ進歩及ヒ通商運輸ノ得失ヨリ將來勸奬ノ目途等マテ都テ緊要ノ景況ヲ報告スヘシ

但連年開設スルモノハ前年ト比較ノ景況ヲ擧ケ且ツ民設ナレハ其損益及ヒ保續ノ目的等ヲ記載スヘシ

各府縣長官又ハ何博覽會社

○博覽會共進會場內外ニ於テ出品煙草菓子賣藥ヲ販賣スルトキノ取扱方ヲ定ム

明治二十一年一月大藏省訓令第一號

內務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス

博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場內外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其販扱方ハ左ノ通心得ヘシ

但明治十一年六月內務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス

一從來免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ別段免許鑑札ヲ受クルニ及ハス

一印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ

一出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何營業人住處氏名ヲ記載セル標札ヲ揭出スヘシ

一前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場內狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキハ其場近傍ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許可スルコトヲ得

○各地方勸業諮問會幷勸業委員設置方

明治十六年五月太政官布達第十三號

各地方ノ便宜ニ從ヒ左ノ條項ニ照準シテ勸業諮問會幷勸業委員ヲ設置スルコトヲ得

第一條　諮問會ハ各府縣勸業事務ニ付府知事縣令ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條　諮問會員ハ府知事縣令ニ於テ管內農商工事ニ名望アル者ヲ選テ之ニ充ツ其人員幷處務ノ順序等總テ府知事縣令ノ適宜之ヲ定ムヘシ

第三條　諮問會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條　勸業委員ハ區町村若クハ聯合區町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ又ハ（區郡）長戶長ノ諮問ニ備フルモノトス

第五條　勸業委員ノ人員撰擧方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ニ於テ之ヲ評定シ府知事縣令ノ裁可ヲ受クヘシ

第六條　區町村若クハ聯合區町村ニ於テ農業會商業會工業會又ハ農商工ヲ併セタル勸業會其他同業會ヲ設置スルトキハ勸業委員ヲシテ會員タラシムルコトヲ得

第七條　府知事縣令ニ於テ勸業委員ノ設置及第六條ノ各會設立ヲ要用ト認ムルトキハ誘導シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得此場合ニハ農商務卿ニ稟議シテ認可ヲ請クヘシ

第八條　勸業委員ノ旅費日當及第六條ノ各會諸費ハ區町村及聯合區町村ノ協議費ヲ以テ支辨シ又ハ關係各業者ニ於テ協議支辨スルコトヲ得但有志者ヲ以テ組織スル者ハ此例ニ非ラス

第九條　農商務卿及主務ノ官署ハ各地方勸業上ノ件ニ付諸問會又ハ第六條各會ノ意見ヲ問フコトアルヘシ

諮問會又ハ第六條ノ各會ハ勸業上公益ノ件ニ付農商務卿及主務ノ官署ニ意見書又ハ報告書ヲ呈スルコトヲ得

○勸業委員ノ人員選擧方法及處務順序評定心得方

明治十六年九月農商務省達第十一號

本年五月第十三號布達第五條勸業委員ノ人員選擧方法及ヒ處務

ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評定ニ任スヘキノ處該會ノ設置無之地方ニ於テハ其手續ヲナスヘキ爲メ之ニ代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモ不苦爲心得此旨相達候事

○農事巡回教師ヲ設置ス

明治十八年八月
農商務省達第三十三號

農事改良ヲ圖ランカ爲ニ左ノ條項ニ依リ農事巡回教師ヲ設置候條此旨相達候事

第一條　農事巡回教師ハ普通農事及蚕糸製糸製茶糖業害蟲牧畜ノ業務毎ニ之ヲ設ク

但最初ハ蚕糸製糸及ヒ普通農事トシ其他ハ漸次着手スルモノトス

第二條　農事巡回教師ハ甲乙二部ニ分チ甲部ハ全國ヲ巡回シ乙部ハ一府縣内ヲ巡回スルモノトス

第三條　甲部農事巡回教師ハ當省ヨリ派出シ農務局員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第四條　甲部農事巡回教師ノ巡回ハ六箇月以内トシ從來定ムル所ノ農區ニ據リ巡回セシムルモノトス

第五條　乙部農事巡回教師ハ地方官ヲシテ其管内實業者中老練ニシテ名望アリ衆ヲ學理ニ通スルモノヲ選ハシメ當省ヨリ之ヲ命スルモノトス

但選定ノ上ハ本人履歴書ヲ添ヘ當省ヘ申出ヘシ

第六條　乙部農事巡回教師ハ任期中取扱判任官ニ準シ無給トス

但任免ノ節旅費ヲ給セス

第七條　乙部農事巡回教師ハ巡回中手當金（旅費雖信郵便筆墨料ヲ等ニ充ルモノトス）ヲ當省ヨリ支給スヘシ

但金額ハ毎年別段ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第八條　乙部農事巡回教師ノ巡回期節及其區劃ハ府知事縣令適宜之ヲ定ムヘシ

第九條　乙部農事巡回教師ハ其復命報告書ヲ作リ地方官ヲ經由シテ當省ヘ差出スヘシ

第十條　乙部農事巡回教師心得

乙部農事巡回教師ハ各其職務ニ就テ實業者ノ知識ヲ開キ誘導ノ力ヲ盡スヘキモノヲ巧ニシ衰ヘタルヲ盛ンニセンカ爲メ專ラ誘導ノ力ヲ盡スヘキモノナレハ人ニ接スルニ温柔懇切ナルヘシ決シテ倨傲ノ擧動アラサルヤウ注意スヘシ

第二項　巡回中ハ其職務ニ就テ見聞スル事項ニ注意シ若シ有害ト認ムルモノアルトキハ細ニ其理由ヲ述ヘテ說諭ヲナスヘシ

第三項　巡回中ハ其地方ノ勧業主務者即チ勧業課郡役所又ハ勧業委員ト協議シ實業者ヲ招キ集メ談話シ又ハ實業者ノ質問ヲ受ケテ答辯ヲナスヘシ

但可成人民執業ノ時間ヲ妨クサルヤウ注意スヘシ

第四項　巡回先ノ地ニ農談會集談會若クハ諮問會等アルトキハ其席ニ臨ミテ談話シ又ハ質問ニ答辯スヘシ

第五項　質問中答辯シ難キ事アルトキハ其理由ヲ詳カニ記載シテ農務局ニ出シ說明ヲ乞フヘシ

第六項　有益ノ發明又ハ衆人ノ模範タルヘキ事業ヲ起セシモノアルヲ見聞セシトキハ其旨ヲ報道スヘシ

第七項　巡回中見聞セシ事ニ就キ意見アルトキハ書取ヲ以テ農商務卿又ハ地方長官ニ申出ルコトヲ得ヘシ

第八項　巡回中ノ談話筆記其他見聞セシ事項ハ可成精密ニ記載シテ報告書トナシ復命スヘシ

○乙部農事巡回教師設置ヲ停止ス

明治二十二年一月
農商務省訓令第三號

明治十八年八月當省第三十三號達中乙部農事巡回教師設置ノ儀ハ明治二十二年三月三十一日限リ當分ノ内停止ス

○農商務通信規則ヲ定ム

明治十六年十二月
農商務省達第二十一號

農商工山林ノ盛衰消長ヲ詳悉スヘキ爲メ生產消費ノ數量ヲ調査スルハ勧業ノ要務ナルヲ以テ遍ク全國通信ノ氣脈ヲ連絡スヘキ農商務通信規則左之通相定候條右ニ準シ取扱フヘシ此旨相達候事

但本文ニ關スル通信事項ハ更ニ主務局ヨリ通牒スヘシ

農商務通信規則

第一條　農商工山林ニ關スル事件ハ此規則ニ據リ府縣廳及ヒ通信員ヨリ主務局ニ報告シ主務局ハ府縣廳又ハ通信員ニ諮問應答スヘシ

第二條　通信ヲ分チテ定期報臨時報ノ二種トス

但府縣管内ニ施行スヘキ通信規則ハ各府縣ニ於テ適宜之ヲ設ケ通信ノ便益ヲ開クヘキモノトス（十七年第十五號省達ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第三條　定期報トハ通信事件中特ニ報告期限ヲ定メタルモノヲ云フ

第四條　臨時報トハ通信事件中報告期限アルト否トニ關セス臨時報告ヲ要スヘキモノヲ云フ

但非常ノ變異ニ係ル場合ハ電報ヲ用フヘシ

第五條　報告上物質形狀等文辭ニ盡シ難キモノハ圖畫、寫眞、雛形若クハ見本等ヲ添ヘ數量比例歩合等ニ係ルモノハ表ヲ附スヘシ

第六條　報告ハ可成平易ノ文字ヲ用ヒ又數量歩合等ニシテ地方慣用ノ稱呼アルモノ及ヒ方言等ハ解說ヲ加フヘシ

第七條　府縣廳又ハ通信員ニ於テ質問ヲ要スル事件アルトキハ其事由ヲ詳記シテ主務局ニ質問スヘシ

第八條　定期及ヒ臨時報ノ外農商工山林ニ關シ尚ホ報告ヲ要スヘキ事項左ノ如シ

一　地方廳ノ調査書、會社、協會等ノ規則幷ニ報告書又ハ官民ノ著述、編纂、飜譯及ヒ報告書等ハ可成現本ヲ送致スヘシ但著譯書等册數沿革ナルモノハ題名、目錄及ヒ其要旨ノミヲ報告スルモ妨ケナシ

二　有功者ノ事蹟及ヒ履歷等ハ古今ニ拘ハラス調査報告スヘシ

三　改良、發明、試驗ノ成蹟及ヒ該非業ニ關スル各地方從來ノ習慣、新設ノ方法等ハ可成周密ニ報告スヘシ

四　博覽會、共進會、集談會等ノ開設アルトキハ其開閉期日及ヒ出品、談話ノ景況等ヲ報告スヘシ

第九條　第一條第七條ニ依リ通信員ト主務局ノ間ニ於テ文書ノ往復ヲ爲シタルトキハ其寫ヲ添ヘ通信員ヨリ直チニ府縣廳ヘ申報スヘシ

第十條　通信員ハ各府縣ニ於テ適宜相設ケ族籍姓名住所ヲ記シ當省ヘ届出ツヘシ
但府縣管内ノ通信委員ヲシテ之ヲ兼ヌシムヘキモノトス

（同上）

○農商務通信規則ニ據リ通信員ヨリ直接ニ主務局ヘ報告ヲ要スヘキ事項ヲ定ム　明治十七年三月農商務省達第七號

明治十六年十二月當省第二十一號達農商務通信規則ニ據リ通信員ヨリ直接ニ主務局ヘ報告ヲ要スヘキモノハ當分ノ内左ノ事項ニ限ルヘシ此旨相達候事

一蟲害蔓延ノ勢アルトキ
一牛馬傳染病劇烈ノ徴候アルトキ

第十二類　教育

第一章　教育勅語　學事通則

○教育ニ關スル勅語ニ付訓示　明治二十三年十月文部省訓令第八號

今般教育ニ關シ勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其謄本ヲ頒チ本大臣ノ訓示ヲ發スヘシ管内公私立學校ヘ各一通ヲ交付シ能ク聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

○同上直轄學校ニ達ス　明治二十三年十月文部省訓令直轄學校

今般教育ニ關シ勅語ヲ下タシタマヒタルニ付其謄本及本大臣ノ訓示各一通ヲ交付ス能ク聖意ノ在ル所ヲシテ貫徹セシムヘシ

別紙

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト倶ニ拳々服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

訓示

謹テ惟フニ我カ

天皇陛下深ク臣民ノ教育ニ軫念シタマヒ茲ニ忝ク

勅語ヲ下タシタマフ顯正職ヲ文部ニ奉シ躬重任ヲ荷ヒ日夕省思シテ懼フ所ヲ愆ランコトヲ恐ル今

勅語ヲ奉承シテ感奮措ク能ハス謹テ

勅語ノ謄本ヲ作リ普ク之ヲ全國ノ學校ニ頒ツ凡ソ教育ノ職ニ在ル者須ク常ニ聖意ヲ奉體シテ研磨漸陶ノ務ヲ怠ラサルヘク殊ニ學校ノ式日及其他便宜日時ヲ定メ生徒ヲ會集シテ

勅語ヲ奉讀シ且意ヲ加ヘテ諄々誨告シ生徒ヲシテ夙夜ニ佩服スル所アラシムヘシ

○諸學校通則　明治十九年四月勅令第十六號

朕諸學校通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

諸學校通則

第一條　師範學校ヲ除クノ外各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設立維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノアルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條　寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ目途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條　學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

第四條　凡教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得ルモノタルヘシ

第五條　公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

○公立學校敷地無代價下渡坪數制限

明治十三年一月第六號達

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀ニ付明治七年九月第百三十一號ヲ以テ相達置候處今般教育令布告候ニ付テハ自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ無代價ニテ可下渡候條官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ内務省ヘ可申出此旨相達候事

○公立學校敷地下渡方府縣ヘ委任ス

明治十三年三月内務省乙第八號達

本年第六號ヲ以テ布達相成候公立學校設置ノ地所下與候儀更ニ其府縣ニ委任候條府縣限處分ノ後當省ヘ可屆出此旨相達候事

但市街地及森林ハ此限ニアラス

○公立農學校等ノ敷地無代價下渡

明治十四年三月第十號達

明治十三年月第六號ヲ以テ公立小學校公立中學校公立專門學校等設置ノ地所ハ無代價ニテ可下渡旨相達置候處今般教育令改正布告候ニ付テハ自今公立農學校公立商業學校公立職工學校設置ノ地所モ公立專門學校同樣可取計此旨相達候事

○公立農學校實驗用ノ地所無借地料使用定限

明治十六年十月第四十五號達

公立農學校ニ於テ實驗用田圃ニ供スル爲メ官有地ヲ要スルトキハ毎一校五町歩以内無借地料使用差許候條官有地ノ内差支ナキ場所ヲ撰ミ内務省ヘ申出ヘシ此旨相達候事

○府縣立醫學校費用支辨方

明治二十年九月勅令第四十八號

府縣立醫學校費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立醫學校ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス

○學齡未滿ノ幼兒保育方

明治十七年二月文部省達第三號

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候樣取計フヘシ此旨相達候事

○徵兵事務條例ニ依リ生徒ヘ在學證明ヲ交付セシム

明治十八年一月文部省達第一號

府縣ニ於テ徵兵事務條例第十六條但書ニ據リ生徒ヘ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ此旨相達候事

書式（用紙公用罫紙質適宜）

證明書

族籍　姓名　年齡

右ハ本校何學科第何期級修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾箇年ノ課程ヲ卒リタル者ナリ依テ之ヲ證明ス

年　月　日　何縣立何學校長姓名印

○地方學事通則

明治二十三年十月法律第八十九號

廢地方學事通則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方學事通則

第一條　町村ハ教育事務ノ爲勅令ノ規程ニ依リ町村學校組合ヲ設ク

町村學校組合ニハ町村制第百十七條ヲ適用ス

第二條　市町村及町村學校組合ハ勅令ノ規程ニ依リ小學校教育事務ノ爲之ヲ數區ニ分畫ス前項ノ場合ニ於テ其區ニ區會若クハ區總會ノ設ケアルトキハ市制第百十三條町村制第百十四條ノ規程ヲ適用ス

一區若クハ數區ヲシテ專ラ使用セシムル小學校ニ關シテハ其區内ニ住居シ若クハ滯在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業（店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク）ヲナス者ニ於テ設立維持ヲ負擔スヘシ但其區ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツヘシ

第三條　教育事務ニ關シテハ市町村内ノ區及町村學校組合若クハ其區ニ對シ市若クハ町村ニ關スル法律ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

第四條　町村及町村學校組合若クハ其區ハ郡長ノ指定ニ從ヒ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ノ兒童教育事務ノ委託ニ應スヘシ

第五條　町村學校組合ヲ解ク場合町村學校組合内ノ某町村ヲシテ其小學校數校中ノ一校若クハ若干校ノ設立維持ヲ一町村限リ負擔セシムル場合又ハ町村學校組合内ノ某町村ヲシテ兒童教育事務ノ委託ヲ一町村限リ負擔セシムル場合ニ於テ財產處分ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ議決スヘシ

兒童教育事務ノ委託ニ對スル報酬金ノ給否金額及其他必要ノ事項ニ付關係町村ノ協議整ハサルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第六條　府縣郡市町村及町村學校組合ハ教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

市町村内若クハ町村學校組合内ノ區ハ小學校教育事務ノ爲勅令ノ定ムル所ニ依リ學務委員ヲ置クコトヲ得

第七條　市町村立學校長其他校員學務委員及區長竝其代理者等ノ執行スル國ノ教育事務ハ市制第三十一條第二本文町村制第三十三條第二本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第八條　府縣郡市町村吏員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ教育

事務取扱ニ關スルモノニ就キテハ其懲戒ノ規程ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條　府縣郡市町村町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ學校基本財產ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ハ單ニ其學校ノ爲之ヲ設ケ又ハ通シテ數學校ノ爲之ヲ設クルコトヲ得

學校基本財產ノ廢設竝支消賣却交換讓渡質入書入ハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

學校基本財產ノ收入ヲ教育ニ關スル目的ノ外ニ使用スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　府縣郡市町村町村學校組合及市町村內若クハ町村學校組合內ノ區ハ教育ニ關スル寄附金等アルトキハ學校基本財產トナスヘシ但寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

公立學校ノ授業料入學試驗料書器使用料等ハ學校基本財產トナスコトヲ得

府縣郡ハ歲出ノ殘餘ヲ以テ學校基本財產トナシ又ハ特ニ歲入ノ幾分ヲ增加シテ學校基本財產トナスコトヲ得

第十一條　從前學校ノ爲設クタル積立金等ニシテ市制第八十一條町村制第八十一條ニ依リ市町村基本財產ニ加入シタルモノハ本法實施後二年間ハ府縣郡參事會ノ許可ヲ受ケ之ヲ區分シテ學校基本財產トナスコトヲ得

第十二條　府縣制郡制市制町村制ニ規定シタル內務大臣ノ職務及關係ハ教育ニ關スル事項ニ就キテハ內務文部兩大臣ニ屬スルモノトス

第十三條　本法ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第二章　大學　師範學校　中學校　小學校　特別認可學校規則

第一款　大學　師範學校

○大學令　明治十九年三月勅令第三號

朕帝國大學令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

帝國大學令

第一條　帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攻究スルヲ以目的トス

第二條　帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攻究シ分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條　分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條　分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入リ學術技藝ノ蘊奧ヲ攻究シ定規ノ試驗ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第五條　帝國大學職員ヲ置ク左ノ如シ

總長　勅任
評議官　奏任
書記官　奏任

書記　判任

第六條　帝國大學總長ハ文部大臣ノ命ヲ承ケ帝國大學ヲ總轄ス其職掌ノ要領ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一　帝國大學ノ秩序ヲ保持スル事

第二　帝國大學ノ狀況ヲ監視シ改良ヲ加フルノ必要アリト認ムル事項ハ案ヲ具ヘテ文部大臣ニ提出スル事

第三　評議會ノ議長トナリテ其議事ヲ整理シ及議事ノ顚末ヲ文部大臣ニ報告スル事

第四　法科大學長ノ職務ニ當ル事

第七條　評議會ハ便宜ニ從ヒ帝國大學若クハ文部省ニ於テ開設ス

評議會ノ議ニ付スヘキ事項左ノ如シ

第一　學科課程ニ關スル事項

第二　大學院及分科大學ノ利害ノ銷長ニ關スル事項

第八條　評議官ハ各分科大學長（法科大學長ヲ除ク）法科大學教頭及各分科大學教授各一名ヲ以テ之ニ充ツ教授ヨリ評議官トナル者ハ分科大學每ニ教授ヲシテ互選セシメ文部大臣之ヲ命ス

第九條　教授ノ互選ニ係ル評議官ハ二箇年ヲ以テ任期トス但再選セラルヽコトヲ得（二十五年九月勅令第七十五號ヲ以テ八條及本條改正）

第十條　分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學及理科大學及農科大學トス（二十三年六月十一日勅令第九十三號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス

農科大學ヲ分テ農學科林學科及獸醫學科ノ三部トス（同上追加）

第十一條　各分科大學職員ヲ置ク左ノ如シ（二十三年十一月二日勅令第二百六十九號ヲ以テ改正）

長　奏任
教頭　奏任
教授　奏任
助教授　奏任
舍監　奏任
書記　判任
技手　判任

教授ハ特ニ勅任トナスコトアルヘシ又長及教頭ハ勅任ノ教授ヨリ兼任ノ者ハ勅任トス

第十二條　分科大學長ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス

分科大學長ハ帝國大學總長ノ命令ノ範圍內ニ於テ主管科大學ノ事務ヲ掌理ス

第十三條　各分科大學ノ教頭ハ教授ヨリ特選シテ之ニ兼任ス」

教頭ハ教授及助教授ノ職務ヲ監督シ及教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第十四條　各分科大學ノ教授助教授ノ人員ハ其學科ノ輕重及學生ノ員數ニ應シテ別ニ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○師範學校令　明治十九年四月勅令第十三號

朕師範學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

師範學校令

第一條　師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス

但生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス

第二條　師範學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校

ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條　高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ

但尋常師範學校附屬小學校ノ經費（簡易科ニ係ル　ハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノミヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支辨スヘシ（二十年七月六日勅令第三十號ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第四條　高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ（三十四年十一月勅令第二百十六號ヲ以テ但書ヲ削除ス）

第五條　尋常師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム（同上ヲ以テ改正）

第六條　師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ

第七條　尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼ヌルコトヲ得

第八條　師範學校生徒ノ定員竝ニ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム（同上ヲ以テ追加ス）

第九條　師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

第十條　高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス但特宜ニ依リ各種ノ學校ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十一條　尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス但特宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十二條　師範學校ノ學科及其程度竝教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○高等師範學校生徒募集規則

明治十九年十月
文部省令第十八號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校生徒募集規則

第一條　高等師範學校男女生徒ハ府縣知事之ヲ選擧シ高等師範學校長其中ニ就キ選拔スルモノトス

第二條　高等師範學校ノ男生徒ハ尋常師範學校ヲ卒業シタルモノヨリ選擧シ女生徒ハ尋常師範學校ノ二箇年ノ課程ヲ終リタルモノ若クハ之ニ均シキ學力竝資格ヲ有スルモノヨリ選擧スヘシ

第三條　高等師範學校ノ男女生徒ハ每年一度之ヲ募集シ其期日及員數ハ其都度高等師範學校ヨリ府縣ニ通知スヘシ

第四條　新募生徒ハ初メ試驗生トシテ三箇月以內假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限リ本入學ヲ許スヘシ

○高等師範學校卒業生服務規則

明治十九年十月
文部省令第十九號

勅令第十三號師範學校令第八條ニ基キ高等師範學校卒業生服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校卒業生服務規則

第一條　高等師範學校男子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業

證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第二條　高等師範學校男子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

第三條　高等師範學校女子師範學科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第四條　高等師範學校女子師範學科卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省指定ノ場所ニ奉職スル義務ヲ有スルモノトス

○女子高等師範學校

明治二十三年三月
勅令第四十二號

朕女子高等師範學校設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

高等師範學校中女子部ヲ分離シテ女子高等師範學校トス

○尋常師範學校生徒定員

明治二十五年七月
文部省令第九號

明治十九年五月文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則ヲ以テ定メタル尋常師範學校生徒ノ定員ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校生徒ノ定員

第一條　尋常師範學校生徒ノ定員ハ左表ノ如シ但北海道及沖繩縣ニ關シテハ北海道廳長官沖繩縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

尋常師範學校生徒定員表

府縣名	生徒定員	府縣名	生徒定員	府縣名	生徒定員
東京	一四〇	靜岡	一五〇	島根	一四〇
京都	一五〇	山梨	一〇〇	岡山	一八〇
大阪	一八〇	滋賀	一二〇	廣島	一八〇
神奈川	一二〇	岐阜	一四〇	山口	一五〇
兵庫	二〇〇	長野	二〇〇	和歌山	一四〇
長崎	一二〇	宮城	一二〇	德島	一四〇
新潟	二四〇	福島	一八〇	香川	一二〇
埼玉	一五〇	巖手	一二〇	愛媛	一四〇
群馬	一四〇	青森	一二〇	高知	一五〇
千葉	一五〇	山形	一五〇	福岡	二〇〇
茨城	一四〇	秋田	一五〇	大分	一四〇
栃木	一二〇	福井	一四〇	佐賀	一二〇
奈良	一〇〇	石川	一五〇	熊本	一五〇
三重	一五〇	富山	一四〇	宮崎	一〇〇
愛知	二〇〇	鳥取	一〇〇	鹿兒島	一五〇

第二條　男女生徒員數ノ割合ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ

第三條　土地ノ情況ニ依リ女生徒ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ男生徒ノミヲ以テ定員ヲ滿スヘシ

第四條　小學校教員需要供給上ノ關係又ハ其他特別ノ事情アルトキハ第一條ノ定員ニ超過シタル生徒ヲ募集スルコトヲ得

第五條　第三條及第四條ノ場合ニハ北海道廳長官府縣知事ニ

於テ其事由ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

○尋常師範學校生徒募集規則

明治二十五年七月文部省令第十號

明治十九年五月文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校生徒募集規則

第一條　尋常師範學校生徒ノ募集ハ毎學年ノ始ニ於テスヘシ

第二條　尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ募集シ其身體品行學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ

一　身體健全品行方正ニシテ小學校教員タルニ適當ナリト認ムル者

二　尋常小學校ノ本科准教員タルヘキ免許狀ヲ有シ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

三　男子ハ年齡十七年以上二十年未滿女子ハ年齡十五年以上二十年未滿ノ者但特別ノ事情アルトキハ二十年以上二十五年以下ノ者ヲ入學セシムルコトヲ得

第三條　尋常師範學校ノ各學級ニ缺員アルトキハ前條第一款ノ資格ヲ有シ學力年齡トモ該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得但第二學年程度以上ノ學級ニ補缺スヘキ者ハ小學校教員免許狀ヲ有シテ教員ノ職ニ從事シタル經歷アル者ニ限ル

第四條　尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ但土地ノ情況ニ依リ第二種ノ生徒ヲ募集セサルコトヲ得

一　男子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トス

二　女子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

第二種　直ニ尋常師範學校ニ願出ツル者

前項ノ郡長市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ郡長市長ヲ假カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第五條　入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ四箇月以內假ニ入學セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限リ本入學ヲ許可スヘシ但尋常師範學校ノ豫備科卒業生ヲ入學セシムル場合ニ於テハ本文ニ依ルノ限ニ在ラス

第六條　此規則ニ關スル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○尋常師範學校卒業生服務規則

明治二十五年七月文部省令第十一號

明治十九年五月文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校卒業生服務規則

第一條　尋常師範學校卒業生ハ左ノ服務年限間其道府縣內ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス但第二條ノ義務ヲ卒リタル者ハ小學校ニアラサル官立公立學校教員ノ職若クハ學務ニ關スル他ノ公職ヲ以テ本文ノ職ニ代フルコトヲ得

一　男子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トス

二　女子卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

トス

第二條ノ義務ヲ卒リタル者ニシテ特別ノ事情アルトキハ北海道廳長官府縣知事ノ許可ヲ受ケ他ノ道府縣內ニ於テ就職スルコトヲ得

第二條　尋常師範學校卒業生ニシテ第一種ノ生徒タリシ者ハ其薦擧セラレタル郡市內（東京市京都市大阪市ニ於テハ其區內ニ適當ノ位置ナキトキニ限ル）ニ於テ第二種ノ生徒タリシ者ハ其道府縣內ニ於テ左ノ年限間北海道廳長官府縣知事ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スルノ義務ヲ有ス

一　男子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

二　女子卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第三條　第一條第二條ノ義務ヲ卒リタル者ハ其經歷書ヲ具シテ北海道廳長官府縣知事ニ届出ツヘシ

第四條　第一條第二條ノ義務ヲ盡ス能ハサルノ事故アル者ハ其理由ヲ具シテ北海道廳長官府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ

北海道廳長官府縣知事ハ第一條第二項ニ依リ他ノ道府縣內ニ於テ就職スルコトヲ許可スル者又ハ前項ニ依リ義務ヲ免除スル者ニ就キ其情狀ニ依リ在學中給與シタル學資ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシムルトキハ其都度報告スヘシ

第五條　尋常師範學校卒業生服務中ノ者ニシテ左ニ揭クル者アルトキハ其情狀ニ依リ北海道廳長官府縣知事ハ在學中給與シタル學資ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシムヘシ

一　謂レナク第一條第二條ノ義務ヲ盡サヽル者

二　免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

第七條　此規則ニ關スル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○尋常師範學校設備規則

明治二十五年七月文部省令第十二號

明治十九年四月勅令第十三號師範學校令第五條ニ基キ尋常師範學校設備規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校設備規則

第一條　校地ハ學校ノ規模ニ適應ナル地積ヲ有シ道德上及衛生上ニ害ナキ所タルヘシ

第二條　校地ハ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クヘシ土地ノ情況ニ依リ校地內ニ之ヲ設クルコトヲ得サルトキハ成ル可ク學校ノ近傍ニ之ヲ設クヘシ

農業科ヲ置ク學校ニ於テハ便宜ノ地ニ農業練習場ヲ設クヘシ

第三條　校舍ハ其構造堅牢ニシテ教授上管理上及衛生上ニ適スルモノタルヘシ

第四條　校舍ハ學科ノ種類學級及生徒ノ數竝其他ノ須要ニ應シ左ノ諸室ヲ備フヘシ

一　通常教室

二　物理化學、博物、家事、圖畫、音樂等ノ特別教室竝商業實習室手工實習場

三　圖書室器械室藥品室標本室

四　講堂
五　職員室其他所要ノ諸室

前項ノ外便宜體操場ニ充ツヘキ相當ノ建物ヲ設クヘシ

第五條　前條ノ外生徒寄宿舍ヲ設クヘシ

寄宿舍ハ自修室寢室ヲ區別シ且舍監室食堂浴室盥嗽場等ヲ備フヘシ

第六條　校舍ハ男生徒女生徒ニ就キ區別シテ之ヲ設クヘシ但通常教室及寄宿舍ヲ除クノ外ハ土地ノ情況ニ依リ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第七條　教室ニ要スル黒板机腰掛等ハ適應ナルモノヲ備ヘ其他舍室ニ要スル器品等ヲ備フヘシ

第八條　地理、數學、物理化學、博物、家事、圖畫、音樂、體操、農業、商業、手工等ノ教授用器具器械標本模型圖畫等ハ尋常師範學校ノ學科程度ヲ教授スルニ差支ナキ樣之ヲ備フヘシ

第九條　圖書ハ教科用及參考用ノモノヲ備フヘシ

第十條　尋常師範學校ニ附屬小學校ヲ設クヘシ附屬小學校ノ設備ハ則ニ定ムル所ニ依ル

第十一條　女生徒ノ爲ニ尋常師範學校ニ便宜附屬幼稚園ヲ設クヘシ

第十二條　土地ノ情況ニ依リ便宜學校長舍監等ノ住宅ヲ設クヘシ

第十三條　學校ノ位置ヲ選定シ又ハ校舍ヲ建築スルニハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其敷地建物ノ圖面坪數及建築ノ設計等ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

○師範學校卒業者服務ノ狀況報告ノ件

明治十九年四月文部省令第六號

師範學校ノ卒業者ニシテ敎職ニ從事スル者ハ自今每六ケ月服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告スヘシ

但既應ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ同府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノアリシ地方ノ所屬府縣立師範學校ニ報告セシムヘシ

○尋常師範學校生徒中不都合ノ行爲アルトキハ學資償還ノ件

明治二十二年十月文部省訓令第四號

尋常師範學校生徒中不都合ノ行爲アルヲ以テ退學ヲ命スルモノアルトキハ在學中給與シタル學資ヲ償還セシムヘシ

○尋常師範學校ノ訓育敎授管理等ニ關スル諸規程開申ノ件

明治二十五年七月文部省訓令第六號

明治二十六年四月一日以後道廳府縣ニ於テ尋常師範學校ノ訓育敎授管理等ニ關スル諸規程ヲ制定若クハ改廢スルトキハ其都度本大臣ニ開申スヘク又同日以前ニ制定セル規程ニシテ同日以後ニ施行スヘキモノハ取纏メ開申スヘシ

○尋常師範學校職員執務上一定ノ服ヲ着用セシムヘキ件

明治二十二年九月文部省訓令第二號

尋常師範學校職員ノ儀ハ特ニ容儀ヲ正シ威重ヲ保タシムルコト職務上必要ニ付自今該學校長敎員幹事舍監ハ執務上一定ノ服ヲ着用セシムヘシ

但本文改正一時ニ行屆キ難キモノハ來明治二十二年六月迄猶豫スルコトヲ得

第二款　中學校

○中學校令

明治十九年四月勅令第十五號

候中學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

中學校令

第一條　中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル敎育ヲ爲ス所トス

第二條　中學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等中學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條　高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第四條　高等中學校ハ全國（北海道沖繩縣ヲ除ク）ヲ五區ニ分チシ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條　高等中學校ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支辨シ又ハ國庫ト該學校設置區域內ニ在ル府縣ノ地方稅トニ依リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其管理及經費分擔ノ方法等ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六條　尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方稅ノ支辨又ハ補助ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ

第七條　中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條　中學校ノ敎科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第九條　尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ス

○高等中學校經費各府縣分擔額報告方

明治二十年九月文部省訓令第十三號

高等中學校設置區域內府縣委員會ニ於テ議定シタル高等中學校經費各府縣分擔額ハ會開地ノ府縣知事ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

○高等中學校設置區域

明治十九年十一月文部省告示第三號

勅令第十五號中學校令第四條ニ基キ高等中學校ノ設置區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校設置區域

第一條　高等中學校ノ設置區域左ノ如シ

第一區　東京府　神奈川縣　埼玉縣　千葉縣　茨城縣　群馬縣　栃木縣　愛知縣　靜岡縣　山梨縣　長野縣

第二區　宮城縣　福島縣　岩手縣　青森縣　山形縣　秋田縣

第三區　京都府　大阪府　兵庫縣　三重縣　滋賀縣　岐阜縣　島取縣　島根縣　岡山縣　廣島縣　山口縣　和歌山縣　德島縣　香川縣　愛媛縣　高知縣（二十年十二月文部省告示第十二號ヲ以テ奈良縣ヲ加ヘ二十一年十二月同省告示第十一號ヲ以テ香川縣ヲ迫加ス）

第四區　新潟縣　福井縣　石川縣　富山縣

第五區　長崎縣　福岡縣　大分縣　佐賀縣　熊本縣
宮崎縣　鹿兒島縣

第二條　高等中學校ノ位置第一區ハ東京第三區ハ京都第四區ハ金澤トシ第二區第五區ハ追テ之ヲ定ム

○高等中學校ノ位置ヲ定ム
明治十九年十二月文部省告示第四號

文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第二區ハ仙臺トス

○第五區高等中學校ノ位置ヲ熊本ト爲ス
明治二十年四月文部省告示第二號

明治十九年十一月文部省告示第三號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第五區ハ熊本トス

○仙臺及金澤高等中學校名稱
明治二十年四月文部省告示第三號

今般高等中學校設置區域第二區內仙臺及第四區內金澤ニ高等中學校ヲ設置シ仙臺ニ設置スルモノヲ第二高等中學校ト稱シ金澤ニ設置スルモノヲ第四高等中學校ト稱ス

○高等中學校設置區域第五區內熊本ニ高等中學校設置
明治二十年五月文部省告示第五號

今般高等中學校設置區域第五區內熊本ニ高等中學校ヲ設置シ第五高等中學校ト稱ス

○高等中學校令中醫學ヲ教授スル處ヲ醫學部トシ醫學部設置ノ位置ヲ定ム
明治二十年八月文部省告示第六號

明治十九年四月勅令第十五號中學校令第三條高等中學校ノ醫科ヲ教授スル所ヲ醫學部トシ第一ヨリ第五ニ至ル各高等中學校ニ之ヲ設ク第二高等中學校醫學部ハ岡山ニ第四高等中學校醫學部ハ金澤ニ置キ第一第五高等中學校醫學部ノ位置ハ追テ之ヲ定ム

○鹿兒島縣立中學造士館ヲ高等中學校ノ制ニ改ム
明治二十年十二月文部省告示第十四號

明治十九年四月勅令第十六號諸學校通則第一條ニ從ヒ鹿兒島縣立中學造士館ヲ高等中學校ノ制ニ改メテ當省ノ管理トナシ鹿兒島高等中學造士館ト稱ス

○第一高等中學校醫學部位置
明治二十年文部省告示第八號

本年八月文部省告示第六號中第一高等中學校醫學部ハ千葉ニ之ヲ置ク

○山口中學校ヲ高等中學ノ制ニ改ム
明治十九年文部省告示第二號

勅令第十六號諸學校通則第一條ニ從ヒ山口中學校ヲ高等中學校ノ制ニ改メ當省ノ管理トナシ山口高等中學校ト稱ス

○高等中學校醫學部ニ於テ死體解剖

出願聞屆方
明治二十一年九月文部省告示第十號

從來死體解剖ノ儀帝國大學醫科大學ヘ願出ル者アルトキハ該學校ニ於テ聞屆來候處自今文部省直轄高等中學校醫學部ニ於テモ同樣可聞屆ニ付右望ノ者ハ該醫學部ヘ願出ヘシ

○高等中學校經費支辨方
明治二十年八月勅令第四十號

除高等中學校經費支辨ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テハ該學校設置區域內ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ內文部大臣之ヲ定メ各府縣分擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ査定シ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定スル可シ但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

○高等中學校設置區域內府縣委員會規則
明治二十年九月勅令第四十六號

除高等中學校設置區域內府縣委員會規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

高等中學校設置區域內府縣委員會規則

第一條　委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ該學校設置區域內各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以內トス但各府縣知事協議ノ上內務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スル事ヲ得

第二條　委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ

第三條　委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス
但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第四條　委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其廳ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第五條　委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ

第六條　府縣會規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條項中府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

○尋常中學校設備規則
明治二十四年十二月文部省令第二十七號

明治十九年四月勅令第十五號中學校令第十條ニ基キ尋常中學校ノ設備ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常中學校設備規則

第一條　校地ハ學校ノ規模ニ適應ナル地積ヲ有シ道德上衛生上ニ害ナキ所タルヘシ

第二條　校地內ニハ體操場ニ充ツヘキ相當ノ場所ヲ設クヘシ土地ノ情況ニ依リ校地內ニ之ヲ設クルコトヲ得サルトキハ他ノ場所ニ設クルモ妨ケナシ

第三條　校舍ハ左ノ教室等ヲ備フヘシ

一　生徒各組ニ應スル通常教室
一　物理化學博物圖畫ノ特別教室
一　圖書室機械室繪畫室標本室
一　講堂
一　職員室生徒控室其他所要ノ諸室等

前項ノ外土地ノ情況ニ依リ體操場ニ充ツヘキ相當ノ建物ヲ設クヘシ

第四條　生徒ヲ寄宿セシムヘキ學校ニ於テハ寄宿舍ヲ設クヘシ

寄宿舍ハ自修室凝室ヲ區別シ且舍監室食堂浴室盥嗽場等ヲ備フヘシ

第五條　校舍ハ其構造堅牢ニシテ教授上管理上及衛生上ニ適スルモノタルヘシ

第六條　教室ニ要スル黑板机腰掛等ハ適應ナルモノヲ備ヘ其他舍室ニ要スル器品等ヲ備フヘシ

第七條　物理化學植物動物鑛物地理數學生理圖畫等ノ教授用器械標本模型掛圖其他體操用器具等ハ尋常中學校ノ學科程度ヲ教授スルニ差支ナキ樣之ヲ備フヘシ

第八條　圖書ハ教授用及參考用ノモノヲ備フヘシ

第九條　教員ハ受持學科授業時數及生徒ノ組數ニ依リ相當ノ員數ヲ置クヘシ

第十條　農業工業商業等ノ專修科ヲ設クルトキハ特ニ農業ニ於テハ實驗用田圃及農具等商業ニ於テハ商業實習室及商品見本等工業ニ於テハ實習工場及工具等ノ設備ヲ爲スヘク其他ノ專修科ヲ設クル場合ニ於テモ亦之ニ準シ其特殊ノ設備ヲ爲スヘシ

○中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムヘキ學校　明治二十二年五月文部省訓令第一號

明治二十二年一月法律第一號徵兵令第十一條中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムヘキ學校ハ其市町村立ニ係ルモノハ左ノ第一項及第二項ニ該當シ私立ニ係ルモノハ左ノ各項ニ該當スルヲ要スル儀ニ付該事項ヲ具備スルモノアリト思考スルトキハ其狀況ヲ稟申スヘシ

一　普通學校ニ在リテハ中學校ノ成規ニ準據シタルモノタルヘク農工商等ノ實業學校ニ在リテハ入學生徒ハ高等小學校卒業ノ者若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スル者ニシテ三箇年以上ノ學科課程ヲ具フルモノタルヘク其他專門學校ニ在リテハ入學生徒ハ尋常中學校卒業ノ者若クハ概ヲ尋常中學科ノ程度ニ據リ相當ナル豫備ノ學科ヲ修メタル者ニシテ三箇年以上ノ學科課程ヲ具フルモノタルヘキ事

一　所定ノ學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員及校舍器具地所等ヲ具備スル事

一　學校長及教員任免ノ方法一定確實ナル事

一　授業料束脩等ノ如キ豫メ確定シ難キ收入金ヲ除キ每年ノ費金中二千四百圓以上ハ全ク資本ノ利子ト認メ得ヘキモノアル事

一　設置以來三箇年ヲ經タ相當ノ成績アルモノタルヘキ事

第三款　小學校　特別認可學校

○小學校令　明治二十三年十月勅令第二百十五號

小學校令

第一章　小學校ノ本旨及種類

第一條　小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎竝其生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條　小學校ハ之ヲ分チ尋常小學校及高等小學校トス

市町村若クハ町村學校組合又ハ其區ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ一人若クハ數人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

徒弟學校及實業補習學校モ亦小學校ノ種類トス

第三條　尋常小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術體操トス

土地ノ情況ニ依リ體操ヲ缺クコトヲ得又日本地理日本歷史圖畫唱歌手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第四條　高等小學校ノ教科目ハ修身讀書作文習字算術日本地理日本歷史外國地理理科圖畫唱歌體操トス女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルモノトス

土地ノ情況ニ依リ外國地理唱歌ノ一科目若クハ二科目ヲ缺クコトヲ得又幾何ノ初步外國語農業商業手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第五條　尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ設クルコトヲ得

第六條　高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ農科商科工科ノ一科若クハ數科ノ專修科ヲ置クコトヲ得其專修科ハ正教科ニ併セ置キ又ハ之ニ代フルモノトス

第七條　尋常小學校又ハ高等小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

第八條　尋常小學校ノ修業年限ハ三箇年又ハ四箇年トシ高等小學校ノ修業年限ハ二箇年三箇年又ハ四箇年トス

第九條　專修科補習科徒弟學校及實業補習學校ノ教科目及修業年限ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條　小學校ノ某教科目ハ文部大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ之ヲ隨意科目トナシ又ハ之ヲ學習シ能ハサル兒童ニ課セサルコトヲ得

第十一條　第三條又ハ第四條ニ依リ小學校ノ教科目ヲ加除スルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ設キ又ハ其併置ヲ止ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條第七條又ハ第八條ニ依リ正教科專修科若クハ補習科ヲ設置廢止シ又ハ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條　小學校教則ノ大綱ハ文部大臣之ヲ定ム

府縣知事ハ小學校教則ノ大綱ニ基キ其府縣ノ小學校教則ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

府小學校令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第十三條　小學校ノ單級多級ノ制男女ヲ區別シ教授スヘキ場合多級ノ學校ニ學校長ヲ置クヘキ場合一教員ノ教授シ得ヘキ兒童ノ數等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十四條　小學校ノ休業ハ日曜日ヲ除クノ外每年九十日ヲ超エサルモノトス但徒弟學校實業補習學校補習科等ニ就キテハ此限ニ在ラス

特別ノ事情アルトキハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ニ依ラサルコトヲ得

傳染病ノ流行其他非常變災アルトキハ市內ニ在ル小學校ニ就キテハ府縣知事町村內ニ在ル小學校ニ就キテハ郡長ニ於テ一時之ヲ閉サシムヘシ其急迫ナル場合ニ於テモ亦之ヲ閉ツルコトヲ得

第十五條　小學校ノ每週教授時間ノ制限及祝日大祭日ノ儀式等ニ關シテハ文部大臣之ヲ規定ス

第十六條　小學校ノ教科用圖書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ就キ小學校圖書審查委員ニ於テ審查シ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ルヘシ

審查委員ハ府縣ニ置キ府縣官吏府縣參事會員尋常師範學校長教員及小學校教員ヲ以テ之ヲ組織ス

審查委員及審查ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條　小學校ニ於テハ校舍校地校具體操場ヲ備フヘキモノトス

設ケル小學校ニ於テハ農業練習場ヲ備フヘキモノトス

特別ノ事情アルトキハ體操場農業練習場ヲ備ヘサルコトヲ得此場合ニ於テハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條　校舍校地校具體操場農業練習場ハ非常變災ノ場合ヲ除クノ外小學校ノ目的ニ關セサル事件ノ爲使用スルコトヲ得ス若シ特別ノ事情アリテ之ヲ使用セントスルトキハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ市內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事町村內ニ在ル私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條　校舍校地校具體操場農業練習場ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣定ムル所ノ準則ニ基キ府縣知事ニ於テ土地ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第三章　就學

第二十條　兒童滿六歲ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル間ハ就學セシムルノ義務アルモノトス

前項ノ義務ハ兒童ノ學齡ニ達シタル年ノ學年ノ始メヨリ生スルモノトス

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ハ文部大臣之ヲ規定ス

第二十一條　貧窮ノ爲又ハ兒童ノ疾病ノ爲其他已ムヲ得サル事故ノ爲學齡兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ就學ノ猶豫又ハ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘシ

市町村長ハ前項ノ申立ニ依リ必要ナリト認ムルトキ又ハ前項ノ申立ナキモ猶必要ナリト認ムルトキハ學齡兒童若クハ

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ就キテ檢查ヲ行フコトヲ得

市町村長ハ本條第一項ノ申立又ハ第二項ノ檢查ニ依リ就學猶豫シ又ハ免除スルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條　學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲ市町村立小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ出席セシムヘシ若シ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル兒童又ハ一家中ニ傳染病者アル兒童又ハ不良ノ行爲アル兒童又ハ課業ニ堪ヘサル兒童等ハ小學校ニ出席スルコトヲ許サス

前項ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ム

第二十四條　學齡兒童ノ就學及家庭教育等ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四章　小學校ノ設置

第二十五條　各市町村ニ於テ其市町村內ノ學齡兒童ヲ就學セシムルニ足ルヘキ尋常小學校ヲ設置ス

町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ本令ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視ス

第二十六條　市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ府縣知事其市ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

町村ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ郡長其町村ノ意見ヲ聞キ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十七條　郡長ハ一町村ノ資力其町村ニ相當スヘキ尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スル場合ニ於テハ其町村ヲシテ尋常小學校設置ノ爲他ノ町村ト學校組合ヲ設ケシメ及其學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ヲ定

第三十條　府縣知事ハ市ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキハ市内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ市ヲ分チテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔ノ爲其他用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

郡長ハ町村若クハ町村學校組合ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキ其他必要ノ事情アルトキハ町村内若クハ町村學校組合内ノ一區若クハ數區ニ對シ又ハ町村若クハ町村學校組合ヲ分チテ數區トナシ其一區若クハ數區ニ對シ小學校設置ニ關スル負擔若クハ兒童教育事務委託ノ爲其他用スヘキ小學校ヲ指定スルコトヲ得

一　町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校數校アルトキ

二　町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所數箇所アルトキ

三　町村若クハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ト其一部内ノ兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託スルコトヲ要スル場所トアルトキ

本條第一項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係市及區ノ意見ヲ聞クヘシ

本條第二項ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十一條　郡長ハ第二十八條第一項ノ事情アルモ同項ニ依ルコトヲ得スト認定スルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ其町村若クハ町村學校組合ヲシテ其一部ニ關シテハ尋常小學校ノ設置又ハ兒童教育事務ノ委託ニ關ル義務ヲ免レシムルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テモ町村若クハ町村學校組合ハ特別ノ事情アルトキハ猶郡長ノ許可ヲ受ケテ尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得其小學校ノ位置ハ其町村若クハ町村學校組合ニ於テ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十二條　郡長ハ町村學校組合ヲ解カシムルトキハ關係町村及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

郡長ハ町村内若クハ其一部内又ハ町村學校組合ノ一部内ノ就學スヘキ學齡兒童ノ全部若クハ一部ノ教育事務ヲ他町村又ハ町村學校組合若クハ其區ニ委託セシムルコトヲ止ムルトキハ關係町村町村學校組合及區ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十三條　町村ハ一町村限リノ負擔ヲ以テ尋常小學校ヲ設置スルニ比シ猶優等ナル尋常小學校ヲ得ヘキ場合又ハ其費用ヲ輕減シ得ヘキ場合ニ於テハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ學校組合ヲ設ケ其學校組合ニ相當スル尋常小學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數並位置ハ其學校組合ヲ設クルノ協議ヲナスノ際併セテ之ヲ定メ郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條　前條ノ町村學校組合ハ郡長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ解クコトヲ得ス

郡長ハ前條及本條ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十五條　府縣知事ハ市内ニ私立尋常小學校アルトキハ其市立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

郡長ハ町村内若クハ町村學校組合内ニ私立尋常小學校アルトキハ其町村立小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務委託ノ事ヲ猶豫シ其私立小學校ヲ以テ之ニ代用セシムルコトヲ得

私立小學校代用ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第三十六條　市町村ハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ高等小學校ヲ設置シ又ハ其區ヲシテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三十七條　町村ハ數町村ノ協議ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケテ町村學校組合ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ高等小學校ヲ設置スルコトヲ得

郡長ハ前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

本條ノ學校組合ニ就キテハ第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十八條　第三十六條及第三十七條ノ規程ハ徒弟學校及實業補習學校ニ關シ之ヲ適用ス

第三十九條　第三十一條末項第三十三條第三十六條第三十七條及第三十八條ニ揭クル小學校ノ廢止ハ其設立ノ例ニ依ルヘシ

第四十條　市町村ハ幼稚園圖書館盲唖學校其他小學校ニ類スル各種學校等ヲ設置スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十六條第三十七條及第三十八條ニ依リ町村學校組合ヲシテ兒童教育事務ヲ委託セシムルトキハ其學校組合内某町村ヲシテ其委託ノ

事ヲ一町村限リ負擔セシムルコトヲ得

本條ノ處分ヲナシ又ハ之ヲ止ムルトキハ關係町村及町村學校組合ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四十六條　郡長ニ於テ町村學校組合ノ資力其學校組合ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定シ又ハ町村學校組合ノ一部タル町村ノ資力其學校組合費用ノ分擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ郡ハ郡費ヲ以テ其町村ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十八條　府縣知事ニ於テ市ノ資力其市ニ相當スル尋常小學校設置ノ負擔ニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其市ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第四十九條　府縣知事ニ於テ郡ノ資力第四十六條又ハ第四十七條ノ補助ヲ負擔スルニ堪ヘスト認定スルトキハ府縣ハ府縣費ヲ以テ其郡ニ相當ノ補助ヲ與フヘシ

前項ノ認定ニ就キテハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ文部大臣ノ指揮ヲ受クヘシ

第五十　區長竝其代理者及學務委員ニ於テ國ノ教育事務ヲ執行スルカ爲ニ要スル費用ハ市町村若クハ町村學校組合ノ負擔トス但區長竝其代理者及區ノ學務委員ニ關スルモノハ市町村會又ハ町村學校組合會ノ議決ヲ以テ區ノ負擔トナスコトヲ得

第五十一條　郡視學ノ給料旅費退隱料等ハ郡ノ負擔トス其額及支給方法ハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ムヘシ

第五十二條　小學校教員檢定委員及檢定ニ關スル費用ニシテ府縣ニ屬スルモノ竝小學校教科用圖書審查委員及審查ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス

第六章　小學校長及教員

第五十三條　小學校ノ教員中小學校ノ某教科目ヲ教授スル者ヲ專科教員トシ其他ノ者ヲ本科教員トス

小學校ノ教員中小學校ノ教科目ヲ補助教授シ又ハ一時教授スル者ヲ准教員トシ其他ノ者ヲ正教員トス

第五十四條　小學校ノ教員ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第五十五條　小學校教員免許狀ヲ得ルニハ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

檢定ハ府縣ニ小學校教員檢定委員ヲ置キ之ヲ施行ス但某種ノ小學校教員ノ檢定ハ文部省ニ於テ之ヲ施行ス

檢定委員ノ組織權限檢定ノ科目方法受檢者ノ資格教員免許狀教員候補者等ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十六條　小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第五十七條　市町村立小學校長及教員ノ名稱及待遇法ハ別ニ

定ムル所ニ依ル

第五十八條　市町村立小學校長及教員ノ任用俸職ハ府縣知事之ヲ行フ

第五十九條　市町村立小學校ノ教員ハ市町村長ニ於テ薦擧スル所ノ三名以下ノ候補者ニ就キ府縣知事之ヲ任スルモノトス

府縣知事ハ前項ノ候補者適當ナラスト認ムルトキハ再ヒ薦擧ヲナサシメ猶適當ナラスト認ムルトキハ薦擧ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

本條第一項ノ薦擧ハ教員ノ缺員ヲ生シ又ハ新ニ其位地ヲ設ケタル日ヨリ二十八日以內ニ之ヲ施行シ第二項ノ薦擧ハ其薦擧ヲ命セラレタル日ヨリ十四日以內ニ之ヲ施行スヘシ若シ此期限內ニ施行セサルトキハ府縣知事ハ薦擧ニ依ラスシテ直ニ之ヲ任スヘシ

市町村立小學校長ハ府縣知事其學校ノ教員中ニ就キテ之ヲ命任スルモノトス

第六十　市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準竝給料旅費其他諸給與ノ支給方法ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ給料額及旅費額標準ノ範圍內ニ於テ教員ニ支付スヘキ給料及旅費ノ額ハ市參事會又ハ町村長ノ意見ヲ聞キ府縣知事之ヲ確定ス

市町村立小學校教員ノ給料ノ若干分ハ土地ノ使用又ハ物品ヲ以テ之ヲ換給スルコトヲ得但其歩合ハ府縣知事ニ於テ之ヲ規定シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ニ依リ換給スル土地ノ使用又ハ物品ノ價格ハ市町村ノ申出ニ依リ監督官廳之ヲ確定ス其確定シタル價格ハ監督官廳ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ訂正スルコトヲ得又監督官廳ハ前項ノ換給ヲ適當ナラスト認ムルトキハ之ヲ許サヽルコトヲ得

第六十一條　小學校長及教員ノ職務及服務規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十二條　市町村立小學校教員ハ學務委員ニ任セラレタルトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第六十三條　小學校長及教員ハ兒童ニ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第六十四條　市町村立小學校長及教員職務ヲ粗略ニシ若クハ職務上遵奉スヘキ指命ニ違背シ又ハ體面ヲ汚辱スルノ行爲アルトキハ府縣知事懲戒處分ヲ行フヘシ其處分ハ譴責罰俸免職免許狀褫奪トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ノ行爲アルトキハ其情狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其業務ヲ停止シ又ハ免許狀ヲ褫奪スヘシ

免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ十四日以內ニ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ニ關スル規則竝私立小學校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第六十五條　小學校教員禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキハ其職ヲ失ヒ免許狀ヲ褫奪セラルヽモノトス

第七章　管理及監督

第六十六條　郡ニ郡視學一名ヲ置キ府縣知事之ヲ任免ス

郡視學ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトス

第六十七條　郡視學ハ郡長ノ指揮命令ヲ受ケテ郡內ノ敎育事務ヲ監督ス

第六十八條　府縣知事ハ郡ノ申出ニ依リ特ニ郡視學ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ府縣知事ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ一名ニ命シテ郡視學ノ名義ヲ以テ其職務ヲ行ハシムル

第六十九條　郡視學ニ對スル懲戒處分ハ官吏懲戒例ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

第七十條　市町村長ハ市町村ニ屬スル國ノ敎育事務ヲ管理シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ首席敎員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十一條　市町村長ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就テハ市制第百二十四條町村制第百二十八條ヲ適用ス

第七十二條　市ハ敎育事務ノ爲市制第六十一條ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但市會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ市立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中敎員ヨリ出ツル者ハ市長之ヲ任免ス

第七十三條　市ノ學務委員ハ市ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ市長ヲ補助ス

第七十四條　府縣知事ハ市ノ區長及其代理者ヲシテ市長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ敎育事務ニ關シ市長ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第七十五條　市ハ敎育事務ノ爲市條例ノ規程ニ依リ市內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ市立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス

第七十六條　府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ市長區長竝其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第七十七條　市ノ區長及其代理者竝第七十二條及第七十五條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關シ市町村立小學校ヲ管理ス但學校長若クハ首席敎員ノ管理ニ屬スル事務ハ之ヲ監督ス

第七十八條　第七十三條及第七十六條ノ事務執行ニ關スル市長區長及其代理者竝學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第七十九條　町村ハ敎育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ但町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

委員ニハ町村立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス其數ハ委員總數ノ四分一ニ下ルコトヲ得ス

委員中敎員ヨリ出ツル者ハ町村長之ヲ任免ス

第八十條　町村ノ學務委員ハ町村ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ町村長ヲ補助ス

第八十一條　府縣知事ハ町村ノ區長及其代理者ヲシテ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區ニ屬スル國ノ敎育事務ヲ補助執行セシムルコトヲ得

第八十二條　町村ハ敎育事務ノ爲町村條例ノ規程ニ依リ町村內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

委員ニハ町村立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス

第八十三條　府縣知事ハ前條ノ學務委員ヲシテ其區ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ町村長區長竝其代理者ヲ補助セシムルコトヲ得

第八十四條　町村ノ區長及其代理者竝第七十九條及第八十二條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就キハ左ノ例ニ依ル

一　町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第百二十八條第二項第一項及第二項ノ規程ヲ適用ス

二　町村制第百二十八條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十五條　第八十條及第八十三條ノ事務執行ニ關スル町村長區長及其代理者竝學務委員ノ關係及其他必要ナル規則ハ府縣知事之ヲ定ムルコトヲ得

第八章　附則

第八十六條　町村學校組合ハ敎育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學務委員ヲ置クヘシ

町村學校組合ハ敎育事務ノ爲條例ノ規程ニ依リ學校組合內ノ區ニ學務委員ヲ置クコトヲ得

本條ノ委員ニハ町村立小學校男敎員ヲ加フヘキモノトス

第八十七條　町村學校組合ノ學務委員ハ町村學校組合ニ屬スル國ノ敎育事務ニ就キ組合長ヲ補助ス

第八十八條　第八十六條ノ學務委員ニ對スル懲戒處分ニシテ國ノ敎育事務取扱ニ關スルモノニ就キハ左ノ例ニ依ル

一　町村制第六十八條第五ノ規程ニ依リ町村長ニ於テ懲戒處分ヲ行フ此場合ニ於テハ町村制第百二十八條第二項第一項及第二項ノ規程ヲ適用ス

二　町村制第百二十八條第一項及第二項第三第四ノ規程ヲ適用ス

第八十九條　特別ノ事情アル町村若クハ町村學校組合ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受ケ學務委員ヲ置カサルコトヲ得

第九十條　文部大臣ハ私立小學校ニシテ法律命令ノ規程ニ戾ルモノアルトキハ府縣知事ニ命シテ之ヲ閉鎖セシムルコトヲ得

第九十一條　前諸條ニ揭クル敎育事務トハ專ラ小學校敎育ノ範圍ニ屬スル事務ヲ謂フ

第九章　附則

第九十二條　本令ハ市制町村制ヲ施行シタル府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第九十三條　幼稚園圖書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校等ニ就キテハ本令ノ規程ヲ適用スルコトヲ得但尋常小

學校設置ノ義務就學ノ義務等ニ關スル規程ハ此限ニ在ラス

第九十五條　本令ニ依ラスシテ授與シタル小學校教員免許狀ハ仍其効力ヲ有スルモノトス但正教員准教員ノ別ハ文部大臣之ヲ定ム

第九十六條　明治十九年四月勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ府縣ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○小學校令施行ニ關スル件

明治二十四年一月
勅令第五號

朕小學校令ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ハ其全部施行シ難キ事狀アル地方ニ限リ府縣知事ノ具狀ニ依リ文部大臣ノ指揮ヲ以テ其一部ヨリ漸次施行スルコトヲ得

○從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件

明治二十四年三月
勅令第十九號

朕明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令ノ施行ニ際シ從來ノ市町村立小學校一時存續ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　從來ノ市町村立尋常小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ一時之ヲ存續シ左ノ各款ニ依リ處分スヘシ

一　新ニ尋常小學校ノ校數並位置ヲ指定セラレタル市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其區域內ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概ヲ左ノ如シ

一　代用ノ期限

二　代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域

三　代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員

四　代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額

五　其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項

第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ

第三條　代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得

第四條　私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス

第五條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一　小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ

二　小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ

コトヲ得

第三條　聯合町村ヨリ成立スル尋常小學校設置區域及其他市町村ノ區域ト同一ナラサル尋常小學校設置區域ニ於テ設置スル尋常小學校ハ其町村聯合會又ハ學區會ノ議決ニ依リ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令施行ノ時期ニ達シタル後ニ於テモ尙六箇月以內之ヲ存續スルコトヲ得

第四條　第一條乃至第三條ニ依リ一時存續スル小學校ニ係ル費用及第四條ノ事務ニ係ル費用ハ從來ノ小學校設置區域ニ於テ從來ノ例ニ依リ之ヲ負擔スヘシ

第六條　第一條第五款及第三條ニ依リ一時存續シタル小學校ニ係ル事務引續方等ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定スルコトヲ得

第七條　本令ノ規定ニ依リ難キ場合ニ在テハ府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ經テ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

○私立小學校代用ニ關スル規則

明治二十四年三月
文部省令第一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第三十五條ニ基キ私立小學校代用ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

私立小學校代用規則

第一條　市ハ其區域內ニアル私立尋常小學校ヲ以テ市立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

町村及町村學校組合ハ其區域內ニアル私立尋常小學校ヲ以テ町村立尋常小學校ノ設置若クハ其一部ノ設備又ハ兒童教育事務ノ委託ニ代用セントスルトキハ該私立小學校設立者ト協議ノ上郡長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ニ依リ協議ヲ遂クヘキ事項概ヲ左ノ如シ

一　代用ノ期限

二　代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ住スル區域

三　代用私立小學校ニ於テ入學ヲ許スヘキ兒童ノ定員

四　代用私立小學校ニ對スル補助金ノ給否及金額

五　其他府縣知事ニ於テ必要トスル事項

第一條ノ許可ヲ經タル後協議ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事項ニ就キ更ニ許可ヲ受クヘシ

第三條　代用ノ期限ハ代用セントスル私立尋常小學校ノ修業年限ノ二倍ニ超過スルコトヲ得ス但期限滿ルノ後更ニ代用スルコトヲ得

第四條　私立尋常小學校ハ設立以來三箇年ヲ經過シテ教育上相應ノ成績アルモノニアラサレハ代用私立小學校タルコトヲ得ス

第五條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村若クハ町村學校組合ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

一　小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ修業年限ヲ改定セントスルトキ

二　小學校令第十一條第二項ノ許可ヲ受ケントスルトキ

三　多級ノ編制ヲ單級ノ編制ニ改メントスルトキ
四　學校ノ位置ヲ變更セントスルトキ
五　其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第六條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町事會、町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
一　小學校令第十一條第一項ニ依リ尋常小學校ノ教科目ヲ加除セントスルトキ
二　其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第七條　代用私立小學校設立者ハ左ノ場合ニ於テハ豫メ市町村長若クハ町村組合長ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
一　小學校令第十一條第三項ニ依リ尋常小學校ノ補習科ヲ設置廢止セントスルトキ
二　單級ノ編制ヲ多級ノ編制ニ改メントスルトキ
三　小學校令第十七條及第十八條ニ依リ尋常小學校ニ關シテハ府縣知事町村內ニ在ル學校ニ就キテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得
四　學校長教員ヲ任用解罷セントスルトキ
五　第二條第三ノ定員ニ滿タサル場合ニ於テ第二條第二ノ區域外ノ兒童ノ入學ヲ許サントスルトキ
六　其他府縣知事ニ於テ必要トスル場合

第八條　代用私立小學校設立者ニ於テ市町村長等ニ報告スヘキ事項ニ關シテハ府縣知事之ヲ規定ス

第九條　代用私立小學校授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ
代用私立小學校授業料ノ納付上ニ關シ設立者ノ取計ニ異存アル者ハ市町村長若クハ町村組合長ノ處分ヲ請フコトヲ得

第十條　代用私立小學校設立者ハ第二條第三ノ定員ニ滿タサル場合ニ於テ第二條第二ノ區域內ノ兒童ノ入學ヲ拒辭スルコトヲ得ス
代用私立小學校ノ入學上ニ關スル設立者ノ取計ニ就キテハ前條第二項ヲ適用ス

第十一條　監督官廳ハ私立小學校ノ代用ヲ以テ學政上ニ必要ナラス若クハ不利ナリト認定スルトキハ其代用ヲ解除セシムヘシ

第十二條　市町村及町村學校組合ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ代用私立小學校設立者ト協議ノ上監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ監督官廳ノ處分ヲ請フコトヲ得
代用私立小學校設立者ハ其代用ヲ解除セントスルトキハ市町村若クハ町村學校組合ト協議ノ上市內ニ在ル學校ニ就キテハ府縣知事町村內ニ在ル學校ニ就キテハ郡長ノ許可ヲ受クヘシ若シ其協議整ハサルトキハ府縣知事若クハ郡長ノ處分ヲ請フコトヲ得
本條ノ許可又ハ處分ヲ請フハ三箇月前ニ於テスヘシ但特別ノ事情アル場合ニ於テハ此限ニアラス

第十三條　代用私立小學校設立者ハ先ツ代用解除ノ特可ヲ經ルニアラサレハ其學校ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十四條　府縣知事ハ此規則中ノ條規ニ依リ難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得（明治二十四年十一月文部省令第十七號ヲ以テ本條追加）

○市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程

明治二十五年四月勅令第四十號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第九條ニ基キ補習科ノ教科目及修業年限ヲ定ムルコト左ノ如シ

補習科ノ教科目及修業年限

第一條　尋常小學校補習科ノ教科目ハ修身、讀書、作文、習字及算術トス
土地ノ情況ニ依リ日本地理、日本歷史、理科、圖畫、手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加ヘ女兒ノ爲メニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得

第二條　高等小學校補習科ノ教科目ハ修身、讀書、作文、習字及算術トス女兒ノ爲メニハ裁縫ヲ加フルモノトス
土地ノ情況ニ依リ日本地理、日本歷史、外國地理、理科、圖畫、幾何、外國語、農業、商業、手工ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第三條　補習科ノ修業年限ハ三箇年以內トス

第四條　第一條又ハ第二條ニ依リ補習科ノ教科目ヲ加ヘ若クハ第三條ニ依リ補習科ノ修業年限ヲ定ムルニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

○隨意科目等ニ關スル規則

明治二十四年十一月
文部省令第十號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十條ニ基キ隨意科目等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

隨意科目等ニ關スル規則

第一條　尋常小學校ノ教科目中體操、日本地理、日本歷史、圖

縣市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市制町村制ヲ施行セサル地方ノ小學教育規程

第一條　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ設置小學校ニ關スル府縣郡ノ負擔竝郡視學學務委員區長及其代理者ニ關スル條規ヲ除キ其他ノ條規ハ市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テ左ノ例ニ依リ之ヲ施行ス

一　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ノ規程ニ依リ難キ場合アルトキハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

二　明治二十三年勅令第二百十五號小學校令ニ規定スル府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行ヒ郡長ノ職務ハ郡長ヲ置カサル地方ニ於テハ島司區長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行ヒ市長町村長若クハ市參事會ノ職務ハ島司郡區長戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フヘシ

第二條　區町村ハ北海道廳長官府縣知事ノ指定スル區域及位置ニ於テ一小學校若クハ數小學校ヲ設置スヘシ

第三條　本令施行ノ時期ハ北海道廳長官府縣知事ノ具申ニ依リ文部大臣之ヲ定ム

第四條　明治十九年勅令第十四號小學校令其他本令ニ牴觸スル成規ハ本令施行ノ地方ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

○補習科ノ教科目及修業年限

明治二十四年十一月
文部省令第八號

韮、唱歌、手工及裁縫ハ隨意科目トナスコトヲ得

第二條　商等小學校ノ教科目中外國地理、唱歌、幾何ノ初歩、外國語、農業、商業及手工ハ隨意科目トナスコトヲ得

第三條　補習科ノ教科目ハ修身ヲ除ク外總テ隨意科目トナスコトヲ得

第四條　小學校ノ教科目中唱歌、體操等ハ其學校長ニ於テ兒童ノ身體該教科目ヲ學習シ能ハスト認ムルトキハ之ヲ課セサルコトヲ得

第五條　第一條乃至第三條ニ依リ小學校ノ某教科目ヲ隨意科目トナスニハ市町村立小學校ニ就キテハ其市參事會又ハ町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

○小學校教則大綱

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十二條ニ基キ小學校教則ノ大綱ヲ定ムルコト左ノ如シ　（明治二十四年十一月文部省令第十一號）

小學校教則大綱

第一條　小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

德性ノ涵養ハ教育上最モ意ヲ用フヘキナリ故ニ何レノ教科目ニ於テモ道德教育國民教育ニ關連スル事項ハ殊ニ留意シテ教授センコトヲ要ス

知識技能ハ確實ニシテ實用ニ適センコトヲ要ス故ニ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ撰ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシメンコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相連絡シテ補益セシンコトヲ要ス

第二條　修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ兒童ノ良心ヲ啓培シテ其德性ヲ涵養シ人道實踐ノ方法ヲ授クルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ孝悌、友愛、仁慈、信實、禮敬、義勇、恭儉等實踐ノ方法ヲ授ケ殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養ハンコトヲ務メ又國家ニ對スル責務ノ大要ヲ指示シ兼テ社會ノ制裁竝ニ人ノ重ンスヘキコトヲ知ラシメ兒童ヲ誘キテ風俗品位ノ純正ニ趨カンコトニ注意スヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ陶冶ノ功ヲ堅固ナラシメンコトヲ務ムヘシ

女兒ニ在リテハ殊ニ貞淑ノ美德ヲ養ハンコトニ注意スヘシ」

修身ヲ授クルニハ近易ノ俚諺及嘉言善行等ヲ例證シテ勸戒ヲ示シ教員身自ラ兒童ノ模範トナリ兒童ヲシテ浸潤薰染セシメンコトヲ要ス

第三條　讀書及作文ハ普通ノ言語竝日常須知ノ文字、文句、文章ノ讀ミ方、綴リ方及意義ヲ知ラシメ適當ナル言語及字句ヲ用ヒテ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ兼テ智德ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ近易適切ナル事物ニ就キ平易ニ談話シ其言語ヲ練習シテ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ次ニ假名ノ短文及近易ナル漢字交リノ短文ヲ授ケ漸ク進ミテハ讀書作文ノ教授時間ヲ別チ讀書ハ假名文及近易ナル漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ假名文、近易ナル漢字交リ文、日用書類等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ讀書ハ普通ノ漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ漢字交リ文及日用書類ヲ授クヘシ

讀書作文ヲ授クル際單語、短句、短文等ヲ書取ラシメ若クハ改作セシメテ假名及語句ノ用法ニ熟セシムヘシ

讀本ノ文章ハ平易ニシテ普通ノ國文ノ模範タルヘキモノナルヲ要ス故ニ兒童ニ理會シ易クシテ其心情ヲ快活純正ナラシムルモノヲ採ルヘク又其事項ハ修身、地理、歷史、理科其他日常ノ生活ニ必須ニシテ教授ノ趣味ヲ添フルモノタルヘシ」

作文ハ讀書又ハ其他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項、兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ行文平易ニシテ旨趣明瞭ナラシメンコトヲ要ス

言語ハ他ノ教科目ノ教授ニ於テモ常ニ注意シテ練習セシメンコトヲ要ス

第四條　習字ハ通常ノ文字ノ書キ方ヲ知ラシメ運筆ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ片假名及平假名、近易ナル漢字交リノ短句、通常ノ人名、苗字、物名、地名等ノ日用文字及日用書類ヲ習ハシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ事項ヲ擴メ更ニ日常適切ノ文字ヲ增シ又日用書類ヲ習ハシムヘシ

漢字ノ書體ハ尋常小學校ニ於テハ行書若クハ楷書トシ高等小學校ニ於テハ楷書行書草書トス

習字ヲ授クル際殊ニ姿勢ヲ整ヘ執筆及運筆ヲ正シクシ字行ハ整正ヲ倘ヒ運筆ハ務メテ連カナラシメンコトヲ要ス

他ノ教科目ノ教授ニ於テ文字ヲ書カシムルコトアルトキハ亦常ニ其字形及字行ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

第五條　算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ兼テ思想ヲ精密ニシ傍ラ生業上有益ナル知識ヲ與フルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニハ初メハ十以下ノ數ノ範圍内ニ於テ計ヘ方及加減乘除ヲ授ケ漸ク數ノ範圍ヲ擴メテ萬以下ノ數ノ範圍内ニ於テ加減乘除及通常ノ小數ノ計ヘ方ヲ授クヘシ」

初年ヨリ漸ク度量衡貨幣及時刻ノ制ヲ授ケ之ヲ日常ノ事物ニ應用シテ其計算ニ習熟セシムヘシ

尋常小學校ニ於テ筆算若クハ珠算ヲ用ヒ又ハ算筆珠算ヲ併セ用フルハ土地ノ情況ニ依ルヘシ

高等小學校ニ於テハ筆算ヲ用ヒ初メハ度量衡貨幣及時刻ノ計算ヲ練習セシメ漸ク進ミテハ簡易ナル比例問題ト通常ノ分數小數トヲ併セ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍複雜ナル比例問題及日常適切ノ百分算ヲ授ケ土地ノ情況ニ依リテハ開平開立及簡易ナル求積若クハ日用簿記ノ概略ヲ授ケ又ハ珠算ヲ用ヒテ加減乘除ヲ授クヘシ但尋常小學校ニ於テ珠算ノミヲ學ヒタル者ニハ最初筆算ヲ用ヒテ加減乘除ヲ授クヘシ

算術ヲ授クルニハ理會精密ニ運算習熟シテ應用自在ナラシメンコトヲ務メ又常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ運算ノ方法及理由ヲ說明セシメ殊ニ暗算ニ熟達セシメンコトヲ要ス

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授クル事項ヲ適用シ又ハ土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ノモノヲ選フヘシ

第六條　日本地理及外國地理ハ日本ノ地理及外國地理ノ大要ヲ授クテ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ理會セシメ兼テ愛國ノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本地理ヲ加フルトキハ鄉土ノ地形方

位等兒童ノ日常目擊セル事物ニ就キテ端緒ヲ開キ漸ク進ミテ本邦ノ地形、氣候、著名ノ都會、人民ノ生業等ノ概略ヲ授ケ更ニ地球ノ形狀、水陸ノ別其他重要ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ日本地理ハ前項ニ準シテ稍詳ニ之ヲ授ケ更ニ地球ノ運動、晝夜四季ノ原由ヲ理會セシメ外國地理ハ大洋大洲五帶ノ別、各大洲ノ地形、氣候、產物、人種及支那朝鮮其他本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ概略ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ既ニ授ケタル日本地理ヲ復習シテ稍詳ニ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ授ケ兼テ簡易ナル經濟上ノ關係ヲ理會セシムヘシ

地理ヲ授クルニハ實地ノ觀察ニ基キ又地球儀地圖寫眞等ヲ示シ兒童ノ熟知セル事物ニ依リ比較類推セシメテ確實ナル知識ヲ得シメ又常ニ歷史上ノ事實ニ連絡セシメンコトヲ要ス

第七條　日本歷史ハ本邦國體ノ大要ヲ知ラシメテ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本歷史ヲ加フルトキハ鄉土ニ關スル史談ヨリ始メ漸ク建國ノ體制　皇統ノ無窮　歷代天皇ノ　盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來等ノ概略ヲ授ケテ國初ヨリ現時ニ至ルマデノ事歷ノ大要ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ニ準シテ稍詳ニ國初ヨリ現時ニ至ルマデノ事歷ヲ授クヘシ

日本歷史ヲ授クルニハ成ルヘク圖畫等ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ人物ノ言行等ニ就キテハ之ヲ修身ニ於テ授クヘシ

第八條　理科ハ通常ノ天然物及現象ノ觀察ヲ精密ニシ其相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テヲ天然物ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

最初ハ主トシテ學校所在ノ地方ニ於ケル植物動物鑛物及自然ノ現象ニ就キテ兒童ノ目擊シ得ル事實ヲ授ケ就中重要ナル植物動物ノ形狀構造及生活發育ノ狀態ヲ觀察セシメテ其大要ヲ理會セシメ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ植物動物ノ相互及人生ニ對スル關係、通常ノ物理上化學上ノ現象、通常兒童ノ目擊シ得ル器械ノ構造作用等ヲ理會セシメ兼テヲ人身ノ生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ

理科ニ於テハ務メテ農業工業其他人民ノ生活上ニ適切ナル事項ヲ授ケ殊ニ植物動物等ヲ授クル際之ヲ以テ製スル重要ナル人工物ノ製法効用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授クルニハ實地ノ觀察ニ基キ若クハ標本模型圖畫等ヲ示シ又ハ簡單ナル試驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメンコトヲ要ス

第九條　圖畫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ描クノ能ヲ養ヒ兼テヲ意匠ヲ練リ形體ノ美ヲ辨知セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ圖畫ヲ加フルトキハ直線曲線及其單形ヨリ始メ時々直線曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之ヲ描カシメ漸ク進ミテハ簡單ナル形體ヲ描カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク進ミテハ諸般ノ形體ニ移リ實物若クハ手本ニ就キテ描カシメ又時々自己ノ

工夫ヲ以テ圖案セシメ兼テヲ簡易ナル用器畫ヲ授クヘシ

圖畫ヲ授クルニハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目擊セル物體中ニ就キテ之ヲ描カシメ兼テヲ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス

第十條　唱歌ハ耳及發聲器ヲ練習シテ容易キ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テヲ音樂ノ美ヲ辨知セシメ德性ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ通常譜表ヲ用ヒスシテ容易キ單音唱歌ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク譜表ヲ用ヒテ單音唱歌ヲ授クヘシ

歌詞及樂譜ハ成ルヘク本邦古今ノ名家ノ作ニ係ルモノヨリ之ヲ撰ヒ雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

第十一條　體操ハ身體ノ成長ヲ均齊ニシテ健康ナラシメ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テヲ規律ヲ守ルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ最初適宜ノ遊戲ヲナサシメ漸ク普通體操ヲ加ヘ男兒ニハ便宜兵式體操ノ一部ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ男兒ニハ主トシテ兵式體操ヲ授ケ女兒ニハ普通體操若クハ遊戲ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リテハ體操ノ教授時間ノ一部若クハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲナサシメ又夏季ニ於テハ水泳ヲ授クルコトアルヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメンコトヲ要ス

第十二條　裁縫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ衣服ノ縫方及裁方ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ運針法ヨリ始メテ簡易ナル衣服ノ縫方ヲ授ケ又便宜通常ノ衣服ノ繕ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク通常ノ衣服ノ縫方裁方ヲ授クヘシ

裁縫ノ品類ハ日常所用ノモノヲ撰ヒ之ヲ授クル際用具ノ種類、衣類ノ保存方及洗濯方等ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス

第十三條　手工ハ眼及手ヲ練習シテ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ養ヒ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ長スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、絲、粘土、麥藁等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ

高等小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、粘土、木、竹、銅線、鐵葉、鉛等ヲ用ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ

手工ノ品類ハ成ルヘク有用ナルモノヲ撰ヒ之ヲ授クル際其材料及用具ノ種類等ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス

第十四條　高等小學校ノ教科ニ幾何ノ初歩ヲ加フルトキハ簡易ナル線角面體ノ性質及種類ヲ知ラシメ尙進ミテハ三角形ノ同形類形及勾股弦ノ關係等ヲ理會セシムヘシ

幾何ノ初歩ヲ授クルニハ先ツ器具家屋地形等ヲ觀察セシメ更ニ其模型若クハ圖ヲ示シ兒童ヲシテ之ヲ描キ其尺度又ハ角度ヲ測定比較シテ其性質關係ヲ知ラシメ專ラ實驗ニ依リテ證明シ又既ニ授クタル事項ヲ應用シ諸種ノ線形等ヲ構成

シテ其度量ヲ計算セシメ之ヲ實地ニ應用スルノ能ヲ養ハンコトヲ要ス

第十五條　高等小學校ノ教科ニ外國語ヲ加フルハ將來ノ生活上其知識ヲ要スル兒童ノ多キ場合ニ限ルモノトシ讀方、譯解、習字、書取、會話、文法及作文ヲ授ケ外國語ヲ以テ簡易ナル會話及通信等ヲナスコトヲ得シムヘシ

外國語ヲ授クルニハ常ニ其發音及文法ニ注意シ正シキ國語ヲ用ヒテ譯解セシメンコトヲ要ス

第十六條　高等小學校ノ教科ニ農業ヲ加フルトキハ地理理科等ノ教授ニ連絡シテ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養蠶、養畜等ニ關シ土地ノ情況ニ緊切ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授ケ便宜之ヲ實習セシメ農業ノ趣味ヲ長シ兼テ節約利用、勤勉儉樸ノ習慣ヲ養ハンコトヲ要ス

第十七條　高等小學校ノ教科ニ商業ヲ加フルトキハ算術地理等ノ教授ニ連絡シテ商店、會社、賣買、金融、運送、保險等ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會シ易キモノヲ選ヒ習慣及法令等ニ基キテ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十八條　府縣知事ハ第二條乃至第十七條ニ揭クル範圍內ニ於テ學級ノ編制及修業年限ニ應シ便宜各教科目教授ノ程度ヲ規定スルヲ要ス

第十九條　尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併セ設クトキハ兩教科ヲ連絡セシメンカ爲メ便宜各教科目教授ノ程度ヲ斟酌スルコトヲ得

第二十條　小學校長若クハ首席教員ハ小學校教則ニ從ヒ其小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十一條　小學校ニ於テ兒童ノ學業ヲ試驗スルハ專ラ學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又ハ卒業ヲ認定スルヲ以テ目的トスヘシ

第二十二條　小學校長若クハ首席教員ハ修業年限ノ終リニ於テ兒童ノ學業ノ成績ヲ考ヘ小學校教則ニ定メタル課程ヲ完了セリト認定スルトキハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第二十三條　補習科ハ尋常小學校若クハ高等小學校ニ於テ兒童ノ既ニ學習シタル事項ヲ練習補充シ殊ニ之ヲ實地ニ應用スルノ法ヲ授ケテ處世ニ資セシムルヲ以テ要旨トス

補習科ノ程度ハ尋常小學校若クハ高等小學校ノ教科ノ程度ヲ標準トシ兼テ人民ノ生活上必須ナル事項ヲ加ヘ授ケシコトヲ要ス

補習科ニ於テ授クル事項ハ總テ實際ノ業務ト密接ノ關係ヲ有スルモノタルヘシ故ニ農工商等其地方ノ生業ニ最モ適切ナルモノヲ撰ヒテ之ヲ授クヘシ

第二十四條　補習科ノ教授時間ハ成ルヘク實際ノ業務ニ從事スル者ノ便ヲ圖リ夜間休業日又ハ其他通常ノ教授時間外ニ於テ之ヲ定ムヘシ

○學級編制等ニ關スル規則

明治二十四年十一月文部省令第十二號

明治二十三年勅令第二百十五號小學校令第十三條ニ基キ學級編制等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

學級編制等ニ關スル規則

第一條　小學校ニ於テハ此規則ニ依リ學級ヲ編制シ及教員ヲ

配置スヘシ

全校兒童ヲ一學級ニ編制スルモノ之ヲ單級ノ學校トシ二學級以上ニ編制スルモノ之ヲ多級ノ學校トス

小學校ニ於テ全校兒童ヲ二學級以上ニ編制スル場合ニ於テハ兒童ノ學力及年齡ヲ斟酌シ學級ヲ別ツヘシ

第二條　市町村立尋常小學校ニ於テ學級ヲ編制スルニハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　全校兒童ノ數七十人未滿ナルトキハ之ヲ一學級ニ編制スヘシ

二　全校兒童ノ數七十人以上百四十人未滿ナルトキハ之ヲ二學級ニ編制スヘシ但七十人以上百人未滿ナルトキハ之ヲ一學級ニ編制スルコトヲ得

三　全校兒童ノ數百四十人以上ナルトキハ一學級兒童ノ數平均凡五十人乃至七十人ノ割合ヲ以テ適宜學級ヲ編制スヘシ

四　同學年ノ女兒ノ數一學級ヲ組織スルニ足ルトキハ該學年ノ男女學級ヲ別ツヘシ但第一學年及第二學年ニ於テハ此限ニ在ラス

前項第二款本文及第三款ノ場合ニ於テハ一學級兒童ノ數百人ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　市町村立高等小學校ニ於テ學級ヲ編制スルニハ左ノ例ニ依ルヘシ

一　全校兒童ノ數六十人未滿ナルトキハ本科正教員一人及本科准教員（補助教授スル者）一人ヲ置キ六十人以上ナルトキハ本科正教員一人ヲ置キ六十人ヲ增ス毎ニ本科准教員（補助教授スル者）一人ヲ增ス

二　多級ノ學校ニ於テハ兒童ノ數六十人未滿ノ學級ニ就キテハ本科正教員一人ヲ置キ六十人以上ノ學級ニ就キテハ本科正教員一人及本科准教員（補助教授スル者）一人ヲ置キ六十人ヲ增ス毎ニ本科准教員（補助教授スル者）一人ヲ增ス

三　前二款ノ場合ニ於テ本科教員ヲ置ク外適宜專科教員ヲ置クコトヲ得

第六條　私立小學校ニ於テハ適宜學級ヲ編制スヘシ但一學級兒童ノ數尋常小學校ニ於テハ百人高等小學校ニ於テハ八十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條第一項第四款及第三條第一項第四款ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス

第七條　私立小學校ニ於テハ一學級ニ就キテ本科正教員一人ヲ置クヘシ但一學級兒童ノ數尋常小學校ニ於テ七十八以上高等小學校ニ於テ六十人以上ナルトキハ更ニ本科准教員（補助教授スル者）ヲ置クヘシ

第四條第三款及第五條第三款ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　多級ノ學校ニ於テハ教科目ノ種類ニ依リ一人ノ本科正教員數學級又ハ其一部ノ兒童ヲ合シテ同時ニ教授スルコトヲ得

單級又ハ多級ノ學校ニ於テ專科正教員ハ其教科目ニ限リ一學級若クハ數學級又ハ其一部ノ兒童ヲ教授スルコトヲ得

第九條　尋常小學校ニ於テハ左ノ場合ニハ全校ノ兒童ヲ二部ニ區分シ其一部ノ教授丁ル後他ノ一部ヲ教授スルコトヲ得

一　全校兒童ノ數七十人以上百人未滿ニシテ本科正教員一人及本科准教員（補助教授スル者）一人ヲ置クコト能ハサルトキ

二　全校兒童ノ數百人以上百四十人未滿ニシテ本科正教員二人ヲ置クコト能ハサルトキ

三　同時ニ全校ノ兒童ヲ容ルルニ足ルヘキ教室ヲ設クルコト能ハサルトキ

○小學校ノ每週教授時間ノ制限

明治二十四年十一月　文部省令第十三號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十五條ニ基キ小學校ノ每週教授時間ノ制限ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校ノ每週教授時間ノ制限

第一條　尋常小學校ノ每週教授時間ハ十八時以上三十時以下トス但本年十一月文部省令第十二號學級編制等ニ關スル規則第九條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二條　高等小學校ノ每週教授時間ハ二十四時以上三十六時以下トス

第三條　小學校補習科ノ每週教授時間ハ四時以上十八時以下トス

第四條　小學校ノ各教科目ノ每週教授時間ハ第一條第二條ノ範圍內ニ於テ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

○學齡兒童保護者ト認ムヘキ要件

明治二十四年十一月　文部省令第十六號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第二十條ニ基キ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條　父母後見人戶主ハ左ノ順序ニ從ヒ學齡兒童ヲ保護スヘキモノトス但學齡兒童戶主タルトキハ第二條ニ依ルヘシ

一　父母

二　父母及戶主　父母共ニ戶主タラサルトキ

三　後見人　父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其義務ヲ行フコト能ハサルトキ

四　後見人及戶主　前款ノ場合ニ於テ後見人戶主タラサルトキ

前項ノ場合ニ於テ授業料及其他就學ニ關スル費用ハ戶主之ヲ負擔スヘシ

第二條　學齡兒童戶主タルトキハ父母後見人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ保護スヘキモノトス

一　父母

二　後見人　父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其義務ヲ行フコト能ハサルトキ

前項ノ場合ニ於テ授業料及其他就學ニ關スル費用ハ學齡兒童戶主タルトキハ父母後見人ハ左ノ順序ニ從ヒ之ヲ負擔スヘシ

一　父母

二　後見人　父母死亡シタルトキ又ハ父母生存スルモ失踪、心神喪失又ハ其他ノ事故ニ依リ其義務ヲ行フコト能ハサルトキ

前項ノ場合ニ於テ授業料及其他就學ニ關スル費用ハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ニ於テ戶主ノ財產ヨリ之ヲ支辨スヘシ

第三條　第一條及第二條ニ於テ定ムルモノノ外府縣知事ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ便宜備主師匠等ニ就キテ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ヲ定ムルコトヲ得

第四條　第一條及第二條ニ揭ケル學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一條及第二條ニ揭ケル學齡兒童ニ保護スヘキ者ニ於テ特別ノ事情アルカ爲メ代人ヲ立ツルコトヲ必要トスルトキハ市町村長ノ許可ヲ受クヘシ

代人ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○幼稚園圖書館盲唖學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第四十二條ニ基キ幼稚園圖書館盲唖學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

幼稚園圖書館盲唖學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校等ニ關スル規則

第一條　幼稚園保姆ハ女子ニシテ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ其他府縣知事ノ免許ヲ得タル者トス

第二條　盲唖學校教員及各種學校教員ハ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ其他府縣知事ノ免許ヲ得タル者トス

第三條　市町村立幼稚園保姆盲唖學校及各種學校長及教員ノ任用解職ハ府縣知事之ヲ行フヘシ

第四條　私立幼稚園保姆盲唖學校及各種學校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第五條　府縣知事ニ於テ許可シタル幼稚園ノ保育規程盲唖學

校及各種學校ノ敎則敎科用圖書ハ文部大臣ニ開申スヘシ

第六條　私立小學校設立者ノ資格ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第七條　小學校令第六十三條乃至第六十五條ノ規程ハ幼稚園保姆盲唖學校及各種學校及敎員ニ關シ之ヲ適用ス

第八條　小學校令第十四條第三項ノ規程ハ幼稚園圖書館盲唖學校及各種學校ニ關シ之ヲ適用ス

第九條　小學校令第十五條中祝日大祭日儀式ノ規程ハ幼稚園盲唖學校及各種學校ニ關シ之ヲ適用ス

第十條　小學校令第七十條ノ規程ハ市町村立幼稚園圖書館盲唖學校及各種學校ニ關シ之ヲ適用ス

第十一條　小學校令第九十一條ノ規程ハ私立幼稚園圖書館盲唖學校及各種學校ニ關シ之ヲ適用ス

第十二條　幼稚園圖書館盲唖學校各種學校及私立小學校等ノ設置廢止ニ關スル規則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○尋常師範學校附屬小學校規程

明治二十四年十一月文部省令第二十六號

尋常師範學校附屬小學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治二十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校附屬小學校規程

第一條　附屬小學校ハ明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令中小學校ノ本旨種類敎科目修業年限敎則敎授時間ノ制限敎科用圖書祝日大祭日ノ儀式休業日補習科等ニ關スル規程ニ準據スヘシ但敎科目ノ加除補習科ノ設置廢止及修業年限ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　附屬小學校ノ設備ハ管內最多數ノ小學校ノ設備ヲ例トシ本年十一月文部省令第十五號小學校設備準則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　附屬小學校ノ學級ノ編制等ハ管內最多數ノ小學校ノ學級ノ編制等ヲ例トシ本年十一月文部省令第十二號小學校ノ學級編制等ニ關スル規則ニ準據シ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ但單級ノ制ニ依リタル學級ハ必ス之ヲ設クルコトヲ要ス

第四條　附屬小學校ノ授業料規則ハ府縣知事之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ但單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徵收セサルモノトス

第五條　附屬小學校ノ敎員ハ小學校敎員タルヘキ資格ヲ具フルコトヲ要ス

○小學校祝日大祭日儀式規程

明治二十四年六月文部省令第四號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十五條ニ基キ小學校ニ於ケル祝日大祭日ノ儀式ニ關スル規程ヲ設クルコト左ノ如シ

小學校祝日大祭日儀式規程

第一條　紀元節、天長節、元始祭、神嘗祭及新嘗祭ノ日ニ於テハ學校長、敎員及生徒一同式場ニ參集シテ左ノ儀式ヲ行フヘシ

一　學校長敎員及生徒

天皇陛下及

皇后陛下ノ　御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行ヒ且

兩陛下ノ萬歲ヲ本祝ス

但米ノ御影ヲ拜戴セサル學校ニ於テハ本文前段ノ式ヲ省ク

二　學校長若クハ敎員、敎育ニ關スル　勅語ヲ奉讀ス

三　學校長若クハ敎員、恭シク敎育ニ關スル　勅語ニ基キ聖意ノ在ル所ヲ誨告シ又ハ

歷代天皇ノ　盛德　鴻業ヲ敍シ若クハ祝日大祭日ノ由來ヲ敍スル等其祝日大祭日ニ相應スル演說ヲ爲シ忠君愛國ノ志氣ヲ涵養セシムコトヲ務ム

四　學校長、敎員及生徒、其祝日大祭日ニ相應スル唱歌ヲ合唱ス

第二條　孝明天皇祭、春季皇靈祭、神武天皇祭及秋季皇靈祭ノ日ニ於テハ學校長、敎員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第三款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第三條　一月一日ニ於テハ學校長、敎員及生徒一同式場ニ參集シテ第一條第一款及第四款ノ儀式ヲ行フヘシ

第四條　第一條ニ揭ケル祝日大祭日ニ於テハ便宜ニ從ヒ學校長及敎員、生徒ヲ率ヰテ體操場ニ臨ミ若クハ野外ニ出テ遊戲體操ヲ行フ等生徒ノ心情チシテ快活ナラシメンコトヲ務ムヘシ

第五條　市町村長其他學事ニ關係アル市町村吏員ハ成ルヘク祝日大祭日ノ儀式ニ列スヘシ

第六條　式場ノ都合ヲ計リ生徒ノ父母親戚及其他市町村住民チシテ祝日大祭日ノ儀式ヲ參觀スルコトヲ得セシムヘシ

第七條　祝日大祭日ニ於テ生徒ニ菓菜又ハ敎育上ニ裨益アル繪畫等ヲ與フルハ妨ナシ

第八條　祝日大祭日ノ儀式ニ關スル次第等ハ府縣知事之ヲ規定スヘシ

○小學校ニ於テ祝日大祭日ノ儀式執行ノ際唱歌用ニ供スル唱歌及樂譜ハ文部大臣ノ認可ヲ經シメ並ニ其歌譜漸次文部省ニテ撰定頒布

明治二十四年十月文部省訓令第二號

一　小學校ニ於テ祝日大祭日ノ儀式ヲ行フノ際唱歌用ニ供スル歌詞及樂譜ハ特ニ其採擇ヲ愼ムヘキモノナルヲ以テ北海道廳長官府縣知事ニ於テ豫メ本大臣ノ認可ヲ經ヘシ但文部省ノ撰定ニ係ルモノ及他ノ地方長官ニ於テ一旦本大臣ノ認可ヲ經タルモノハ此限ニ在ラス

一　前項唱歌用ノ歌詞及樂譜ハ漸次文部省ニ於テ撰定頒布スヘシ

○小學校祝日大祭日儀式規程第一條第一款但書施行ノ件

明治二十五年六月文部省令第七號

明治二十四年六月文部省令第四號小學校祝日大祭日儀式規程第一條第一款但書ノ場合ニ該當スルモ特ニ北海道廳長官府縣知事ノ許可ヲ得テ複寫シタル　御影若クハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ適當ト認メタル　御影ヲ奉藏セル學校ニ於テハ其本文前段ノ式ヲ行フヘシ

○天皇皇后兩陛下ノ御影及敎育ニ關スル勅語謄本奉置方

明治二十四年十一月文部省訓令第四號

管內學校ヘ下賜セラレタル

天皇陛下
皇后陛下ノ　御影並教育ニ關シ下シタマヒタル　勅語ノ謄本ハ校内一定ノ場所ヲ撰ヒ最モ尊重ニ奉置セシムヘシ

○華族就學規則

明治二十五年八月宮内省達甲第五號

明治二十年一月宮内省達第一號華族就學規則左ノ通改正ス

華族就學規則

第一章　通則

第一條　本則ハ華族學齡男子ノ教育ヲ規定スルモノトス
第二條　學齡ハ滿六年以上滿二十四年以下トス
第三條　華族ノ男子ハ學齡中ニ於テ少クモ學習院中等學科又ハ之ニ相當スヘキ程度ノ學科ヲ修了スルヲ要ス
第四條　華族學齡男子ノ本則ニ關スル學事ニ付テハ其ノ戸主又ハ後見人責任ヲ負フヘキモノトス
第五條　本則ニ關スル願届ハ總テ戸主又ハ後見人ヨリ差出スヘキモノトス
但シ疾病傷痍等ニ原由スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二章　修學

第六條　學齡者ハ學習院ニ入リ修學スヘキモノトス
第七條　東京府外ニ住居スル十四年未滿ノ學齡者及東京府内ニ住居スル十年未滿ノ學齡者ニシテ學習院ニ入學シ難キ事由アルトキハ便宜ノ學校ニ就キ普通教育ヲ受クヘシ
本條ノ場合ニ於テハ其ノ事由及學校ノ位置名稱入學ノ年月日ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ
第八條　第七條ノ年齡ヲ過クルノ後尚ホ學習院ニ入學シ難キ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ年月ヲ豫期シ宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ニ延期ノ認可ヲ請フヘシ
第九條　第八條ニ依リ學習院入學延期ヲ許サレタル者ハ疾病ニ原由スル者ノ外仍ホ其ノ年齡學力ニ應シ總テ普通教育ヲ受クヘシ若シ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ其ノ事由及修學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ
第十條　疾病傷痍ニ由リ一時就學ノ延期ヲ要スル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ
癈疾不具又ハ體質虚弱ニシテ學齡ニ至リ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ此ノ場合ニ於テ其ノ體質ニ適當ナル學業ヲ修メシムルトキ其ノ方法ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ
第十一條　學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ陸軍各兵科現役士官候補生又ハ陸海軍所轄各學校ノ學生タラント欲シ其ノ入學試驗ニ合格シタル者ハ宮内大臣ニ届出ツヘシ
第十二條　學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ專門ノ學校ニ入ラント欲スル者ハ其ノ學校ノ名稱學科ノ種類等ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ
第十三條　第三條ノ學科程度ヲ修了シタル者ニシテ海外留學ヲ爲サント欲スルトキハ其ノ國名地名及修業セント欲スル學科ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ
但シ第三條ノ學科程度ヲ修了セスシテ留學ヲ必要トスル特別ノ事由アル者ニハ特ニ許可ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條　第十一條第十二條及第十三條ノ目的ヲ達スルニ便宜ナル豫備ノ修學ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ年月ヲ豫期シ修學ノ場所及其ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ
但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サス

第三章　懲學及退學

第十五條　疾病傷痍ニ由リ成學ノ目的ナク廢學セント欲スル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ
第十六條　官吏又ハ公吏ニ任用セラレ修學ノ餘暇ナク廢學セントスル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ
第十七條　學齡中ニ於テ陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學校ニ於テ修學中半途ニシテ退學シタル者若クハ海外留學中半途ニシテ歸朝シタル者ハ尚ホ本則ノ規定ニ依リ修學ヲナスヘキモノトス

第四章　督責

第二十二條　本則ノ規定ニ遵ハサル者アルトキハ宮内大臣之ヲ督責ス
第二十三條　第二十二條ニ依リ督責ヲ加フルモ尚ホ之ニ從ハサル者アルトキハ宮内大臣ハ勅許ヲ經テ宮中ノ禮遇ヲ停止スルコトアルヘシ

第五章　雜則

第二十四條　學習院外ニ於テ修學中ノ者三箇月以上引續キ休學セサルヲ得サル事故アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ爵位局長ニ届出ツヘシ
第二十五條　學習院外ニ於テ修學スル者ハ每年一回學年ノ終ニ於テ其ノ修業シタル成績ヲ記載シ學校長若クハ教師ノ證明ヲ求メ爵位局長ニ届出ツヘシ
但シ海外留學ノ者亦本條ノ例ニ準ス
第二十六條　學習院學生ノ轉學退學休學等ニ關スル事項ハ總テ學習院ノ規則ニ依ルヘキモノトス

○特別認可學校規則

明治二十一年五月文部省令第三號

明治二十年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第十七條第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ニ關シ特別認可學校規則ヲ定ム

ルコト左ノ如シ

特別認可學校規則

第一條　本令ニ於テ特別認可學校ト稱スルハ明治二十年七月勅令第三十七號文官試驗試補及見習規則第十七條第三項文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ヲ謂フ

第二條　特別認可學校ハ修業年限三箇年以上ニシテ法理學法學通論憲法行政法民法訴訟法刑法治罪法商法國際法財政學理財學統計學史學論理學等ノ諸學科中七科目以上ヲ學修スル爲メ一定ノ課程ヲ設クルモノタルヘシ但法律學ヲ主トスル學校ニ於テハ擬律擬判ノ課ヲ設クルヲ要ス

第三條　特別認可學校ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ年齡滿十七年以上ニシテ尋常中學校卒業證書ヲ有スル者若クハ國語漢文外國語地理歷史數學ノ各科ニ就キ尋常中學科ノ程度ニ依リ高等中學校ノ試驗ヲ經タル者ニ限ル但數學中三角法ハ之ヲ除キ代數幾何ハ其初歩ニ止ムルコトヲ得（三十三年三月二十五日文部省令第一號ヲ以テ本條中ヲ增補ス）

第四條　特別認可學校二年級以上ニ入學スルコトヲ得ヘキ者ハ前條ノ資格ヲ有シ且該級生徒ノ歷修シタル各級諸科目ニ就キ試驗ヲ經タル者ニ限ル

但本文ノ試驗ヲ行フトキハ第七條ノ例ニ依リ其科目日限時間割及試驗成績ヲ申報スヘシ（同上追加）

第五條　第三條ニ揭クル高等中學校ノ試驗ハ特別認可學校所在地ノ高等中學校又ハ同高等中學校及其他ノ高等中學校ニ於テ每年一回若クハ二回之ヲ施行シ及第者ニハ當該高等中學校ヨリ認定證書ヲ與フルモノトス（同上改正）

前項ノ試驗ヲ受ケント欲スル者ハ族籍姓名年齡ヲ記シタル願書ニ學業履歷書及手數料ヲ添ヘ保證人連署ノ上試驗ヲ施行スヘキ高等中學校ヘ差出スヘシ

但試驗ノ時期及場所手數料ノ金額等ハ當該高等中學校之ヲ廣告スルモノトス

第六條　特別認可學校長ハ生徒ノ入學ヲ許可シタル都度其族籍姓名年齡及入學ニ必要ナル卒業證書若クハ認定證書ヲ得タル學校名年月日ヲ記載シ文部省ニ申報スヘシ（同上改正）

第七條　特別認可學校ハ每學年ノ終ニ學年試驗ヲ行フヘシ其科目及日限時間割ハ試驗期日三十日前ニ試驗成績ハ試驗後四十日以內ニ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ

第八條　特別認可學校ニ於テ最終ノ學年試驗ニ及第シタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與シ其族籍姓名ハ授與ノ後十日以內ニ該學校長ヨリ文部省ニ申報スヘシ

卒業證書

族籍　姓　名　何年何月何日生

右者本校所定ノ學科ヲ修メ茲ニ其業ヲ卒ヘリ依テ明治二十一年文部省令第三號特別認可學校規則第八條ニ從ヒ此證書ヲ授與ス

特別認可某學校長　姓　名印
特別認可某學校教員　姓　名印

何年何月何日　校印

番號

第九條　文部大臣ハ特ニ委員ヲシテ特別認可學校ノ試驗ニ臨監セシメ及管理授業等ノ實況ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十條　文部大臣ハ特別認可學校ノ管理及授業上改良ヲ要スルモノアリト思慮スルトキハ該學校ニ對シテ其改正ヲ命ス又本規則ニ依リ特別認可學校タルノ資格ヲ有セシムヘカラスト思慮スルトキハ其認可ヲ廢止ス

第十一條　特別認可學校長ハ每學年ノ初三箇月以內ニ前學年間該學校諸般ノ狀況ヲ文部省ニ申報スヘシ

第十二條　特別認可學校ハ其設立者（設立者數名アルトキハ其總代）及學校長連署ニテ左ノ事項ヲ詳具シ府縣廳ヲ經テ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一學科（特ニ教科用圖書ヲ定ムルトキハ其圖書）課程學期
一試驗規則
一入學退學規則
一學校維持法
一學校名稱
一學校位置
一生徒定員
一學校長教員履歷

前第一項ヨリ第七項ニ至ル各項ノ變更竝學校長教員ノ變更ハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　特別認可學校タルノ資格ヲ得タルモノト雖モ尙一般私立學校ノ例ニ依リ地方官ノ管理ヲ受クヘキモノトス

○東京府下私立獨乙學協會學校專修科ノ學則ヲ特別認可ス（明治二十一年七月文部省告示第三號）

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區西小川町一丁目十五番地私立獨乙學協會學校專修科ノ學則ヲ認可ス

○東京府下英吉利法律學校ノ學則ヲ特別認可ス（明治二十一年七月文部省告示第四號）

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區錦町二丁目二番地私立英吉利法律學校ノ學則ヲ認可ス

○東京府下私立東京專門學校法律學科ノ學則ヲ特別認可ス（明治二十一年八月文部省告示第六號）

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下南豐島郡下戶塚村六百四十七番地私立東京專門學校法律學科ノ學則ヲ認可ス

○東京府下私立明治法律學校ノ學則ヲ特別認可ス（明治二十一年八月文部省告示第七號）

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區南甲賀町十一番地私立明治法律學校ノ學則ヲ認可ス

○東京府下私立專修學校ノ學則ヲ特別認可ス（明治二十一年八月文部省告示第八號）

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ東京府下神田區今川小路二丁目八番地私立專修學校ノ學則ヲ認可

ス

○私立東京佛學校同東京法學校ト合併改稱ニ附キ其學則認可

明治二十二年九月文部省告示第十六號

明治二十一年五月文部省令第三號特別認可學校規則ニ依リ同年八月及九月學則ヲ認可シタル私立東京佛學校ト私立東京法學校ト合併シ和佛法律學校ト稱スルニ付更ニ同規則ニ依リ其學則ヲ認可ス

第三章　學校教員

奏任及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員等級配當表

		奏任										判任									
		五等			六等			七等			八等										
公立中學校	學校長	年俸千六百圓以上																			
公立商等女學校																					
公立專門學校	教諭				年俸千武百圓以上千六百圓未滿																
公立技藝學校																					
尋常師範學校																					
	教諭											年俸千六百圓以上									
	教諭														年俸八百圓以上千武百圓未滿						
	一級俸																				
	學校長							年俸千武百圓以上千六百圓未滿													
	教諭																	年俸八百圓以上千武百圓未滿			
	二級俸																				
	學校長										年俸八百圓以上千六百圓未滿										
	教諭																				
	三級俸																				
	學校長																				
	教諭																				
	四級俸																				
	學校長																				
	教諭																				
	五級俸																				

判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員等級配當表

	判任			
	一等	二等	三等	四等
學校長	月俸五拾圓以上	月俸四拾圓以上五拾圓未滿	月俸三拾圓以上四拾圓未滿	月俸貳拾圓以上三拾圓未滿
教諭	月俸五拾圓以上	月俸四拾圓以上五拾圓未滿	月俸三拾圓以上四拾圓未滿	月俸貳拾圓以上三拾圓未滿
助教諭			月俸三拾圓以上	月俸貳拾圓以上三拾圓未滿
舍監		月俸四拾圓以上五拾圓未滿	月俸三拾圓以上四拾圓未滿	月俸貳拾圓以上三拾圓未滿
書記				月俸貳拾圓以上三拾圓未滿

○奏任及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員等級配當表

明治二十五年四月勅令第三十九號

朕公立學校職員等級配當ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル公立學校職員官等ノ等級ハ其俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

但同官等又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

（二十五年十二月勅令第百十四號ヲ以テ改正）

公立中學校	學校長	月俸五拾圓以上																			
公立商等女學校	教諭																				
公立專門學校		月俸五拾圓以上																			
公立技藝學校	舍監																				
尋常師範學校		月俸五拾圓以上																			
	教諭																				
	一級俸																				
	二級俸																				
	舍監																				
	本務俸給ニ依ル																				
市町村立小學校	學校長	月俸五拾圓以上																			

（以上二表共同上勅令ヲ以テ改正ス）

公立中學校	學校長	月俸五拾圓以上																			
公立商等女學校	教諭																				
公立專門學校		月俸五拾圓以上																			
公立技藝學校	舍監																				
尋常師範學校		月俸五拾圓以上																			
	教諭																				
	一級俸																				
	二級俸																				
	舍監																				
	本務俸給ニ依ル																				
市町村立小學校	學校長	月俸五拾圓以上																			

ル者若クハ本令施行ノ際尋常師範學校長ノ現職ニ在ル者又ハ五箇年以上教育ニ關スル公務ニ從事シ現ニ四拾圓以上ノ月俸ヲ受クル判任官又ハ判任待遇ノ者ニ限リ當分ノ內試驗ヲ要セス文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ任用シタル府縣立師範學校長ハ高等試驗ヲ經ルニ非サレハ他ノ高等官ニ轉任スルコトヲ得ス

附　則

第三條　本令ハ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

○尋常師範學校教員免許規則

明治二十五年七月文部省令第十三號

尋常師範學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治二十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

尋常師範學校教員免許規則

第一條　尋常師範學校教員免許狀ハ文部省ノ檢定ニ合格シタル者ニ授與スルモノトス

第二條　免許狀ハ之ヲ分テ一等免許狀二等免許狀ノ二種トス」

二等免許狀ハ第一次ノ檢定ニ合格シタル者ニ授與シ一等免許狀ハ第二次ノ檢定ニ合格シタル者ニ授與スルモノトス

尋常師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有シ一箇年以上教員ノ職ニ在リタル者及特別ノ事情アリト認ムル者ニ限リ前項ノ規程ニ拘ラス第一次ノ檢定ニ合格シタル者ニ直ニ一等免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第三條　一等免許狀ヲ有スル者ハ尋常師範學校教諭二等免許狀ヲ有スル者ハ同助教諭タルコトヲ得ルモノトス

第四條　第一次ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一　年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上

二　身體健全

三　品行方正

第五條　第一次ノ檢定ハ之ヲ分テ左ノ二種トス

甲種　認定

乙種　試驗

第六條　甲種ノ檢定ハ左ニ揭クル者ニ限リ之ヲ行フモノトシ第八條第九條ニ揭クル科目及其程度ヲ參照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス

一　高等師範學校女子高等師範學校卒業生

二　高等學校ニ於テ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生

三　尋常師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

四　其他學力品行等ニ關シ北海道廳長官府縣知事ニ於テ特ニ適任ト思慮スル者

第七條　乙種ノ檢定ハ學力ノ試驗ヲ行フモノトス

家事、圖畫、音樂、體操等ノミノ教員タラントスル者ニ就キテハ別ニ普通ノ學力ヲ有スルコトヲ認メタル者ニアラサレハ試驗ヲ行ハス

試驗ノ方法ハ筆記口述ノ二樣トシ試驗科目ノ種類ニ依リテハ技能又ハ實驗ヲ併セ試ミルモノトス

第八條　男教員ノ試驗科目ハ左ノ區別ニ從ヒ受驗者ノ志願ニ依ル

第一類

第一種　修身、教育、國語及漢文竝其教授法

第二種　修身、教育、歷史及地理竝其教授法

第三種　數學、物理及化學竝其教授法

第四種　植物、動物、生理及鑛物竝其教授法

第二類

第一種　習字、圖畫、音樂、體操、外國語、農業、商業、手工ノ中一科目若クハ數科目竝其教授法

第二種　第一類各種ノ科目ノ中一科目若クハ數科目竝其教授法

本條各科目ノ試驗程度ハ高等師範學校ノ學科目ノ程度ニ準ス

第九條　女教員ノ試驗科目ハ左ノ區別ニ從ヒ受驗者ノ志願ニ依ル

第一類

第一種　修身、教育、國語、漢文、歷史及地理竝其教授法

第二種　數學及理科竝其教授法

第二類

第一種　家事、習字、圖畫、音樂、體操ノ中一科目若クハ數科目竝其教授法

第二種　第一類各種ノ科目ノ中一科目若クハ數科目竝其教授法

本條各科目ノ試驗程度ハ女子高等師範學校ノ學科目ノ程度ニ準ス

第十條　左ニ揭クル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請ヒタルトキハ其學力ヲ第八條第九條ニ揭クル科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルトキハ其一科目若クハ數科目ノ試驗ヲ缺クコトヲ得

一　高等學校ノ卒業生

二　尋常師範學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

第十一條　高等師範學校女子高等師範學校卒業生ノ第一次ノ檢定ハ當該學校長ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

他ノ文部省直轄學校卒業生ノ第一次ノ檢定ハ前項ノ例ニ準スルコトアルヘシ

第六條第四款ニ該當スル者ノ第一次ノ檢定ハ北海道廳長官府縣知事ノ申請ニ依リ之ヲ行フ

第十二條　前條ニ揭クル者ニアラスシテ第一次ノ檢定ヲ請フ者ハ族籍氏名宿所生年月志願ノ科目及甲種乙種ノ別ヲ記シタル願書ニ醫師ノ身體檢查證學業業務賞罰等ニ關スル履歷書學業證書免許狀等ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經テ之ヲ文部省ニ差出スヘシ北海道廳長官府縣知事ハ本人ノ品行ニ就キ意見ヲ附記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

前項ノ身體檢查證ハ體格疾病及官能ニ係ル檢查ノ成績ヲ證明シタルモノタルヘシ

第十三條　第二次ノ檢定ハ二等免許狀ヲ有シ一箇年以上教員ノ職ニ在リタル者ニ就キ其勤務ノ經歷及學力等ヲ調査スルモノトス

第十四條　第二次ノ檢定ヲ請フ者ノ出願ノ手續ハ第十二條ノ例ニ準ス

第十五條　檢定ハ文部大臣檢定委員又ハ高等師範學校若クハ女子高等師範學校ヲシテ之ヲ施行セシムルコトアリ

及第二次ノ檢定ハ臨時之ヲ行ヒ第一次ノ乙種檢定ハ豫メ期日ヲ定メテ之ヲ行フ

第十六條　檢定ヲ請フ者ハ檢定手數料貳圓ヲ納ムヘシ但第十一條ニ依ル者ハ此限ニ在ラス

前項ノ檢定手數料ハ其既ニ差出シタル後何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

第十七條　免許狀ノ書式ハ左ノ如シ但甲號ハ高等師範學校女子高等師範學校卒業生乙號ハ其他ノ者ニ與フルモノトス

甲號

尋常師範學校教員何等免許狀

高等師範學校何學科卒業生（女子高等師範學校卒業生）　族籍　氏名　生年月

右ハ尋常師範學校（女生徒ノ）教員タルコトヲ免許ス

年　月　日

割印　番號

文部大臣位勳爵　氏名印

乙號

尋常師範學校教員何等免許狀

何類何種何科目、何科目、何科目　族籍　氏名　生年月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ尋常師範學校（女生徒ノ）教員タルコトヲ免許ス

年　月　日

割印　番號

文部大臣位勳爵　氏名印

甲號乙號トモ一等免許狀ノ輪廓ハ綠色トシ二等免狀許ノ輪廓ハ紅色トス

第十八條　免許狀ヲ受クル者ハ免許狀授與手數料壹圓ヲ納ムヘシ但第十一條ニ依ル者ハ此限ニ在ラス

第十九條　免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名ヲ變更シタル爲メ其書換ヲ請フ者ハ書換手數料壹圓ヲ納ムヘシ

第二十條　免許狀ヲ受クタル者ノ氏名族籍等ハ文部省ニ於テ尋常師範學校教員候補者ノ名籍ニ登錄シ時々之ヲ公告ス

第二十一條　免許狀ヲ有スル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其免許狀ヲ褫奪ス但特別ノ事情アル者ハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

二　破產又ハ家資分散ノ宣告ヲ受クタルトキ

三　荒酗暴激其他總テ教員タルノ面目ニ關スル行爲アルトキ

第二十二條　北海道廳長官府縣知事ニ於テ前條ノ處分ヲ要スル者アリト思慮スルトキハ文部大臣ニ具申スヘシ

第二十三條　此規則ニ依ラスシテ授與シタル尋常師範學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ効ヲ有スル免許狀及卒業證書ハ仍其効力ヲ有スルモノトス

第二十四條　此規則ニ牴觸スル從前ノ成規ハ此規則施行ノ時期ヨリ之ヲ廢止ス

○小學校教員檢定等ニ關スル規則

明治二十四年十一月文部省令第十九號

小學校教員檢定等ニ關スル規則ヲ定ムル左ノ如シ

小學校教員檢定等ニ關スル規則

第一章　府縣ニ於クル檢定等

第一條　小學校教員檢定委員ハ府縣官吏並尋常師範學校長及教員ヲ組織シ府縣知事之ヲ命スヘシ

府縣知事ハ檢定委員中ニ就キ委員長ヲ命スヘシ

第二條　小學校教員檢定委員ハ此規則ニ依リ檢定ヲ行ヒ委員長ヨリ其成績ヲ府縣知事ニ具申スヘシ

第三條　府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ合格ト認ムル者ニ相當ノ免許狀ヲ授與スヘシ但第七條第七款ニ該當スル者ニ正教員免許狀ヲ授與スル場合ニハ豫メ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第四條　正教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一　准教員ノ免許狀ヲ有シ一箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リシコト但第七條第七款ニ該當スル者ハ此限ニ在ラス

二　年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上

三　身體健全

四　品行方正

第五條　准教員ノ檢定ヲ請フ者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一　年齡男子ハ十七年以上女子ハ十五年以上

二　身體健全

三　品行方正

第六條　檢定ハ之ヲ別チテ左ノ二種トス

甲種　認定

乙種　試驗

第七條　甲種ノ檢定ハ左ニ揭クル者ニ限リ之ヲ行フモノトシ第九條乃至第十二條ニ揭クル科目及其程度ヲ參照シテ其學力及經歷ヲ調査スルモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

一　高等師範學校女子高等師範學校又ハ尋常師範學校卒業生

二　他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタル者

三　文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受クタル卒業生

四　尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

五　從前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ受得シタル者

六　准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有効期限滿チタル者

七　其他學力品行等ニ關シ府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第八條　乙種ノ檢定ハ學力ノ試驗ヲ行フモノトス但尋常小學校專科教員ニ關スル檢定ハ之ヲ行ハス

第九條　尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其程度ハ左ノ如シ但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得又裁縫ハ女子ニ限ル

倫理　人倫道德ノ要旨

教育　教授ノ原理學校管理ノ方法及實地授業
國語　尋常師範學校ノ程度ニ準ス
算術　尋常師範學校ノ程度ニ準ス
地理　日本地理外國地理ノ大要
歷史　日本歷史ノ大要
習字　楷書行書草書
圖畫　自在畫法ノ大要
音樂　單音唱歌及樂器用法ノ大要
體操　普通體操及兵式體操（男子ニ限ル）
裁縫　通常衣服ノ縫方裁方

尋常小學校本科准教員ノ試驗科目ハ前項ニ同シ其程度ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條　高等小學校本科男教員ノ試驗科目ハ倫理、教育、國語、漢文、數學、簿記、地理、歷史、博物、物理、化學、習字、圖畫、音樂及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准教員ニ關シテハ縣府知事之ヲ定ムヘシ

第十一條　高等小學校本科女教員ノ試驗科目ハ倫理、教育、國語、數學、地理、歷史、理科、家事、習字、圖畫、音樂及體操トス但圖畫、音樂、體操ノ一科目若クハ數科目ハ當分之ヲ缺クコトヲ得

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ノ程度ニ準ス准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十二條　高等小學校專科教員ノ試驗科目ハ圖畫、音樂、體操、家事、手工、農業、商業、外國語ノ一科目若クハ數科目トス但

何レノ科目ニ就キテモ授業法ヲ附帶シテ試驗ヲ行フモノトス

前項各科目ノ程度ハ正教員ニ關シテハ尋常師範學校ニ於ケル程度ト同等以上トス准教員ニ關シテハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

專科正教員ニ就キテハ讀書、習字及算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スル者ニ非サレハ試驗ヲ行ハス

第十三條　左ニ揭ケル者ニシテ乙種ノ檢定ヲ請フ者ハ其學力ヲ第九條乃至第十二條ニ揭ケル科目及其程度ニ對照シ同等以上ト認ムルトキハ其一科目若クハ數科目ノ試驗ヲ缺クコトヲ得

一　他ノ府縣ニ於テ小學校教員免許狀ヲ受得シタル者
二　文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生
三　尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者
四　從前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ受得シタル者
五　准教員ノ免許狀ヲ有スル者ニシテ其有效期限滿チタル者
六　中學校卒業生
七　文部大臣ニ於テ尋常中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校ノ卒業生

第十四條　正教員ノ免許狀ハ其府縣限リ終身有效トス
准教員ノ免許狀ハ其府縣限リ有效トス其有效期限ハ七箇年以內ニ於テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十五條　府縣知事ハ小學校教員候補者ノ名籍ヲ作リ免許狀ヲ授與シタル者アル都度其氏名等ヲ之ニ登錄スヘシ
府縣知事ハ前項ノ登錄ヲ了リタルトキハ其氏名等ヲ管內ヘ告知スヘシ

第十六條　小學校教員免許狀ヲ有スル者現ニ教員ノ職ニ在ラサルモ免許狀ヲ褫奪セラルヘキ教員ト同樣ノ行爲アルトキハ府縣知事其免許狀ヲ褫奪スヘシ此場合ニ於テハ其族籍氏名竝事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

第十七條　府縣知事ハ檢定ヲ請フ者及免許狀ヲ受クル者ヲシテ相當ノ手數料ヲ納メシムルコトヲ得

第十八條　免許狀ノ書式ハ左ノ如シ但准教員免許狀ノ書式ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ
師範學校卒業生ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

族籍
何學校卒業生　氏名
生年月

右ハ何府縣管內ニ於テ小學校本科正教員タルコトヲ免許ス

年　月　日
番號
府縣知事位勳爵氏名印

師範學校卒業生ニ非サル者ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

族籍
何科目、何科目、
氏名
生年月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ何府縣管內ニ於テ（尋常）小學校本科（專科）正教員タルコトヲ免許ス

年　月　日
番號
府縣知事位勳爵氏名印

第十九條　本科教員免許狀ヲ有シテ圖畫、音樂、體操、家事、手工、農業、商業、外國語ノ一科目若クハ數科目ヲ教授シ得ル者ハ專科教員タルコトヲ得ルモノトス

第二十條　此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第二章　文部省ニ於ケル檢定等

第二十一條　左ニ揭ケル者ハ府縣知事文部省直轄學校長等ノ具申ニ基キ文部大臣之ヲ檢定シテ小學校教員普通免許狀ヲ授與ス

一　小學校正教員免許狀又ハ從前ノ成規ニ依リ小學校教員免許狀若クハ小學師範學科卒業證書ヲ受得シ五箇年以上公立小學校教員ノ職ニ在リテ品行方正ニシテ學術及授業趣衆ノ者
二　商等師範學校又ハ女子高等師範學校卒業生ニシテ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在リシ者
三　文部省直轄諸學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生ニシテ一箇年以上小學校教員ノ職ニ在リシ者

小學校教員普通免許狀ハ全國ニ通シテ終身有效ノモノトス

第二十二條　第十六條及第十九條ノ規程ハ小學校教員普通免許狀ヲ有スル者ニ關シ之ヲ適用ス

第二十三條　小學校教員普通免許狀ノ書式ハ左ノ如シ

本科正教員ニ與フルモノ

小學校教員普通免許狀

族籍
氏名
生年月

右ハ全國ニ於テ小學校本科正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

番號

文部大臣位勳爵氏名印

專科正教員ニ與フルモノ

小學校教員普通免許狀

族籍
何科目、何科目、
氏名
生年月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ全國ニ於テ小學校專科正教員タルコトヲ免許ス

年 月 日

番號

文部大臣位勳爵氏名印

○小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第五十六條ニ基キ小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則

第一條　小學校教員ハ學校ノ種類學級ノ編制等ニ應シ相當ノ資格アル者ヲ任用スヘシ

第二條　市町村立小學校長ハ本科正教員ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第三條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ニ正教員ヲ任用スヘキ場合ニ當リ適當ノ正教員タルヘキ者ヲ得ルコト能ハスト認ムルトキハ期限ヲ定メテ准教員ヲ任用スルコトヲ得

前項ニ依リ一時教授スル准教員ハ其年齡男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上ナルコトヲ要ス

第四條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校正教員ヲ轉任セシメントスルニ當リ若シ之カ爲メ正教員ヲ准教員トナシ又ハ俸給ヲ減少スヘキ場合ニ於テハ本人ノ意ニ反シテ之ヲ行フコトヲ得ス但特別ノ事情アリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第五條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ該當スト認ムルトキハ其情狀ニ依リ休職ヲ命スヘシ但休職ノ期限ハ一箇年以內トス

一　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者其職務ヲ行フニ妨ケアルコト二箇月以上ニ及フトキ

二　學校編制ノ變更等ニ依リ其人ヲ要セサルニ至リタルトキ

休職者ハ職務ニ從事セス及俸給ヲ減セラレス又ハ全ク之ヲ受ケサル等ノ外總テ本職者ト異ナルコトナシ

第六條　府縣知事ニ於テ市町村立小學校ノ正教員左ノ事項ニ

該當スト認ムルトキハ退職ヲ命スヘシ

一　正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出テタルトキ

二　傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ終身其職務ニ堪ヘサルトキ

三　休職ノ期限滿ツルモ休職ヲ命シタル事由消滅セサルトキ

四　休職者ノ代員トシテ任用セラレタル場合ニ於テ休職者ノ復職スルトキ

從前ノ成規ニ依リ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ効ヲ有スル小學師範學科卒業證書ヲ有シ教員タル者ニシテ其有効期限滿ツルトキハ特ニ辭令書ヲ用ヒスシテ前項ニ依リ退職ヲ命シタル者ト同一ニ見做スヘシ

第七條　府縣知事ハ休職退職ノ事由ニ關シ第五條第六條ノ例ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第八條　市町村立小學校長及教員ノ任用休職復職退職等ニハ辭令書ヲ交付スヘシ

第九條　私立小學校長ハ其小學校ノ教員中ニ就キ兼任スルヲ常例トス

第十條　第三條准教員任用ノ規程ハ私立小學校ニ關シ之ヲ適用ス但任用ノ期限ハ其設立者ニ於テ之ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　私立小學校ノ學校長及教員ノ任用解職ハ其設立者ヨリ府縣知事ニ開申スヘシ

第十二條　此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○小學校長及教員職務及服務規則

明治二十四年十一月文部省令第二十一號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第六十一條ニ基キ小學校長及教員職務及服務規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校長及教員職務及服務規則

第一條　小學校長及教員ハ教育ニ關スル　勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ノ指定ニ從ヒ其職務ニ服スヘシ

第二條　學校長ハ校務ヲ整理シ所屬教員ヲ監督スヘシ

學校長ヲ置カサル學校ニ於テハ首席教員學校長ノ職務ヲ行フヘシ

第三條　正教員及准教員一時教授スル者ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ並之ニ屬スル事務ヲ掌ルヘシ

第四條　准教員補助教授スル者ハ正教員ノ職務ヲ助クヘシ

第五條　教員ノ執務時間ハ每週三十六時以下トス

第六條　市町村立小學校教員ハ補習科ノ設クアル場合ニ於テハ必要ニ應シ其教授ヲ擔任スヘシ

市町村立小學校教員ハ前項ニ依リ補習科ノ教授ヲ擔任スヘキ場合ニ於テ相當ノ報酬ヲ受クルトキハ前條ニ揭クル執務時間ノ制限以外ニ及フモ每週六時マテハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第七條　市町村立小學校及教員並其家族ハ府縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第八條　此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○市町村立小學校長及教員懲戒處分竝私立小學校長及教員業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則

明治二十四年十一月文部省令第二十二號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第六十四條ニ基キ市町村立小學校長及教員懲戒處分竝私立小學校長及教員業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

市町村立小學校長及教員懲戒處分竝私立小學校長及教員業務停止及免許狀褫奪ニ關スル規則

第一條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ヲ行フトキハ懲戒書ヲ交付スヘシ

第二條　市町村立小學校長及教員ノ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ其處分スヘキ行爲ニ關スル手續書ヲ本人ヨリ徵スヘシ

第三條　市町村立小學校長及教員ノ罰俸ハ一箇月分ノ十分ノ一ヨリ少カラス三箇月分ヨリ多カラサル俸ヲ奪フモノトス罰俸ヲ徵スル法ハ其月俸額三分ノ一以下ハ一時ニ之ヲ徵シ三分ノ一ヲ超ユルトキハ數ノ滿ツルマヲ毎月俸額三分ノ一ヲ徵スルモノトス

第四條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニ非サレハ再ヒ教員タルコトヲ得ス

第五條　市町村立小學校長及教員ニシテ免職若クハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ訴願シタル者訴願ノ裁決ニ依リ其處分無効ニ帰シタルトキハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ職務ニ復スルモノトス

第六條　第一條第二條第五條ノ規程ハ私立小學校長及教員ノ業務停止及免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ適用ス

第七條　私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以外二箇年以内トス

第八條　府縣知事ハ免職若クハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタル者アルトキハ其族籍氏名竝事由ヲ具シ文部大臣ニ開申スヘシ

○正教員准教員ノ別

明治二十四年五月文部省令第三號　明治二十四年十一月文部省令第二十三號

第一條　明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令ニ依ラシテ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ効ヲ有スル小學師範學科卒業證書ヲ有シ高等小學科ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期間高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得但圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第二條　第一條ニ揭クル免許狀若クハ卒業證書ヲ有シ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、工業、手工、商業ノ一科若クハ數科ニ關シ高等小學科ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間高等小學校ノ專科正教員タルコトヲ得

第三條　第一條ニ揭クル免許狀又ハ卒業證書ヲ有シ高等小學科ノ授業生タル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間高等小學校ノ專科准教員タルコトヲ得

第四條　第一條ニ揭クル免許狀ヲ有シ圖畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、手工、商業ノ一科若クハ數科ニ關シ高等小學科ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間高等小學校ノ專科准教員タルコトヲ得

第五條　第一條ニ揭クル免許狀又ハ卒業證書ヲ有シ尋常小學科又ハ小學簡易科ノ教員タルコトヲ得ヘキ資格ヲ有スル者ハ其免許狀又ハ卒業證書ノ有効期限間尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得但圖畫、唱歌、體操、裁縫、工業ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第六條　第一條ニ揭クル免許狀ヲ有シ尋常小學科ノ授業生タル資格ヲ有スル者ハ其免許狀ノ有効期限間尋常小學校ノ本科准教員タルコトヲ得但圖畫、唱歌、體操、裁縫ノ一科若クハ數科ノ外教授シ得サル者ハ此限ニ在ラス

第七條　府縣知事ハ本令ノ規程ニ依リ難キモノアル場合ニ於テハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

○小學校教員免許狀小學師範學科卒業證書有効期限延期方

明治二十四年十一月文部省令第十八號

明治二十四年十一月文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則施行以前ニ授與シタル小學校教員免許狀又ハ之ト同一ノ效ヲ有スル小學師範學科卒業證書ニシテ同規則施行以後一箇年間ニ有效期限ノ滿ツルモノヲ所持スル者ニ就キテハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ該免許狀又ハ卒業證書ノ有效期限ヲ三箇年以内延期スルコトヲ得

○市町村立小學校長及教員名稱及待遇

明治二十四年六月勅令第七十三號

唉市町村立小學校及教員名稱及待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

市町村立小學校長及教員名稱及待遇

第一條　市町村立小學校長及教員ノ名稱左ノ如シ

一　小學校長

二　商等訓導高等小學校ノ本科正教員タル者及尋常小學校ノ本科正教員中高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ノ名稱トス

三　訓導尋常小學校ノ本科正教員タル者ノ名稱トス

四　准訓導　小學校ノ本科准教員タル者ノ名稱トス

五　授業師　小學校ノ專科正教員タル者ノ名稱トス

六　准授業師　小學校ノ專科准教員タル者ノ名稱トス

第二條　市町村立小學校長及教員ハ左ノ區別ニ從ヒ判任官ヲ以テ待遇ス

一　小學校長　教員ノ職ニ對スル待遇ニ從フ

二　商等訓導　判任官「五等以上」

三　訓導　判任官「二等以下五等以上」但特別ノ勤勞アル者

ハ判任官「一等」ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得

四　准訓導　判任官「六等」但從前文部省ノ認可ヲ經テ授與シタル修身科教授免許狀ヲ有スル者ハ判任官「二等以下五等以上」ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得又高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從ヒ、小學校ノ專科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ授業師ノ待遇ニ從フコトヲ得

五　授業師　判任官「三等以下五等以上」但高等小學校ノ授業師及尋常小學校ノ授業師中高等小學校ノ專科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者又ハ特別ノ勤勞アル者ハ判任官「二等」ノ待遇ニ陞進スルコトヲ得又高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從フコトヲ得

六　准授業師　判任官「六等」但高等小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ高等訓導ノ待遇ニ從ヒ、尋常小學校ノ本科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ訓導ノ待遇ニ從ヒ、小學校ノ專科正教員タルコトヲ得ルノ資格ヲ有スル者ハ授業師ノ待遇ニ從フコトヲ得

○尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則但書ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ隨時出願スルヲ得

明治十九年十二月　文部省令第二十一號

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則第六條但書ニ依リ檢定ヲ受ケントスルモノニ限リ何時ニテモ出願スルコトヲ得

○從前小學師範學科卒業者ニ授與セシ卒業證書有效年限

明治二十二年十月　文部省令第七號

明治十八年八月以後東京師範學校ニ於テ小學師範學科卒業ノ者又ハ明治十九年四月以後高等師範學校ニ於テ舊東京師範學校所定ノ小學師範學科卒業ノ者ニ授與シタル卒業證書ハ其證書面ニ記載ノ日ヨリ七箇年間小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトス

但有効ノ期滿ニ至リタル者ハ明治二十年八月文部省令第六號ニ準據スルコトヲ得又本文ノ證書ヲ有スル者ニシテ明治十九年六月文部省令第十二號小學校教員免許規則第十二條ノ一項若クハ數項ニ關ル、者ハ本文教員タルノ効力ヲ失ハシムルコト左ノ如シ

教科用圖書檢定規則

第一條　教科用圖書ノ檢定ハ師範學校令中學校令小學校令及教則ノ旨趣ニ合シ教科用ニ適スルコトヲ認定スルモノトス（二十五年三月文部省令第三號ヲ以テ改正）

第二條　圖書ノ出版者ハ該圖書ノ檢定ヲ文部省ニ請フコトヲ得

第三條　第二條ニ依リ檢定ヲ請フ者ハ圖書一種ニ付其目的トスル所ノ學校一種毎ニ該圖書二十部ノ定價ニ等シキ手數料及該圖書二部ヲ檢定願書ニ添ヘ地方廳ヲ經テ文部省ニ納ムヘシ但定價ヲ記載セサル圖書ニ就テハ手數料金十五圓ヲ納ムヘク又檢定ヲ得タル後定價ヲ增加シタルトキハ本文ノ例ニ準シ其差額ヲ追納スヘシ

第四條　第二條ニ依リ檢定ヲ請ヒタル圖書中瑕少ノ修正ヲ加フレハ檢定ヲ與フルコトヲ得ヘシト認ムルモノアルトキハ其應ヲ檢定出願者ニ指示スルコトアルヘシ

第五條　檢定シタル圖書ハ文部省ヨリ官報ヲ以テ其名稱、冊數、定價、目的トスル學校並學科ノ種類、版權免許又ハ出版届ノ年月日並該圖書ニ記載スル所ノ著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ヲ廣告スヘシ

第六條　檢定ノ効力ハ檢定ヲ得タル後修正ヲ加ヘタル圖書ニ及ハサルモノトス

第七條　第五條ニ依リ廣告シタル定價、版權免許又ハ出版届ノ年月日並著譯者及出版者ノ族籍住所姓名等ニ異動ヲ生シ圖書中其記載方ヲ變更シタルトキ又ハ同條ニ依リ廣告シタル冊數ヲ變更シタルトキハ更ニ官報ヲ以テ其旨ヲ廣告スルニアラサレハ檢定ノ効力該圖書ニ及ハサルモノトス

第八條　檢定ヲ得サリシ圖書ノ出版者ノ願ニ依リテハ其圖書ノ檢定ヲ得サリシ事由ノ大要ヲ指示スルコトアルヘシ

第九條　檢定出願中ノ圖書若クハ檢定ヲ得タル圖書ニ修正ヲ加ヘ檢定ヲ請フ者ハ更ニ第三條ノ手數料ヲ納ムルコトヲ要セス

第十條　圖書ノ出版者ハ其檢定ヲ得タル圖書ニシテ第七條ノ變更アルニ會スルトキハ其事項ノ廣告ヲ文部省ニ請フヘシ

第十一條　檢定ヲ請ヒタル後ハ其願下ヲナストキ又ハ其他何等ノ事由アリトモ既ニ納メタル手數料ハ之ヲ還付セサルモノトス（二十五年四月文部省令第五號ヲ以テ改正）

第十二條　本規則ニ於テ修正ト稱スルハ圖書ノ名稱ヲ變更シ文章字句圖書ヲ增減若クハ校訂シ又ハ字體書形ヲ變更シ又ハ註解附錄序跋ヲ加除若クハ變更スル等ノ場合ヲ包含スルモノトス

第十三條　第四條ニ依リ圖書中修正スヘキ廉ヲ指示シタルトキハ六箇月間内ニ其廉ヲ修正シテ該圖書ノ檢定ヲ追願スヘシ此期限内ニ修正追願セサルトキハ該圖書ハ檢定ヲ與ヘス

第十四條　檢定ヲ得タル圖書ハ每冊見易キ所ニ明治何年何月何日文部省檢定濟ノ文字ヲ記載スヘシ（全上ヲ以テ第十三條十四條追加）

○教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定シタル圖書ノ効力

明治二十年五月　文部省令第三號

明治十九年五月文部省令第七號教科用圖書檢定條例ニ依リ檢定ヲ得タル教科用圖書ハ本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定

規則ニ依リ檢定シタルモノト同一ノ効ヲ有スルモノトス

○尋常師範學校教科用圖書裁定方

明治二十年三月
文部省訓令第四號

尋常師範學校教科用圖書ノ儀ハ該學校教員ノ會議ニ付シ取調ノ上文部大臣ノ裁定ヲ經ヘシ

○教科用圖書檢定願書樣式

明治二十年五月
文部省告示第四號

本年五月文部省令第二號教科用圖書檢定規則第二條（第二條ハ檢定規則改正ニヨリ第一條ニ該當ス）ニ依リ教科用圖書ノ檢定ヲ請フ者ハ該圖書一種毎ニ左式ノ檢定願書ヲ差出スヘシ

檢定願書樣式

用紙ハ半紙トス

教科用圖書檢定願

左記ノ圖書御檢定被成下度該圖書……部及手數料金……相添ヘ此段相願候也

圖書ノ名稱	卷冊ノ記號員數	著譯者ノ族籍姓名	出版者ノ族籍住所姓名	版權免許又ハ出版屆ノ年月日	目的トスル學校並學科ノ種類

道
何府
縣
何郡
區
何町
村
何番地居住（寄留）

年　月　日

文部大臣爵姓名殿

道
何府
縣
何族（平民）
姓　名　印

記載方心得

圖書ノ名稱　改正增補等ニ係ルモノハ其旨ヲ記スヘシ

卷冊ノ記號員數　一卷二卷前編後編上中下或ハ一號二號三號等ノ別ヲ掲ク冊數若クハ軸數等ノ總計ヲ記スヘシ

著譯者ノ族籍姓名　姓名ノ下ニ著述翻譯編纂等ノ別ヲ記スヘシ

出版者ノ族籍住所姓名　分版ニ係ルモノハ原版者ノ族籍住所姓名ト分版者ノ族籍住所姓名トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原版者ノ族籍住所姓名ト翻刻者ノ族籍住所姓名トヲ並記スヘシ

版權免許又ハ出版屆ノ年月日　改版ニ係ルモノハ改版ノ年月日ヲ記シ分版ニ係ルモノハ原版ノ年月日ト分版ノ年月日トヲ並記シ無版權圖書ノ翻刻ニ係ルモノハ原版ノ年月日ト翻刻ノ年月日トヲ並記スヘシ

○公私立小學校教科用圖書採定方法

明治二十年三月
文部省訓令第三號

公私立小學校教科用圖書採定ノ方法左ノ通心得ヘシ

公私立小學校教科用圖書採定方法

第一條　北海道廳長官府縣知事ハ公私立小學校ノ教科用圖書ヲ新定又ハ更定セントスルトキハ其都度小學校教科用圖書

審査委員ヲ設クテ其事由ノ當否實施ノ時期等ヲ審議セシメ併セテ圖書ヲ採擇セシムヘシ

第二條　審査委員ハ左ノ諸員ヲ以テ組織スヘシ

一　尋常師範學校長若クハ長補

二　學務課員一名

三　尋常師範學校教頭及附屬小學校上席訓導

四　小學校教員三名

五　該地方經濟上ノ情況ニ通スル者二名

第三條　北海道廳長官府縣知事ハ審査ニ係ル圖書ニ掲載スル所ノ事物ニ通スル教員等ヲシテ該圖書ノ採擇上ニ限リ審査委員ト同一ノ資格ヲ以テ便宜之ニ參與セシムヘシ但一種類ノ圖書ニ付一名ニ限ルヘシ

第四條　審査委員ニ於テ審査上ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ依ルヘキモノトス

第五條　北海道廳長官府縣知事ハ審査委員中ニ就キ審査委員會議ノ議長ヲ命スヘシ

第六條　審査委員ハ自己及其親屬並其地方廳學務課員ノ著撰譯述編纂校閲及出版等ニ係ル圖書ヲ採擇スルコトヲ得サルモノトス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ北海道廳長官府縣知事ニ其事情ヲ詳具シ認可ヲ經テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第七條　審査委員ハ未タ文部大臣ノ檢定ヲ經サル圖書ト雖モ之ヲ採擇スルコトヲ得

但北海道廳長官府縣知事ハ本文ニ依リ採擇シタル圖書ヲ新定又ハ更定ノ圖書ニ充ントスルトキハ豫メ文部大臣ノ檢定ヲ經ヘシ

第八條　審査委員ニ於テ審査ヲ終ルトキハ其意見及會議ノ顛末ヲ具シ北海道廳長官府縣知事ニ申報スヘシ

第九條　北海道廳長官府縣知事ニ於テ教科用圖書ヲ新定又ハ更定スルニハ一學科ニ就キ一種ノ圖書ヲ採擇スヘシ但都鄙山海等土地ノ情況ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ一學科ニ就キ二種以上ノ圖書ヲ採擇スルモ妨ケナシ（二十一年九月十九日訓令第三號ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第十條　北海道廳長官府縣知事ハ教科用圖書ノ新定又ハ更定ヲ公布スル二箇月前ニ於テ其事由實施ノ時期圖書ノ目錄及第八條審査委員ノ申報又第六條但書第九條但書ノ場合ニ屬スル處分アルトキハ其事情ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ（同上（第六條但書）ノ下ニ（第九條但書）ノ五字ヲ加フ）

○小學校教科用圖書課用方

明治二十年九月
文部省訓令第十一號

本年三月文部省訓令第三號公私立小學校教科用圖書採定方法ニ依リ新定若クハ更定シタル圖書ハ四箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ變換スヘカラス又該圖書ハ之ヲ課スヘキ最下ノ學級ヨリ用ヒシメ其他ノ學級ニハ從來ノ教科用圖書ヲ襲用セシメ漸次各學級ヲシテ新舊交換セシムヘシ

但本文ニ依リ難キ特別ノ事情アルニ於テハ文部大臣ニ稟申スヘシ

○小學校教科用圖書檢定方

明治二十五年九月
文部省告示第九號

一小學校ノ教科用圖書ハ生徒用教師用ノ二種トス

一小學校ノ作文手工唱歌裁縫及體操科ニ係ル圖書ハ生徒用教科書ヲ採定セサルニ依リ教師用ノモノヽミ之ヲ檢定ス

○小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則

明治二十四年十一月文部省令第十四號

明治二十三年十月勅令第二百十五號小學校令第十六條ニ基キ小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則

第一條　小學校圖書審査委員ハ左ノ數ニ從ヒ府縣知事之ヲ命スヘシ

一　府縣官吏一名
二　府縣參事會員二名
三　尋常師範學校長
四　尋常師範學校教員二名
五　小學校教員三名乃至五名

府縣知事ハ審査委員中ニ就キ委員長ヲ命スヘシ

第二條　審査委員ハ自己又ハ其親族ノ著撰譯述編纂校閲出版等ニ係ル圖書ヲ審査スルコトヲ得ス但已ムヲ得サル場合ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

第三條　審査委員ニ於テ審査ヲ了ルトキハ委員長ヨリ其顛末ヲ府縣知事ニ具申スヘシ

第四條　府縣知事ハ前條ノ具申ニ依リ相當ト認ムル圖書ハ之ヲ其府縣小學校教科用圖書ト定ムヘシ

第五條　府縣知事ハ四箇年ヲ經ルニ非サレハ小學校ノ教科用圖書ヲ更定スルコトヲ得ス但本項ノ例ニ依リ難キ事情アルトキハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケテ特別ノ處分ヲナスコトヲ得」前項ニ依リ更定シタル圖書ヲ小學校ニ用フルニハ之ヲ課スヘキ最下學年ノ兒童ヨリ用ヒシメ其他ノ兒童ニハ從來ノ教科用圖書ヲ襲用セシムヘシ但本項ノ例ニ依リ難キ事情アルトキハ市町村立小學校ニ就キテハ其市町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　此規則施行前府縣知事ニ於テ定メタル小學校教科用圖書ハ仍其効力ヲ有スルモノトス

第七條　此規則ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

○小學校教科用圖書審査若クハ更定ニ關スル件

明治二十五年五月文部省訓令第五號

明治二十四年十一月文部省令第十四號小學校教科用圖書審査等ニ關スル規則ニ依リ小學校教科用圖書ヲ新定若クハ更定シテ公布セントスルトキハ二箇月前ニ於テ其事由實施ノ時期圖書ノ目錄等ヲ具シ本大臣ニ報告スヘシ

第五章　學位令　學士會院

○學位令

明治二十年五月勅令第十三號

廢學位令ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

學位令

第一條　學位ハ博士及大博士ノ二等トス

第二條　博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ニ之ヲ授ク又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ帝國大學評議會ノ議ヲ經テ之ヲ授ク

第三條　文部大臣ニ於テ大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ト同等以上ノ學力アリト思慮スル者アルトキハ帝國大學評議會ノ議ニ付シ評議官總數三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テハ文部大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク

第四條　博士ノ學位ヲ得ント欲スル者ハ文部大臣ニ申請スルコトヲ得但申請スル者ハ其履歷書及其專攻セル學科ノ範圍內ニ屬スル自著ノ論文一編ヲ差出スヘシ

第五條　帝國大學評議會ハ第三條ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ試驗ヲ行フコトヲ得但試驗ヲ受クルト否トハ本人ノ隨意トス

第六條　文部大臣ニ於テ學問上特ニ功績アリト思慮スル者アルトキハ博士ノ會議ニ付シ出席博士三分ノ二以上之ヲ是認スルニ於テハ文部大臣之ヲ閣議ニ提出シ其認可ヲ得テ大博士ノ學位ヲ授ク

第七條　博士ノ會議ハ文部大臣指命スル所ノ委員之ヲ整理ス又博士二十名以上出席スルニアラサレハ之ヲ開カサルモノトス

第八條　博士ノ會議ヲ開クトキハ五週日前ニ官報ヲ以テ開會ノ場所及時日ヲ廣告ス

第九條　第五條ノ試驗ニ關スル規則ハ帝國大學總長之ヲ定ム

第十條　學位記ノ樣式左ノ如シ

學位令第三條前段ニ該當スル者ノ學位記ニハ紅色輪廓ヲ付シ同後段ニ該當スル者ノ學位記ニハ綠色輪廓ヲ付ス

學位記

族籍位勳爵
姓　　名

學博士ノ五種トス

第三條　博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者ニ之ヲ授ク又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ帝國大學評議會ノ議ヲ經テ之ヲ授ク

第四條　大博士ノ學位ハ文部大臣ニ於テ博士ノ會議ニ付シ學問上特ニ功績アリト認メタル者ニ閣議ヲ經テ之ヲ授ク

第五條　本令ニ關スル細則ハ文部大臣之ヲ定ム

○學位令細則ヲ定ム

明治二十年六月文部省令第四號

本年五月勅令第十三號學位令第五條ニ基キ學位令細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

學位令細則

第一條　博士ノ學位ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ授ク

法學博士
醫學博士
工學博士
文學博士
理學博士

第二條　大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者アルトキハ帝國大學總長ノ具申ニ依リ文部大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク

法科大學所設ノ學科ヲ專攻セシ者ニハ
法學博士
醫科大學所設ノ學科ヲ專攻セシ者ニハ
醫學博士
工科大學所設ノ學科ヲ專攻セシ者ニハ
工學博士
文科大學所設ノ學科ヲ專攻セシ者ニハ
文學博士
理科大學所設ノ學科ヲ專攻セシ者ニハ
理學博士

第二條　大學院ニ入リ定規ノ試驗ヲ經タル者アルトキハ帝國大學總長ノ具申ニ依リ文部大臣之ニ博士ノ學位ヲ授ク

明治二十年勅令第十三號學位令第三條ニ依リ茲ニ何學博士ノ學位ヲ授ク

省年月日印　文部大臣位勳爵姓名印

割印　番號

黒色輪廓ヲ付ス

學位記

族籍位勳爵　姓　名

明治二十年勅令第十三號學位令第四條ニ依リ茲ニ大博士ノ學位ヲ授ク

省年月日印　文部大臣位勳爵姓名印

割印　番號

○東京學士會院規程

明治二十三年十月勅令第二百六十四號

廢東京學士會院規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

東京學士會院規程

第一條　東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ敎化ノ裨補ヲ謀ラシメンガ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス

第二條　東京學士會院ハ者德碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其選出ノ方法及人員左ノ如シ

一　帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

一　會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條　東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及敎化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條　東京學士會院ハ學藝及敎化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條　東京學士會院會員滿六十歲以上ノ者十名以內ヲ限リ特ニ各年金三百圓ヲ賜フコトアルヘシ

第六條　東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラルヽコトヲ得

第七條　會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルトキハ幹事ノ內一人ヲ指定シテ其職務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條　會長幹事ニハ手當トシテ各年金三百圓ヲ給與スヘシ但第五條ノ賜金アル者ハ之ヲ給與セス

第九條　東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長及幹事ニ屬シテ庶務ニ從事ス

第十條　東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

第十三類　衛生　醫術

第一章　衛生　醫藥

○地方衛生會規則

明治二十四年八月勅令第百七十四號

廢地方衛生會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方衛生會規則

第一條　地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣內公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條　地方衛生會ハ府縣內公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條　地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條　地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ

會長　府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員

府縣書記官　一人

警部長　一人

但東京府ハ警視廳警務局長

府縣參事官　四人

名譽職府縣參事會員

府縣廳所在地ノ郡長又ハ市長

醫師　三人乃至五人

獸醫　一人

化學家　一人

臨時委員

書記　府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ警視總監府縣知事ニ具申ス

第六條　會長事故アルトキハ書記官之ヲ代理シ書記官事故アルトキハ開會當日出席委員ノ互選ヲ以テ會長ヲ定メ其事務ヲ代理セシム

第七條　委員中府縣參事官醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員ト爲スコトヲ得

名譽職府參事會員ハ改選毎ニ郡市部各二名ヲ互選シ府知事之ヲ命ス

第八條　官吏ノ資格ヲ以テ委員トナリタル者ノ旅費ハ其所屬廳ノ經費ヨリ支給シ市長ノ旅費ハ市役所ノ經費ヨリ支給シ其他ノ委員ニ係ル手當並旅費ハ府縣稅ヨリ支給スルコトヲ得

第九條　書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文書計算ニ從事ス

第十條　府縣制ヲ施行セサル地方ニ於テハ名譽職府縣參事會員ノ職務ハ府縣會常置委員ヲ以テ之ニ充ツ此場合ニ於テハ常置委員改選毎ニ該員中ニ於テ互選シ府縣知事之ヲ命ス

○醫師免許規則

明治十六年十月布告第三十五號

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

醫師免許規則（別冊）

第一條　醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ內務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條　開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツヘシ

第三條　官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ內務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條　外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ內務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條　醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ內務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條　開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條　開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條　開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ內務省ニ願出ツヘシ

第九條　開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條　醫師醫業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ內務省ニ返納スヘシ

第十一條　醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經內務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條　前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ內務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條　內務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○醫術開業試驗委員組織權限

明治二十二年五月勅令第六十二號

廢醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

醫術開業試驗委員組織權限

第一條　醫術開業試驗委員ハ內務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試驗ヲ行フモノトス

第二條　醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長

試驗委員

宮內省侍醫

陸海軍軍醫

陸海軍藥劑官

帝國大學及高等中學校教官

其他醫師歯科醫及理化學家

書記　內務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　試驗委員長及試驗委員ハ內務大臣ノ奏薦ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條　試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ」委員長事故アルトキハ內務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ

第五條　試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試驗委員長試驗委員連署ス可シ

第六條　試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ內務大臣ニ報告ス可シ

第七條　書記ハ醫術開業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

○醫術開業試驗規則

明治十六年十月太政官布達第三十四號

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通リ相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月內務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

醫術開業試驗規則（別冊）

第一條　醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條　內務卿ハ每年二回醫術開業試驗ヲ擧行スヘシ但試驗ヲ擧行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六ケ月前之ヲ內務卿ヨリ告示スヘシ

第三條　（二十二年五月九日內務省令第七號ヲ以テ削除）

第四條　（全上）

第五條　醫術開業試驗ハ之ヲ二期ニ分チ前期試驗後期試驗トス前後二期ノ試驗ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

但歯科醫術開業試驗ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條　試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試驗科目

第一　物理學　第二　化學

第三　解剖學　第四　生理學

後期試驗科目

第一　外科學　第二　內科學

第三　藥物學　第四　眼科學

第五　產科學　第六　臨床實驗

第七條　歯科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一　歯科解剖及生理　第二　歯科病理及治術

第三　歯科用藥品　第四　歯科用器械

第五　實地試驗

第八條　前期試驗ハ一ケ年半以上後期試驗ハ更ニ一ケ年半以

上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試驗ハ二ケ年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス（十七年第二號布達ヲ以テ但書追加）

第九條　前期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試驗及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ內務省ニ進達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條　地方廳ニ於テ試驗出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ內務省ニ具狀スヘシ內務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試驗ヲ許サルヽコーアルヘシ

第十一條　試驗問題ハ試驗委員長試驗委員協議ノ上之ヲ撰定シ試驗場ニ臨ミ受驗人ヲシテ筆答セシムヘシ（二十二年五月九日內務省令第七號ヲ以テ本條中ヲ改正ス）

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條（同上）

第十三條　試驗ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試驗ヲ請フコトヲ得ス

第十四條　醫術開業試驗ヲ出願スル者ハ左ノ手數料ヲ願書ニ添ヘ其地方廳ニ納ムヘシ

前期試驗手數料　金三圓

後期試驗手數料　金五圓

齒科試驗手數料　金五圓

第十五條　試驗ヲ開屆ケサル者及受驗前死亡シタル者ノ外總テ納付シタル手數料ハ返付セス

但止ムヲ得サル事故アリテ受驗前日迄ニ次回ヘ延期ヲ願出テ其許可ヲ與ヘタルトキハ次回ニ於テハ更ニ手數料ヲ徵收セス（二十四年十一月內務省令第十八號ヲ以テ十四條及ヒ本條ヲ改正）

○試驗ヲ要セスシテ醫師ノ免狀ヲ授與スヘキ者格例

明治十六年十一月內務省達乙第四十六號

本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試驗ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則敎則及敎員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

一　三名以上ノ醫學士（歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等其履歷ニヨリ本條ニ準スルコトアルヘシ）ヲ以テ敎諭ニ充ルモノ

一　生徒ノ員數ニ相當セル助敎ヲ置クモノ

一　四年以上ノ學期ヲ定メ敎則幷ニ試驗法ノ完備スルモノ

一　生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ

一　器械標本ノ具備スルモノ

○醫術開業受驗人心得

明治十六年十二月內務省告示甲第二十六號

今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試驗規則布達相成候ニ付右受驗人心得左之通相定候條此旨告示候事

受驗人心得

第一條　醫術開業試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗擧行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條　醫術開業試驗ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條　前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試驗擧行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ屆出ツヘシ

第四條　試驗手數料ハ試驗擧行ノ前日迄ニ醫術開業試驗場ヘ相納ムヘシ

第五條　試驗場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條　試驗中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試驗ヲ終フルコトヲ得ス（十七年十二月內甲第三十五號告示ヲ以テ全條ヲ改正ス）

願書式

醫術開業試驗願

住所（寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ）

族籍

氏名

年月生

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期（後期）（齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク）試驗相受度別紙書類相添此段奉願候也

年月日　右氏名印

內務卿宛

〔戶長〕氏名印

〔衛生委員〕氏名印

○從來開業ノ醫師ハ試驗ヲ要セス鑑札等ヲ附與ス

明治十年八月內務省達乙第七十六號

昨明治九年當省乙第五號ヲ以醫師試驗ノ儀相達從來開業ノ者ハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進ノ基礎相立候處維新以來該術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシテ醫療若クハ敎授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人ノ願書及歷履書ニ管廳ノ添書ヲ付シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノヽ外ハ總テ成規ノ試驗ヲ遂ケ候儀ト可相心得事

一　內務省警視病院醫員及ヒ舊警視廳醫員

但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

一　陸軍省軍醫副及軍醫試補以上

一　海軍省軍醫副以上

一　文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學敎官下醫當直醫以上

並同省直轄諸學校醫員（皇漢醫道掛種痘館掛ハ之ヲ除ク）

一　司法省及舊彈正臺醫員

一　宮內省六等侍醫以上及舊少典醫舊權少侍醫以上

一　開拓使病院醫員

一　府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○從前府縣ニ於テ下付ノ醫術開業ノ

證ヲ所持スル者更ニ免狀附與

明治十七年一月内務省達乙第四號

從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相達候

○入齒齒拔口中療治接骨等營業ノ者開業及鑑札渡方

明治十八年三月内務省達甲第七號

入齒齒拔口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

○鍼灸術營業者取締方

明治十八年三月内務省達甲第十號

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者竝ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

○日本藥局法改正

明治二十四年五月内務省令第五號

明治十九年六月當省令第十號日本藥局方左ノ通改正シ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス

但前日本藥局方所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一日マテハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ明記スヘシ

（別冊ハ則ニ掲ケス）

○藥劑師試驗規則

明治二十二年三月内務省令第三號

藥劑師試驗規則左ノ通之ヲ定ム

藥劑師試驗規則

第一條　藥劑師ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條　藥劑師試驗ハ内務大臣ニ於テ每年二回試驗主事者及ヒ試驗委員ヲ選任シテ擧行スヘシ其擧行ノ地及ヒ試驗期日ハ六箇月前ニ之ヲ告示スヘシ

第三條　試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

學說

第一　物理學　第二　化學
第三　植物學　第四　生藥學
第五　製藥化學

實地

第一　分析術　第二　藥品鑑定
第三　藥物製練　第四　調劑術

第四條　試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ試驗期日三箇月前ニ内務省宛ニテ地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ試驗期日一箇月前ニ之ヲ取纏メ内務省ニ進達スヘシ

第五條　試驗ニ及第シタル者ニハ試驗主事者ヨリ試驗委員ト連署シタル及第證書ヲ與フヘシ

第六條　藥劑師試驗ヲ出願スル者ハ試驗手數料金五圓ヲ願書ニ添ヘ其地方廳ニ納ムヘシ（二十四年十一月内務省令第十九號ヲ以テ改正）

第七條　受驗上不都合ノ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　試驗ヲ聞屆ケサル者及受驗前死亡シタル者ノ外總テ第六條ノ手數料ヲ返付セス

但止ムヲ得サル事故アリテ受驗前日迄ニ次回ヘ延期ヲ願出ヲ其許可ヲ與ヘタルトキハ次回ニ於テハ更ニ手數料ヲ徵收セス（同上ナリ改正）

第九條　此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

○藥劑師試驗受驗人心得

明治二十三年二月内務省告示第七號

藥劑師試驗受驗人心得左ノ通相定ム

藥劑師試驗受驗人心得

第一條　藥劑師試驗ハ當省ヨリ告示シタル試驗擧行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條　藥劑師試驗ヲ受ケント欲スルモノハ明治二十二年三月内務省令第三號藥劑師試驗規則第四條ニ據リ左記書式ノ願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條　藥劑師試驗願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試驗擧行ノ期日四日前ニ受驗地ニ到著シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ屆出ヘシ

願書式

住所（寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ）
族籍
氏名
生年月

私儀何年何月何地ニ於テ藥劑師試驗相受度此段奉願候也

年月日

右　氏名印
市長（三府ノ區長若クハ町村長（市町村制ヲ實施セサル地方ハ戸長））
氏名印

内務大臣宛

○藥品營業竝藥品取扱規則ニ據リ屆出テタル藥劑師廢業又ハ死亡者報告方

明治二十二年八月内務省訓令第三十四號

藥品營業竝藥品取扱規則第八條ニ據リ屆出タル藥劑師廢業又ハ死亡者ハ其年月日族籍氏名竝免狀番號ヲ記載シ一箇月分取纏メ翌月十日限リ當省ヘ報告スヘシ

○藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキ屆出方

明治二十四年四月内務省令第一號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業竝藥品取扱規則第八條屆書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル屆出ハ戸主之ヲ爲スヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者、相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

○藥品營業竝藥品取扱規則

明治二十二年三月法律第十號

廢藥品營業竝藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

藥品營業竝藥品取扱規則

第一章　藥劑師

第一條　藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條　藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條　藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ヘシ

第四條　藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條　藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條　藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條　書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金一圓ヲ納ムヘシ

第八條　藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以內ニ地方廳ニ屆出ヘシ

第九條　藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條　藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以內ニ地方廳ニ屆出ヘシ

第十一條　藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條　藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條　藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條　藥劑師ハ患者ノ氏名、年齡、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑錄ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條　處方箋ヲ受ケタルトキハ速ニヲ問ハス何時ニヲモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條　處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス

第十七條　毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルコトヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條　患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ內外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章　藥種商

第二十條　藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條　藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條　毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章　製藥者

第二十三條　製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條　製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條　毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章　藥品取扱

第二十六條　日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條　日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條　藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條　毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條　毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條　毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條　毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條　藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條　藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條　毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅甸語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ於テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條　內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帶スヘシ

第五章　罰則

第三十九條　官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二

十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十四條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條　內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條　醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條　此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受クタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條　阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條　醫科大學藥學科及高等中學醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ（二十五年六月法律第六號ヲ以テ改正）

第四十七條　此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

○藥品巡視規則

明治二十二年三月內務省令第四號

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

第一條　衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條　監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ檢查スヘシ

一　藥品

藥品營業竝藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

二　調劑錄

第三條　監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ檢查スヘシ

一　藥品

二　藥品營業竝藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條　監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ檢查スルコトアルヘシ

第五條　第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ檢查スルコトアルヘシ

第六條　巡視ノ期日ハ豫メ告示セス其時間午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス

第七條　監視員ハ必要量ノ藥品ヲ拂啓シテ檢查スルコトアルヘシ

第八條　監視員ノ檢查ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

○藥品監視員巡視施行及費用等支辨方竝證票雛形

明治二十二年內務省訓令第三十八號

明治二十二年三月法律第十號監視員ノ巡視ハ同年同月當省令第四號ニ依リ其廳ニ於テ施行シ且右ニ係ル費用監視員ノ俸給及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其廳經費定額內ヲ以テ支辨スル儀ト心得ヘシ

但監視員ノ攜帶スヘキ證票ハ左ノ雛形ニ準シ其廳ニ於テ交附シ尙ホ之ヲ管內ニ告示スヘシ

紙製

曲尺二寸二分

○衛生試驗所ニ藥品等再檢查請求手續

明治二十四年七月內務省令第十號

衛生試驗所ニ於テ檢查シタル藥品其他ノ物品ニシテ初回ノ檢查ニ對シ不服アル者ハ再檢查ヲ請フコトヲ得再檢查ノ手數料ハ初回檢查手數料ノ三倍ヲ前納スヘシ

○醫藥適用ノ藥品印紙貼用

明治十八年二月內務省告示第五號

明治十年四月當省甲第七號布達司藥場藥品檢查印紙ハ本月十五日限リ相廢シ爾後衛生局試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニ限リ左ノ印紙貼用候條此旨告示候事

右現品見本ハ地方廳ニ下渡ス

○衛生試驗所藥品檢查印紙

明治二十年六月內務省告示第二號

衛生試驗所ニ於テ醫藥用ニ適スヘキモノト認メタル藥品ニハ左ノ檢查印紙ヲ貼用ス

但當分ノ內元衛生局試驗所檢查印紙ヲ取交貼用ス

小形印紙雛形

右印紙大中小最小形ノ四種トス

○衛生試驗所ニテ檢查印紙ヲ貼付スル藥品種別

明治二十三年三月內務省告示第九號

自今衛生試驗所ニ於テ檢査印紙ヲ貼用スルモノハ明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第二十六條第二十七條ノ藥品トス但第二十七條第二項ノ藥品ハ檢査ノ上良品ト認メタルモノニ限ル

○藥品、礦物、及金屬檢査手數料改正

明治二十二年十一月　內務省告示第三十二號

明治十七年十月當省甲第二十七號告示藥品其他ノモノ檢査手數料第一項及第十三項左ノ通改正シ來ル十二月一日ヨリ施行ス

一藥品　一種ニ付箇數ノ多寡ニ拘ハラス金五拾錢　印紙ヲ貼付スルモノハ別ニ一箇ニ付金壹錢ヲ徵シ印紙貼付ノ上仍ホ告示雙ヲ請求スルモノハ一葉ニ付金貳拾錢ヲ徵ス

一礦物及金屬　定性分析金五拾錢乃至金三圓　定量分析金壹圓乃至金拾圓

○毒藥劇藥ノ品目

明治二十五年三月　內務省令第二號

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ據リ明治二十二年三月內務省令第五號ヲ以テ定メタル毒藥劇藥ノ品目左ノ通改正シ明治二十五年四月一日ヨリ施行ス

毒藥

亞砒酸（白砒石、礬石、アルセニツク）　鹽酸亞剌莫兒比涅
硫酸亞篤羅必涅　加剌拔兒豆越幾斯
昇汞（過格魯兒汞、猛汞、生々乳）　赤色沃度汞（過沃度汞）
黃色酸化汞（黃降汞）　赤色酸化汞（赤降汞）
亞砒酸加僧謨液（法列兒水）　鹽酸莫兒比涅
硫酸莫兒比涅　巴豆油
燐　撒里矢爾酸比蘇斯知倔密涅（撒里矢爾酸越攝利涅）
鹽酸必魯加兒必涅　硝酸斯篤利幾尼涅
沕拉篤利涅

以上日本藥局方第二表ニ掲載セルモノ

砒素、亞砒酸鹽類、砒酸及其鹽類　青酸、稀青酸
アコニチ子及其鹽類　沃度砒素
硫化砒素（雄黃、雞冠石、雌黃、石黃）　亞篤羅必涅鹽類
ブルシ子及其鹽類　羯答利陳及羯答利陳酸鹽類
コニー子及其鹽類　クラーン（矢毒、ウラヽ）
實斐答林　ホムアトロピ子及其鹽類
硝酸亞酸化汞　撒里矢爾酸汞
非沃斯矢涅及其鹽類　非沃斯矢亞密涅及其鹽類
藏化加僧謨（青酸加里）　沃度砒汞液（度納波液）
莫兒比涅鹽類　ニコチ子
比蘇斯知倔密涅（越攝利涅）鹽類　必魯加兒必涅鹽類
斯篤利幾尼涅鹽類

劇藥

石炭酸　粗製石炭酸
格羅謨酸　鹽酸
粗製鹽酸　硝酸
發烟硝酸　硫酸
粗製硫酸　亞硝酸亞密爾
安知歇貌林（亞假篤亞尼里度）　安知必林
杏仁水、苦扁桃水、老利兒結兒斯水、バクチ水
結晶硝酸銀　硝酸銀加硝石
熔製硝酸銀　貌羅謨（臭素）
貌羅謨樟腦　羯答利斯（豆斑猫）、芫菁
蓚酸攝僧謨　抱水格魯拉爾

嚼囉仿謨　鹽酸古加乙涅
古垤乙涅　咖啡涅
發泡古魯胃謨　硫酸銅（膽礬）
銅礬（神效石）　印度大麻越幾斯
古魯聖篤越幾斯　非沃斯越幾斯
阿片越幾斯　莨菪越幾斯、別剌敦那越幾斯
麥角越幾斯　番木鼈越幾斯
實斐答里斯葉　古魯聖篤實
印度大麻草　非沃斯草
莨菪草、別剌敦那草　甘汞（亞格魯兒汞）、輕
黃色沃度汞（亞沃度汞）　白降汞
沃度仿謨　沃度
苛性加里（腐蝕劑篤亞斯）　格魯兒酸加僧謨（鹽素酸加僧謨）
沃度加僧謨　結麗阿曹篤
刺苦丟葛僧謨　莨菪擦劑、別剌敦那擦劑
偏答百兒加液　鉛醋（次醋酸鉛液）
苛性那篤倫（腐蝕曹達）　揮發芥子油
阿片　古魯聖篤非沃斯丸
醋酸鉛（鉛糖）　拕汐兒散（阿片吐根散）
吐根　葯剌巴根
莨菪根、別剌敦那根　葯剌巴脂
剝度比爾謨脂（剝度比爾林）　珊篤寧
麥角　古爾矢屈謨子
加剌拔兒豆　番木鼈子
吐酒石　金硫黃（五硫化安知母紐謨）
知母爾　羯答利斯丁幾、芫菁丁幾
古爾矢屈謨丁幾　古魯聖篤丁幾
實斐答里斯丁幾　沃度丁幾
吐根丁幾　魯別里亞丁幾
阿片丁幾　阿片安息香丁幾（阿片樟腦丁幾）
莨菪丁幾、別剌敦那丁幾　番木鼈丁幾
古爾矢屈謨酒　吐根酒
芳香阿片酒（舍電華謨阿芙蓉液）　吐酒石酒
格魯兒亞鉛　硫酸亞鉛（酷礬）

以上日本藥局方第三表ニ掲載セルモノ

硝鹽酸（王水）　格羅謨酸鹽類
粗製硝酸　蓚酸
ピクリン酸及其鹽類　發烟硫酸
強安母尼亞水
格魯兒拔僧謨、硝酸拔僧謨其他拔僧謨鹽類
攝僧謨鹽類　コロヽダイン
咖啡涅鹽類
硫酸銅安母紐謨（銅硫礬）　醋酸銅、次醋酸銅（綠青、山綠、銅青、荒綠青）
次炭酸銅（扁青、紺青）　硝酸銅
サビナ葉及其製劑　曼陀羅華葉、子及其製劑
檳實（日本產大茴香）　グアヤコール
藤黃（辨天雌黃）　古紐謨草及其製劑
汞灰散（銀灰散）　硫酸汞（硫酸化汞）
沃度爾　揮發苦扁桃油
サビナ油　アコニット根（雙鹽菊、烏頭、附子ノ類）及其製劑
藜蘆根及其製劑　巴豆
サパヂルラ子　ストロフアンツス子其製劑

フエロース次亞燐酸鹽舍利別　酸化安知母紐謨
酷酸亞鉛、炭酸亞鉛、縮苴酸亞鉛

○石炭酸其他劇藥傳染病流行ノ際販賣ヲ許ス

明治十三年五月布告第二十三號

石炭酸其他劇藥ハ本年月第壹號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ內務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○藥用阿片賣買竝製造規則

明治十一年八月布告第二十一號

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買竝製造規則左ノ通相定候條此旨布告候事

但施行ノ時日ハ追テ內務省ヨリ可相達事（同年內務省甲第二十七號ヲ以テ十二年五月一日ヨリ施行ノ旨ヲ布達ス）

藥用阿片賣買竝製造規則

第一條　阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條　藥用阿片ハ內國產若クハ外國產ヲ論セス總テ內務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片卸賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ（二十年十月六日勅令第五十二號ヲ以テ改正シ廿一年一月一日ヨリ施行ス）

第三條　地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ貼附スルモノトス（同上）

第四條　地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管內相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選ミテ內務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ內務省ニ返納スヘシ

第五條　特許鑑札ヲ受ケル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管內ノ公私病院醫師藥舖一般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條　特許鑑札ヲ受ケル藥舖ハ其店頭ニ特許藥用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲ケ置クヘシ

第七條　特許ヲ受ケタル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ每年兩度該地方廳ニ申立其拂下ケヲ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ヲ請フコトヲ得（同上）

第八條　凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルトキハ其量目竝ニ其住所姓名及年月日（病院ハ其名稱及ヒ院長若クハ副長ノ姓名）ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四十匁ヲ超ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ賣買スルコトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超ヘカラス

第九條　凡テ內外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖竝ニ一般藥舖ニ於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條　特許藥舖ハ每半年分阿片拂受竝ニ一匁以上賣捌ノ高及ヒ買人ノ住所姓名竝ニ一匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤一匁以下ノ分ハ平常其明細簿ヲ記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ內務省ニ進達スヘシ

第十一條　醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條　藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記シ管轄廳ヲ經由シテ內務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第十三條　阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ノ買上ケヲ願フヘシ右買上ケヲ受クルノ外決シテ內外人民ニ販賣スルコトヲ許サス

但內務省ニ於テ其品位藥用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ（同上勅令ヲ以テ但書ヲ改正ス）

第十四條　阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歲ノ豐凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應シテ價格ヲ定ムルハ該藥主用ノ性分即チ「モルヒヲ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條　內務省ニ於テ買上ケ及拂下クル阿片ノ「モルヒヲ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス（同上勅令ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第十六條　此規則ニ違犯スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○阿片賣買並製造規則施行ニ付取扱方

明治十一年十一月內務省甲達乙第六十八號

本月二日當省甲第二十七號ヲ以テ阿片賣買竝製造規則施行ノ日限布達候ニ付テハ豫メ左件ノ通可取計此旨相達候事

一各管內藥舖營業者及ヒ阿片製造者ニ於テ現在所持ノ阿片ノ試驗ヲ要スルモノハ來ル十二月限リ最寄司藥場ニ差出ス可シ試驗ノ上相當ノ品ハ小器ニ分チテ印紙ヲ貼附シ之ヲ下渡シ若シ其買上ヲ望ムモノハ定價ヲ以テ買上ク可ク品位不相當ノ品ハ其理由ヲ記シテ持主ニ返附スヘシ

一阿片賣買竝製造規則第四條ニ據リ各郡區ニ於テ阿片賣捌ヲ特許スヘキ藥舖ヲ撰定シ其郡區町村番地姓名年齡ヲ詳記シ來ル十二月限リ申出ヘシ

一阿片製造人有之地方ハ同規則第十二條ニ據リ免許鑑札願出サシムヘシ

○內國產濕潤阿片幷粉末阿片價格ヲ定ム

明治二十年十月內務省告示第五號

阿片製造人ヨリ買上クヘキ內國產濕潤阿片竝地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下タル粉末阿片價格來ル明治二十一年一月一日ヨリ左ノ通相定ム

買上價格

濕潤阿片（百分中九以上十分未滿モルヒヲノ含ミタルモノ）　百目ニ付金四圓五十錢

但「モルヒヲ」含量十分以上ノモノハ本項ノ割合ニ依リ其價格ヲ增ス

拂下價格

粉末阿片（「モルヒヲ」ノ含量十乃至十一分ノモノ）　壹匁入壹瓶ニ付金拾錢

○燐製ノ鼠取藥ヲ禁ス　明治十年三月 内務省達乙第三十六號

從來燐製ノ鼠取藥ヲ以テ賣藥トナシ候儀開屆鑑札下渡候向有之候處右ハ毒藥ニテ到底民間誤用之慮ナキヲ兒レス殊ニ本年太政官第二十號毒劇藥取扱規則公布相成取締上ニモ關係候ニ付自今一切禁止候條右營業者有之府縣ハ其旨相達速ニ鑑札返納可取計此旨相達候事

但請賣藥之モノモ同樣賣藥規則ニ照シ禁止之處分可相達候事

○アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料取締方　明治十一年四月 内務省達乙第三十五號

近年アニリン其他鑛屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ著色スルモノ不少趣ニ候處右ハ自然人身之健康ヲ害スルハ勿論中ニハ毒シキ中毒ニ罹リ忽チニ非命ノ横夭ヲ致スモノモ有之危險ノ至リニ候條各地方廳ニ於テ注意取締可致此旨相達候事

追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添當衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

○繪具染料賣買取締方　明治十三年三月 内務省達乙第十號

本年一月太政官第一號ヲ以テ藥品取扱規則公布相成候ニ付テハ繪具染料等モ第二類竝第三類表中ニ掲載有之モノハ該規則ニ照シ賣買可至筈ニ候條心得違ノ者無之樣可取計此旨相達候事

○賣藥規則　明治十年一月 布告第七號

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

賣藥規則（別冊）

第一章

第一條　此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥散藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ（十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正）

第二條　此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ（十年第二十七號布告ヲ以テ族籍廳ノ下ハ字ヲ削ル）

但免許ヲ受クタル者ニ ケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ（十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第三條　管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サヽルヘシ（十一年第二十七號布告ヲ以テ（内務省）ヲ（管轄廳）ト改メ（毒藥）ノ下（劇藥）ノ二字ヲ加フ）

第四條　第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スル者其由ヲ屆出書鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條　賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ旅籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結ヒタル約定書ヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ（十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第廿七號布告ヲ以テ（鑑札ヲ受）ノ下十三字ヲ削リ（ク）ノ一字ヲ加フ）

第六條　賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條　賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメント欲スルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ屆出行商鑑札ヲ願受ク行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條　營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尚免許ヲ得ント欲スルモノハ當鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ（十九年二十五日勅令第七十二號ヲ以テ（營業免許期限）ヲ廢ス）

第九條　第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條　免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ揭クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノコトアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ（十一年第二十七號布告ヲ以テ（有害）ヲ（有毒）ニ改ム）

第十一條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽ時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條　諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ屆出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條　免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フヘシ

第十四條　賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フヘシ（十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正）

第十五條　賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條　賣藥營業者ハ左ノ通稅金並鑑札料ヲ上納スヘシ（十四年第二十六號布告ヲ以テ（賣藥營業者）ノ下（及ヒ請賣者）ノ五字ヲ削リ（有價札料）ノ次（賣藥請賣鑑札料）及ヒ（賣藥行商鑑札料）ノ二項ヲ加ル）

賣藥營業稅　藥劑一方ニ付一ケ年　金貳圓

右鑑札料　藥劑一方ニ付一枚　金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ稅金幷鑑札料ヲ納ムヘシ（十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第十七條　水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條　稅金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度並ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條　稅金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ月割ヲ以テ稅金ヲ納メシムヘシ（十一年第二十七號布告ヲ以テ（有毒）ヲ（有害）ニ改ム）

第三章

第二十條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條　免許ヲ受クスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ衒惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條　無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ（十四年第二十六號布告ヲ以テ（但藥スル者）ノ下三十八字ヲ追加ス）

第二十四條　諸鑑札ヲ僞造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ賣造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條　私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條　以上ノ犯則者ヲ見屆ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費支辨方

明治十四年四月太政官達第三十二號

賣藥請賣鑑札並行商鑑札製作費ノ儀ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ內ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

○賣藥手續中請賣鑑札及行商鑑札並行商鑑札製作費ノ一項ヲ削除シ更ニ取扱方ヲ示ス

明治十四年四月內務省乙第二十五號

本年四月太政官第三十二號公達相成候ニ付テハ明治十年月當省乙第三十二號達賣藥取扱手續中請賣鑑札料及ヒ行商鑑札料ノ廉並行商鑑札製作費云々ノ一項削除候條更ニ左ノ條項ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

一賣藥請賣及ヒ行商ニ地方稅ヲ賦課スルトキハ本年府縣會於テ其稅額ヲ議定シ十四年度ヨリ徵收スヘシ

一請賣鑑札料紙ハ自今大藏省ヨリ配賦不致候條各管轄廳ニ於テ從前雛形ノ通製造スヘシ

但大藏省ヨリ下付セシ鑑札所持ノ者ハ別段引替ニ不及且ツ本年分豫算ヲ以テ受取候料紙未用ノ分ハ同省ヘ返納スヘシ

一請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候儀ハ無之筈ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ傳ハリ調製候向モ有之候ハヽ改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業爲願出候樣取計フヘシ

第二章　獸醫及蹄鐵工

○獸醫免許規則

明治二十三年八月法律第七十六號

獸醫免許規則ノ改正ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

獸醫免許規則

第一條　獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

第二條　獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一　獸醫免許試驗ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者

一　官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一　公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一　外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

第三條　第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條　獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條　獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以內ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條　獸醫免狀ヲ受ケル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手數料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

第七條　獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受ケル者ハ免狀下付ノトキ手數料トシテ金五十錢ヲ納ムヘシ

第八條　獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍內ニ於テ其業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以內ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條　第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後悔狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條　免狀ヲ受クシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依賴ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條　獸醫免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附　則

第十四條　獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ內北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條　第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條　明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル規定ハ總テ廢止ス

○獸醫免許試驗規則

明治二十三年九月農商務省令第十一號

明治二十三年八月法律第七十六號第十三條ニ據リ獸醫免許試驗規則左ノ通之ヲ定ム

獸醫免許試驗規則

第一條　試驗ノ科目ハ左ノ如シ

一　家畜解剖學
一　同　生理學
一　同　藥物學
一　同　內科學及其ノ實地
一　同　外科學及其ノ實地
一　蹄鐵學及其ノ實地

第二條　試驗法ハ筆記及實地ノ二樣トシ實地試驗ハ筆記試驗ヲ終ハリタル後之ヲ行フ但時宜ニ依リ口述試驗ヲ以テ實地ニ代フルコトアルヘシ

第三條　試驗ハ每年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ

第四條　農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選定シテ試驗ヲ行ハシムヘシ

第五條　試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受驗地名ヲ願書ニ記載シ修學履歷書ヲ添ヘ一月若クハ七月中其ノ居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條　受驗者ハ試驗期日三日前受驗地ノ宿處ヲ其ノ地方廳ニ屆出ヘシ

第七條　試驗及第者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ

第八條　不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス

附則

第九條　第十回獸醫免許試驗ニ限リ家畜ノ解剖學、生理學、藥物學、內科學、外科學ニ就キ筆記試驗ヲ行フ

○獸醫假免許手續　明治二十三年九月農商務省訓令第四十四號

明治二十三年八月法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ノ獸醫假免許手續左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ

仰明治十九年十二月十二日當省訓令第二十一號假開業獸醫免許手續ハ廢止ス

獸醫假免許手續

第一條　獸醫假免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一　營業區域ノ廣袤及地勢ノ險夷
一　區域內牛馬ノ頭數
一　營業年限

第二條　獸醫假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ（二十五年六月內務省訓令第十號ヲ以テ第二條ヲ加除シ本條ヲ第二條ト改ム）

○獸醫開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ノ件　明治二十二年十一月農商務省訓令第三十九號

獸醫開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ハ自今副本差出スニ及ハス

○開業獸醫轉居屆出方　明治二十二年十一月農商務省告示第十五號

開業獸醫（假開業獸醫ヲ除ク）ニシテ明治二十二年十二月一日以後轉居セシ者ハ其都度直ニ當省農務局ニ屆出ツヘシ

○蹄鐵工免許規則　明治二十三年四月法律第三十一號

除蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

蹄鐵工免許規則

第一條　蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

蹄鐵工トハ他人ノ依賴ニ應シ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條　蹄鐵工免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一　蹄鐵工免許試驗ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
一　官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部內ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
一　公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
一　外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者
一　獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク

第三條　第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケントスルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條　蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條　蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以內ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條　蹄鐵工免狀ヲ受ケル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條　蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受ケル者ハ免狀下付ノトキ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條　蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　免狀ヲ受クスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條　蹄鐵工免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十二條　蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ內北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條　第十二條ニ依リ蹄鐵工免許狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條　此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼ヌント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受クル者ハ第六條ノ手數料ヲ要セス

第十五條　此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

○蹄鐵工假免許取扱手續

明治二十三年七月農商務省訓令第三十八號

明治二十三年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

蹄鐵工假免許手續

第一條　蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工モシキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一　區域、廣袤、地勢及馬匹頭數

一　營業年限

第二條　假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○獸醫、蹄鐵工各免許規則ニ依リ學則認可請求方

明治二十三年十一月農商務省令第十八號

本年八月法律第七十六號獸醫免許規則第二條第三項及同年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則ノ認可ヲ請ハントス欲スルトキハ左ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名稱學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ記入シ教員ノ族籍氏名年齡及履歷ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ其ノ校長又ハ校主名ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校主ハ其ノ學校ノ卒業試驗結了ノ後十五日以內ニ地方廳ヲ經由シ卒業者ノ族籍氏名年齡及最終學期ノ試驗成蹟ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一　教員ノ員數及資格

一　獸醫學校教員ハ三名以上トシ內少クモ一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一　蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ內一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二　學科目

一　獸醫學校學科

動植物學及理化學　　產科學

病理學通論　　動物疫論及警察法

解剖學及其ノ實習　　病體解剖學及其ノ實習

三　修學年限

一　獸醫學校滿三年以上　一　蹄鐵學校滿一年以上

第三章　傳染病　檢疫停船　獸類傳染病

○傳染病豫防規則

明治十三年七月布告第三十四號

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條　此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布垤利亞、發疹窒扶私及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條　醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遲クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戶長ニ通知スルヲ要ス戶長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳（東京府下ハ府廳及ヒ警視本署）ニ屆出ヘシ（十八年第二號布告ヲ以テ衞生委員ヲ以テ戶長ト改ムル以下皆同シ）

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ屆出警察署ヨリ戶長ニ通知スルモ妨ケナシ

地方廳ハ一週間每ニ新發患者及治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ（十三年第五十四號布告ヲ以テ末項ヲ增加ス）

第三條　地方長官ハ管內ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ配シテ速ニ之ヲ內務省ニ申報シ且ツ其管內及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ（同上但書ヲ刪除ス）

第四條　（同上刪除）

第五條　諸官廳、兵營、軍艦、監獄、及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルトキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條　虎列刺、赤痢、發疹窒扶私、瘟疫ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條　醫師並ニ戶長ニ於テ傳染病者ノ看護行屆カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條　掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戶ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絕タシムヘシ（十五年第四十七號ヲ以テ病名貼付ノ儀ハ當分施行セサル旨ヲ布告ス）

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入リタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條　虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條　虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ澁リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條　虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室廁室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條　虎列剌流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ圊圂、井溜、下水、溝渠等總テ病毒蔓延ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條　虎列剌流行スルトキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ檢査シ患者若クハ死者アルトキハ此規則ニ從フ處分スヘシ

第十四條　虎列剌流行ノ勢猛劇ナルトキハ地方長官ハ內務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衞生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備アル病ヲ診斷スルトキハ總テ檢疫委員ニ屆出ヘシ（十五年第四十八號布告ヲ以テ本項但書共追加）

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管內ニ告示シ內務省ニ申報スヘシ

第十五條　前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得

虎列剌已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサヽル樣遮斷シ得ヘキモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ內務卿ニ稟議シ交通ヲ絕タシムルノ處分ヲ爲スコトヲ得（十四年第五十八號布告ヲ以テ第二項ヲ追加ス）

但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸窒扶私病

第十六條　腸窒扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

實布垤里亞病

第十八條　實布垤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹窒扶私病

第十九條　發疹窒扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ（十三年第五十四號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス）

第二十條　發疹窒扶私病者若クハ其死屍ヲ藏セタル車輿等ハ每回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條　痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ（十五年第四十八號布告ヲ以テ本條ヲ改正）

罰則

第二十二條　醫師戶長此規則ニ違背シタルトキハ五十圓以內ノ罰金ニ處ス

第二十三條　官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以內ノ罰金ニ處ス

第二十四條　人民此規則ニ違背シタルトキハ壹圓五拾錢以內ノ科料ニ處ス

○種痘規則

明治十八年十一月布告第三十四號

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年內務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

第一條　種痘ハ小兒出生後滿一年以內ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年內ニ再三種ヲ行フヘシ

第二條　種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ

第三條　天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラス掛官吏ノ指定シタル期日內ニ種痘ヲ行フヘシ

第四條　種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ヘ戶長役場ニ屆出ヘシ

第五條　種痘ヲ受クシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六條　種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘證ヲ受領シ戶長役場ニ屆出ヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其證ヲ受領シ本條ニ準スヘシ

第七條　十六歲未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ

貧院育見院等ヘ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條　醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘證ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其證ヲ付與スヘシ

第九條　第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條　府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ每年一月七月ノ兩度內務卿ニ報告スヘシ

第十一條　此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ク內務卿ニ屆出ヘシ

○黴毒檢查方法施設方

明治九年四月內務省達乙第四十五號

傳染病毒ノ最酷烈ナルモノハ黴毒ヨリ甚シキモノ無之其禍源ハ專ラ娼妓賣淫ニ起因スレハ豫防ノ法ハ娼妓黴毒檢查ノ外無之娼妓貸座敷差許候場所ハ必檢查方法施設可致處其方法モ無之取締不十分ノ向モ不鮮哉之趣右ハ衞生上最緊要之事ニ付篤ク注意致シ速ニ方法施設取締行屆候樣可致此旨相達候事

但從來施行致居來タ不屆出分竝ニ自今施設致候分共方法取調當省ヘ可申出事

○傳染病ニ罹リ身元赤貧ノ者費用地方稅衞生費ヲ以テ支辨方

明治十六年二月太政官達第八號

明治十四年四月第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總テ發病地ノ地方稅中衞生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ依リ官費支給スルコトアルヘシ

○檢疫停船規則

明治十二年七月太政官布告第二十九號

明治十二年(七月)第二十八號布告海港虎列刺病傳染豫防規則別冊ノ通更正シ檢疫停船規則ト改稱候條此旨布告候事

檢疫停船規則

第一條　日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカタメ茲ニ左ニ掲クル規則ヲ開港場ニ施行スルコトヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條　中央衞生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スヘシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應シテ增減アルヘシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナキヲ以テ足レリトスヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)

都テ此地方檢疫局ハ中央衞生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條　政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所並ニ停留セラレタル人ノタメ都テ必需ノ具ヲ備タル屋舍ヲ設置スヘシ

第四條　檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前檢査ノタメ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名派出シテ之ヲ檢査スヘシ但右局員ノ內一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船內ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ訊問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出スヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)

船長ハ檢疫官吏ノ求メニ應シ船內ノ各部ヲ開キ檢査ヲ受クヘシ但シ艙ハ航海中船客又ハ乘組人ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルトキハ其檢査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ航海日記ヲ査閱シ乘組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船內現在ノ人員ト引合ハスコトヲ得ヘシ

第五條　虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラス又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船內ニ發セシモノ無キ旨ヲ證明シテ檢疫官吏ヲ滿足セシムルトキハ該船ハ直チニ入港スルコトヲ得ヘシ軍艦ハ其艦長及醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該艦ハ檢査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サヽルトキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ(同上布告ヲ以テ本條ニ追加ス)

第六條　船內ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者無シト雖モ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船內ノ人員ハ其港ヨリ出帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮スルトモ差支ナキヲ認ムルトキハ此限ニアラス

右七日ノ期該船來著ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルトキハ消毒法ヲ行ヒシ上速ニ船客ノ上陸ヲ許スヘシ

一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込ヲ以テ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論其他檢疫官吏ニ於テ特ニ危險ナリト見込ムモノハ消毒法ヲ行フヘシ

消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速ニ陸揚スルコトヲ得ヘシト雖モ消毒法ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルトキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第七條　有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面ヲ以テ該艦來港前七日以內艦內ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上陸セシコト無ク又ハ病毒感染ノ恐ナク且航海中船內ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發セシコト無キ旨ヲ明告スルトキハ直ニ入港スルヲ得ヘシ右ノ書面ヲ差出サヽルトキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條ニ追加)

第八條　船舶來港ノ上其船內ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法ヲ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ滿足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ヘシ消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルトキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルトキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムヘシ

患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スヘシ

第九條　前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來著スルニ方リ其乘組ノ患者未タ癒エサレハ其容體ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未タ濟マサルトキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船內何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ルヘキ人トノ外都テ船內ノ人員ハ其人ノ爲メ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船內ニ殘リタル人員ハ船內ニテ消毒法ヲ受クルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クヘシ

第十條　有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スヘシ

第十一條　定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ著港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルコトヲ得ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ陸揚配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クヘシ(十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正)

第十二條　病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ヘシ

病院或ハ碇泊ノ船內ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルコトヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルコトヲ得ス

第十三條　船中ニ於テ眞性虎刺列病若クハ疑似症ヲ發スルコトナキ時ハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置コトヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衞生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サルヽコトアルヘシ

第十四條　檢疫停船規則施行ノ港ニ來著スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺ノ源因ナラント思考スル疑似ノ病徵ヲ發スル者アルトキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ審斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムヘシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ內其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ（十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正）

第十五條　有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ檢査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ルヽ毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ

又該船內ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルトキハ該船又ハ其乘込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船內ヨリ上陸スル者アル時ハ他船ニテ到著シタル人ニ行フヘキ同一ノ處置ヲ爲スヘシ

第十六條　船舶ノ檢査ハ其來著後成ルヘク速ニ施行スヘシ若シ來著後十二時間ヲ過キテ檢査ヲナサヽル時ハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐僞ニ出ツルカノ時ハ此限ニアラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタル時檢査ヲ爲スヘシ

第十七條　地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時間ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條　檢疫停船規則ヲ施行スル港內ニ碇泊中船內ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タル時ハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及ヒ檢査ノ方法ヲ反復施行スヘシ（十二年七月第三十號布告ヲ以テ本條改正）

第十九條　虎列刺病既ニ流行スル港內ニ來著スル船舶檢査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及ヒ人員停留ノ規則ハ休止スヘシ（同上）

第二十條　第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルトキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコトヲ得ヘシ其場合ニ方リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衞生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條　檢査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クコトヲ許サス

第二十二條　前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨

償スヘシ

第二十三條　此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ム者ハ犯ス毎トニ貳百圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フコトヲ拒ムトキハ毎犯罰金五百圓ニ至ルマテ增加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルトキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ

但シ罰金ハ科セサルヘシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脫去スル者ハ（船又ハ人）罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則（明治十五年六月布告第三十一號）

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則

第一條　凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ檢査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ス可カラス

第二條　其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フ可シ

但檢疫官ニ於テ必用ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以內其指定スル場所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得（十八年第二十九號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第三條　若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致ス可シ其死者ハ（若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ）地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乘組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條　此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ於テ之ヲ處分スヘシ

第五條　此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度內務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ

○夜間檢疫信號（明治二十一年九月內務省告示第十一號）

夜間檢疫信號左ノ通相定ム但晝間檢疫信號ハ萬國檢疫信號ニ依ル

夜間檢疫信號

一檢疫船前檣（船首碇泊燈ノ位置ヨリ凡ソ五尺以上ノ高サニ於ル）ニ於テ赤色球燈二箇各三尺ヲ距テ縱ニ連揭シ檢疫船ノ信號トス

一船舶ノ進航ヲ止メントスルトキハ其入船ヲ見掛ケタル時大砲ヲ一發シ船ヲ止ムルノ信號トス

一檢疫船碇泊ノ時ハ船首船尾ニ各一箇ノ碇泊燈ヲ掲ク

○虎列刺病流行ノ際檢疫所設置取計方

明治十三年三月 内務省達乙第九號

虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ檢疫所ヲ設ケ行旅船客ヲ抑留候儀ハ經伺之上可取計儀ト可心得此旨相達候事

○虎列刺病流行地方ヨリ古着及襤褸輸送ヲ禁ス

明治十八年九月十四日 内務省達甲第三十一號

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及ヒ襤褸ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

○獸類傳染病豫防規則

明治十九年九月 農商務省令第十一號

獸類傳染病豫防規則左之通制定シ明治二十年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年二月内務省乙第二十號達其他獸類ノ傳染病ニ關スル從前ノ達類ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

獸類傳染病豫防規則

第一條　此規則ニ稱スル獸類トハ牛馬羊豕ヲ謂ヒ傳染病トハ左ノ諸病ヲ謂フ

一　牛疫

二　炭疽熱

三　鼻疽及皮疽

四　傳染性胸膜肺炎

五　傳染性鵝口瘡

六　羊痘

第二條　獸類傳染病ニ罹リタルトキ若クハ其症候ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理者ハ其患畜ト健畜トヲ隔離シ獸醫ヲシテ患畜及之ニ接近シタル獸類ヲ診察セシムヘシ

第三條　獸醫ハ獸類ヲ診察シ傳染病ト鑑定シタルトキハ所有者又ハ管理者ト連署シ直ニ警察署及戸長役場ニ屆出ツヘシ

第四條　獸醫牛疫ト診斷シタルトキハ警察官吏及獸醫立會ノ上所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ

第五條　第四條ノ場合ニ於テハ三人以上ノ評價ヲ以テ發病前ノ價格ヲ定メ所有者ニ左ノ手當金ヲ下付スヘシ

評價金二十五圓マテ	手當金評價	十分ノ四
評價金五十圓マテ	同	十分ノ三
評價金百圓マテ	同	十分ノ二
評價金二百五十圓マテ	同	十分ノ一
評價金五百圓マテ	同	十五分ノ一
評價金千圓マテ	同	二十五分ノ一

第六條　獸醫傳染病蔓延ノ兆候アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ警察署及戸長役場ニ屆出ツヘシ

第七條　第三條ノ屆ヲ受ケタル戸長役場ニ於テハ其旨ヲ患畜所在ノ近傍ヘ榜示スヘシ

第八條　傳染病畜ノ全癒又ハ斃死シタルトキ若クハ傳染病畜ヲ撲殺シタルトキハ其所有者又ハ管理者ハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ直ニ警察署及戸長役場ニ屆出ツヘシ

第九條　傳染病ニ罹リテ斃死シ又ハ傳染病ニ由リテ撲殺シタル獸類並ニ其排泄物及之ニ觸レタル飼料褥草等ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニ於テ燒棄スルカ又ハ消毒法ヲ施シ深六尺以上ノ坑ヲ掘リテ埋沒スヘシ

但埋沒シタル場所ハ十二箇年ノ後ニアラサレハ發掘スルヲ得ス

第十條　傳染病畜及其排泄物ニ觸レタル物品若クハ看護者ハ勿論其患畜ノ在リシ場所ハ獸類ノ所有者又ハ管理者ニ於テ消毒法ヲ行フヘシ

第十一條　道路ニ於テ傳染病ニ罹リタル獸類若クハ其死體ハ警察官吏ノ指定シタル場所ニアラサレハ轉移スルヲ許サス

第十二條　傳染病ノ流行ニ際シ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ獸類市場ノ開設及斃牛馬化成ニ關スル營業ヲ停止スルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ停止又ハ解停ノ都度其旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十三條　第三條第六條第八條ノ屆ヲ受ケタル戸長役場ハ郡區役所ヲ經警察署ハ直ニ所轄廳（警視廳北海道廳府縣廳ヲ云フ）ニ屆出ツヘシ

第十四條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第三條及第六條ニ該當スヘキ屆ヲ得タルトキハ直ニ其旨ヲ管内及近接ノ地方廳ニ報告スヘシ（二十二年農商務省令第六號ヲ以テ改正）

但本條ノ報告ヲ得タル地方廳ハ直ニ其旨ヲ管内ニ報告スヘシ

第十五條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第十三條ノ屆ヲ得タルトキハ毎土曜日其旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十六條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ第六條ニ該當スヘキ屆ヲ得タルトキ及管下接近ノ地方ニ傳染病蔓延ノ兆候アリトノ報告ヲ得タルトキハ豫防線ヲ劃シ獸類ノ出入往來ヲ停止スルヲ得（同上）

第十七條　牛疫蔓延ノ際ニ限リ其患畜ニ接近シタルトキハ假令健康ノモノタリトモ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ之ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ評價金ノ金額ヲ下付スヘシ（同上）

第十八條　牛疫ヲ除クノ外傳染病蔓延ノ際ニ於テハ警視總監北海道廳長官府縣知事ハ其患畜ヲ撲殺セシムルヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ手續ニ據リ手當金ヲ下付スヘシ

第十九條　此規則ニ違背シタル獸醫及獸類所有者又ハ管理者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

但刑法ニ正條アルモノハ此限ニアラス

○人家稠密ノ場所ニ於テ豢養ヲ禁ス

明治六年五月 布告第百六十三號

方今牛豚類ノ牧畜盛ニ行ハレ候處温暑ノ時ニ方テハ其臭氣人身ノ健康ニ害スルノミナラス近來獸類ノ傳染病流行往々人生ノ傷害ヲ釀シ候ニ付自今三府市街ノ區内ハ勿論各地一般人家稠密ノ場所ニテ豢養ノ儀堅ク禁止候條右區内ニ於テ從前營業ノ者ハ布令到達ノ日ヨリ三十五日以内ヲ以テ郊外便宜ノ地ニ立退豢養可致事

但東京府下朱引内ハ假令草野空間ノ地ト雖モ豢養不相成候尤乳汁搾取ノタメ豢養候ハ被差許候得共不潔臭穢ノ儀モ有

之候ハ除職ノ上可令返納事

○蚕養制限避酌方　明治七年一月大蔵省達第三號

昨明治六年第百六十三號ヲ以テ公布相成候趣者專人命保護ノタメ市街等人家稠密ノ地ニテ蚕業候ヲ制限候等ニ候條山村僻邑等ハ實地適宜ニ斟酌可致此旨相達候事

第十四類　行政警察

第一章　警察規則　警察費

第一款　警察規則

○行政警察規則　明治八年三月太政官達第二十九號

行政警察規則別冊ノ通相定候條本年四月一日ヨリ施行可致就テハ從前捕亡吏取締組番人等ノ名稱ヲ廢シ巡査ト改稱可致此旨相達候事（八年十月第百八十三號達ヲ以テ（追加）トアルハ總テ巡査ト改ム）

但捕亡吏ヲ改テ警察吏ト稱シ定額ハ先從前ノ通ニ候條出張所並吏員配置ノ儀ハ適宜タルヘク尤差向規則ノ通施行難致事情有之向ハ其段内務省ヘ可申出事

行政警察規則（別冊）

第一章　警察職務之事

第一條　行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ

第二條　各府（東京府ヲ除ク）縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡査ヲシテ各部ニ分派シ巡邏査察セシム（八年十二月第二百六號達ヲ以テ全條改正）

第三條　其職務ヲ大別シテ四件トス

第一　人民ノ妨害ヲ防護スル事

第二　健康ヲ看護スル事

第三　放蕩淫逸ヲ制止スル事

第四　國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索警防スル事

第四條　行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルトキ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フトキハ檢事章程並司法警察規則ニ照スヘシ

第五條　警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小悪ヲ發ク可ラス且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ忘ル可ラス（八年十二月第二百六號達ヲ以テ第五條六條七條ヲ削除シ第八條ヲ第五條トス）

第二章　警部勤務ノ事（同上本章ヲ增補ス）

第一條　各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要スヘシ

第二條　凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡査ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

第三條　時々區内ヲ巡視シ其景況並ニ巡査ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戸數職業等ハ成丈ケ詳知スルヲ要スヘシ

第四條　區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時機ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條　凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若クハ照會スルコトヲ得ヘシ

第六條　達又ハ訊問等ノコトアルニ付テハ勅奏官及ヒ華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スコトヲ得ヘシ

第七條　逃警犯人ハ其犯狀ヲ按シ逃警條目ニヨリ處斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章　巡査勤方之事（同上第二章ヲ三章トス）

第一條　第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條　持區內ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フトキハ何時ニテモ乞ニ應シ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ隣速救護シ最寄ノ醫ヲ賴ミ治療ノ手續懇切ニ取計フヘシ

第三條　老幼癈疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條　持區內ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戶長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條　持區內ノ戶口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄ヲ注意シ若シ無產體ノ者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルトキハ常ニ注目シテ其擧動ヲ察スヘシ

第六條　持區內ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル樣隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若已ムヲ得サルコトアルトキハ自ラ行ヲ詰問スヘシ

第七條　布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ（同上掛官員ヲトアルハ（警部）ト改ム以下皆同シ）

第八條　巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ遂一手帖ニ記シ警部ニ報知スヘシ

第九條　非番ヲリトモ合圖アルヲ又ハ臨時呼出ヲ受ケハ早速其場ニ駈付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條　往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルトキハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

第十一條　道路ノ荒蕪溝渠ノ汚塞及不潔物アレハ之ヲ戶長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條　官舍橋梁道路其他公有之建造物破損スルトキハ警部ニ報知スヘシ

第十三條　行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラルヽトキハ丁寧ニ敎示スヘシ

第十四條　稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戶長ニ預ケ之ヲ警部ヘ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持區內ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナラハ其地ノ區戶長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ

第十五條　芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ亂雜ヲ防制スヘシ

第十六條　放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與シ然ラサルハ警部ノ指圖ヲ受ヘシ

第十七條　路上酒ニ醉ヒ失心スル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戶長ニ引渡スヘシ

第十八條　路上狂癲人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戶長ニ引渡スヘシ

第十九條　路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戶長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ

第二十條　道路河渠ニ死屍アルトキハ其摸樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受ケヘシ

第二十一條　獸畜ノ死斃アルトキハ速ニ戶長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ

第二十二條　鳥獸魚類其他飮食物ヲ販賣スル店ニ腐造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ檢查スヘシ

第二十三條　人家夜間戶締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラスヘシ

第二十四條　怪キ者ヲ見認ルトキハ取紛シテ樣子ニ依リ持區內出張所ニ連行或ハ警部ニ密報シ差圖ヲ受ケヘシ倉卒ノ取計アル可ラス

第二十五條　失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシ且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人已ニ集ルニ至レハ勉ヲ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條　同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戶長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章　巡查心得ノ事（同上第三章ヲ四章トス）

第一條　事ヲ行儀作法ヲ正シク威權ヲ聞敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受クサル樣可心掛事

第二條　法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ識スヘカラサル事

第三條　同勤中ハ一心全體ト心得常ニ諧和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル樣互ニ奬勵スヘキ事

第四條　節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條　職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ飜改スル儀無之樣可心掛事

第六條　巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成樣可心掛事

第七條　往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘサキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事（八年四月第四十七號追テ以テ（往來）ノ上（市中）ノ二字ヲ刪除ス）

第八條　取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ猥々々敷儀決テ有之間敷事

第九條　巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條　持區內ニテ金譚等賴入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

第十一條　出勤中酔態ヲ露ハシ又ハ婦女ヘ對シ戲ノ間敷儀等決シテ有之間敷事

第十二條　機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致間敷事

第十三條　公事出入等ニハ一切關係致間敷若シ強テ相賴候者アラハ警部ヘ具申スヘキ事

第十四條　官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條　得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥ニ人ヲ打擲致間敷候勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條　巡邏中傍人ノ喧嘩スルコトアリト雖モ必ス恥辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ爭鬪ク間敷儀致間敷事

第十七條　何樣ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ贈物トシテ金銀物品ヲ受ルコト有可ラサル事

第十八條　巡邏中ハ必ス役服ヲ著用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜談スヘカラサル事

第十九條　每朝衣服冠物其他器械ヲ檢查シ常ニ見苦シカラサ

ル様注意スヘキ事

第二十條　屯所ハ毎朝清潔ニ掃除スヘキ事

○巡査看守待遇（明治二十四年八月勅令第百七十號）

候巡査看守待遇ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

巡査看守ハ判任官ヲ以テ待遇ス

○警察官及消防官帶劍ノ制（明治二十二年十二月勅令第百二十二號）

候警察官及消防官帶劍ノ制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警察官及消防官帶劍ノ制左ノ通定ム

但明治二十四年一月迄ハ從來用フル所ノ刀劍ヲ佩用スルコトヲ得

（劍制圖例（略）之）

○變死ニ係ル屍ヲ警察官吏ニ於テ解剖檢查方（明治十年二月布告第二十二號）

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢查スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事（檢事派出ナキ地方ハ北地方官）ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢查セシムルコトヲ得

第二款　警察費

○警察費ノ內府縣下渡金交付方

警察費ノ內府縣下渡金ノ儀從來大藏省ヨリ直チニ交付シ來リ候處十七年度以降當省ヨリ交付候條此旨相達候事（明治十七年六月內務省達乙第二十八號）

但請求書ノ儀ハ警部給與備外國人給與ト各別ニ調製シ受取方申出候儀ト心得ヘシ

○警察費並警察廳舍建築修繕費屆出方（明治十八年十月內務省達甲第三十五號）

警察費並警察廳舍建築修繕費ニ於テ豫算外ノ費用支出ヲ要セシトキハ十五年當省乙第五十六號達但書ニ據リ屆出ノ儀國庫下渡金調理ノ都合有之自今該年度出納閉鎖ノ期三箇月以前可屆出此旨相達候事

○警官練習受業生ニ係ル費用支辨方（明治十八年九月內務省達甲第三十號）

警官練習所受業生ニ係ル費用ハ地方警察費ヨリ可致支辨此旨相達候事

但警部ニ係ル旅費並寄宿舍賄料ノ實費ハ警部給與ヨリ支辨スヘシ

○警察費ノ內地方稅連帶支辨金支出方及決算上殘金取扱ノ件（明治二十一年二月內務省訓令第四號）

警察費ノ內地方稅連帶支辨金支出方ノ儀ハ二十年度以降總テ精算拂トナシ爾後決算ノ上殘金ヲ生セシトキハ戻入ニ相立ヘシ

但會計整理期限後ニ於テハ精算拂ノ儘據置キ決算ノ上該殘金ハ直チニ現年度ノ第二部歲入トシテ國庫ヘ納付シ其旨當省ヘ報告スヘシ

○巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察署不用品賣却代金地方稅費ヘ仕拂方（明治十四年四月內務省達乙第十八號）

巡查並警察諸備等懲罰金巡查還納被服類及警察本分署不用品賣却代處分方之儀ニ付明治九年當省乙第二十一號同年乙第九十五號同十年乙第百八號本年乙第一號ヲ以テ相達候處右ハ相廢シ候條以來該金ハ地方稅一般ノ費途ヘ可仕拂此旨相達候事

但十三年當省乙第四十六號達中賣淫罰金ノ項ヲ除ク外ハ總テ廢止ト心得ヘシ

○警部長ニ屬スル俸給雜給支辨方（明治十四年十二月內務省乙第六十一號）

本年十一月第九十八號公達警部長ニ屬スル俸給及雜給ハ從前警部給與ノ內ヲ以テ支辨スル儀ト可心得此旨相達候事

○警察廳舍建築修繕費國庫金算出方（明治十五年一月內務省乙第八號）

本年第二號布告第三條第二項警察廳舍建築修繕費ハ警察費ヨリ分裂セシ科目ニ付客年第十六號布告ニ依リ國庫下渡金ヲ算出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事（十六年乙第四十四號者追（算出スル）ノ下十三字ヲ刪除ス）

○警察費國庫下渡金ノ殘餘翌年度ヘ差繼方（明治十五年四月內務省乙第二十三號）

明治十四年七月第六十三號公達中警察費國庫下渡金ノ殘餘ハ翌年度ノ下渡金ヘ差繼ノ可キ等ニ候條爲心得此旨相達候事

○警部給與ノ內俸給雜給ノ科目流用方（明治十五年六月內務省乙第三十七號）

警部給與ノ內俸給雜給ノ科目（神奈川長崎ニ縣ハ彼是流用セント欲外國人俸給雜給共）スルトキハ該金額前以當省ニ伺出候儀ト可心得此旨相達候事

○警察官吏並ニ之ニ準スル傭內外國人諸給與支辨方（明治十四年三月太政官達第十二號）

本年二月第十六號布告第三條警察官吏並之ニ準スヘキ傭內外國人ノ諸給與ハ從前之通國庫ヨリ支給ストアルハ是迄全ク國庫ノ支辨ニ係リシ費項ヲ指シタルモノニシテ地方稅ト連帶支辨ニ係ル費項ニ關係ナキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○囚人證人及無罪解放ノ者警察官吏ノ處分ニ依リ支給スヘキ旅費滯留日當仕拂方（明治九年十一月內務省達乙第百二十七號）

罪囚證人及無罪解放之者旅費支給方ニ付本年第六十三號及ヒ第百三十二號ヲ以公布之趣有之候處警察官吏ノ處分ニ依リ旅費滯留日當支給スヘキ分ハ渾テ警察費ヨリ可仕拂此旨相達候事

○銀行會社等ノ請願ニ依リ配置スル

巡査充用及費用徴収竝ニ支出方

明治二十三年十月内務省訓令第三十八號

明治十四年四月内務省乙第二十二號達銀行又ハ諸會社其他ヨリ請願ニ依リ配置スル巡査ハ地方税支辨ニ屬スル巡査ヲ以テ之ニ充テ其請願者ヨリ納ムヘキ費用ハ府縣會ノ決議ヲ經其額ヲ定メテ徴収シ地方税雜収入ニ編入警察費ニ支出スヘシ

第二章　新聞　出版　集會政社　保安條例　禁令

第一款　新聞　出版

○新聞紙條例

明治二十年十二月勅令第七十五號

廢新聞紙條例改正ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

新聞紙條例

第一條　新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳（東京府ハ警視廳）ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條　新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　題號
二　記載ノ種類
三　發行ノ時期
四　發行所及印刷所
五　發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ヲ以テ本條ノ限ニアラス

第三條　届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條　發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以内ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條　發行ノ届出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過ギテ發行セサルトキハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條　内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剥奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條　編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條　發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ納ムヘシ

一　東京ニ於テハ千圓
一　京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓
一　其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓
一　一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條　保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條　第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條　新聞紙ハ毎號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印制人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條　新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳（東京府ハ警視廳）及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辯駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

若シ正誤書辯駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辯駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條　官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辯駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條　新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害

シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其新聞紙ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條　陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍機軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出ツル事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條　裁判確定ノ日ヨリ一週日以內ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徵收處分ニ依ル

保證金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以內ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ完納スルニ至ル

マテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條　第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十二條ヲ犯シ又ハ保證金ヲ納メサル新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行シタルトキハ發行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ

第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保證金ヲ納メヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條　第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ

第三十一條　第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ヲ犯ス者ハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條　猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ

一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條　時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外當此條例ニ依ル

○公文ヲ新聞紙ニ揭載スルヲ禁ス

（明治八年九月太政官達第百五十八號）

自今各廳事務ニ係ル上申往復等ノ公文ヲ新聞紙ニ揭載候儀不相成候此旨相達候事

○新聞紙條例中傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論記載方

（明治十九年六月司法省丙第令十號）

新聞紙條例第三十三條ニ傍聽ヲ禁シタル訴訟ノ辯論ハ之ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ公判ノ半ヨリ傍聽ヲ禁シタル場合ト雖モ總テ其訴訟ノ當日ノ辯論ヲ記載スルコトヲ得サル儀ニシテ裁判官傍聽ヲ禁スルノ命令ヲ爲シタル時ヨリ以下ノ辯論ノミヲ指スモノニ非ス右ハ往々疑義ヲ生シ候向モ有之趣ニ付此旨心得ヘシ

○官吏タル者私ニ新聞紙等ニ政務ヲ叙述スルヲ禁ス

（明治八年七月太政官達第百十九號）

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除ノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ叙述スル事不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル叙述ハ此限ニアラス

○出版條例

（明治二十年二月勅令第七十六號）

改出版條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版條例

第一條　凡ソ機械倉密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條　新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此條例ニ依ルヘシ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ內務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條　文書圖畫ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ內務省ヘ屆出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ內務省ニ送付スヘシ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出スヘシ但非賣品ハ著作者ノミニテ屆出ルコトヲ得著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出スヘシ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫

ノ屆ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之ヲ差出スヘシ

第六條　文書圖畫ノ發行者ハ文書圖畫ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖畫ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載スヘシ

第八條　社則規則引札諸帳ノ番付普通ノ書式ア ル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ揭ルヲ要セス

第九條　文書圖畫ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度第三條ノ手續ヲ爲スヘシ但雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

第十條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖モ若シ改正增減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ルヘシ

第十一條　演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作者トス但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非レハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條　數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做スヘシ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用スヘシ

第十三條　翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ但翻譯ト ハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條　學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其出版屆ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做スヘシ

第十五條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押ユルコトヲ得

第十七條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條　軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖畫ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ付セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖畫ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條　印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル所ノ文書圖畫ニ記載セス若クハ記載スト雖トモ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖畫ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條　猥褻ノ文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　文書圖畫ヲ寫眞トナシ因テ第十八條第二十四條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條　本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ但其未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十八條　第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ト他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアルヘシ

第三十條　他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖畫ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受ケタル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十三條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條　文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

○版權條例　明治二十年十二月勅令第七十七號

廢版權條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

版權條例

第一條　凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條　出版條例ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條　版權ノ保護ヲ受ケント欲スル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ント欲スルトキハ其由ヲ內務省ニ通知スヘシ

第五條　版權登錄ノ文書圖畫ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條　內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル每ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

登錄ヲ經タル文書圖畫ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ揭示スヘシ

第七條　版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノノ版權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

第十一條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ各號每ニ其出版ノ月ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲナスヘシ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　版權ノ保護ハ其文書圖畫ヲ改正增減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカルヘシ

第十三條　特ニ世ニ有益ナル文書圖畫ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ

第十四條　文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙竝其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ六箇月內ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受ケテ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ永タ出版セサルモノハ亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條　新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ渉リ記載シタル論說記事又ハ小說ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年內ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スルコトヲ得ス

其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タルモノハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條　版權所有ノ文書圖畫ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者亦同シ

第十七條　僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ムルコトヲ得但審理ノ末僞版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第十八條　僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條　版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯シ增減シ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者亦前項ニ同シ

第二十條　翻譯書ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ則ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條　世人ヲ欺瞞スル爲メ故ラニ版權所有ノ文書圖畫ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ添合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條　著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖畫ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖畫ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス

第二十三條　文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條　內國ニテ版權所有ノ文書圖畫ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條　僞版ノ訴アリテ其僞版ヲルヤ否ヲ決シ難キトキ

ハ其訴ヲ受クタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定者ヲ選ヒ之ヲ鑑定セシムルコトアルヘシ

第二十六條　僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條　僞版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ルヲ問ハス之ヲ沒收シ其既ニ販賣シタルモノハ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條　版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖トモ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレンタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條　現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

○脚本樂譜條例

明治二十年十二月勅令第七十八號

脚本樂譜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

脚本樂譜條例

第一條　演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ據リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條　演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權（即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權）ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記載スヘシ

第三條　演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第四條　演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條　興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ其興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

○寫眞版權條例

明治二十年十二月勅令第七十九號

除寫眞版權條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

寫眞版權條例

第一條　凡ソ光線ト藥品トノ作用ニヨリ人物器物景色其他物象ノ眞形ヲ寫シタルモノヲ寫眞ト云ヒ寫眞ヲ發行シテ其利

益ヲ專有スルノ權ヲ寫眞版權ト云フ

第二條　寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノハ寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

囑托ニ係ル寫眞ノ種板ニシテ現存スルモノハ版權所有者ニ於テ之ヲ寫眞師ヨリ受取ルコトヲ得ルモノトス

第三條　寫眞版權ノ保護ヲ受ント欲スル者ハ發行前寫眞一版ニ付見本二葉及六葉ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出ヘシ但人物ノ寫眞ハ登錄ヲ待タスシテ其保護ヲ受クルモノトス

第四條　版權登錄ノ寫眞ニハ其保護年限間ハ版權所有者ノ氏名住所版權登錄ノ年月ヲ記載スヘシ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第五條　內務省ニ於テハ寫眞版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アリタルトキハ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付スヘシ

寫眞版權登錄證書ノ取扱ハ總テ文書圖畫ノ版權登錄證書ニ準スルモノトス

第六條　寫眞版權保護ノ年限ハ登錄ノ月ヨリ十年トス

第七條　寫眞版權ハ制限ヲ付シ若クハ付セスシテ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第八條　版權ノ保護ヲ受ル寫眞ハ之ヲ覆寫シ若クハ機械又ハ舍密ノ作用ニヨリ多數ヲ增製シ得ヘキ方法ヲ以テ寫眞術ト類似ノ模寫ヲ爲シ及寫眞師ニ於テ本人又ハ其相續者ノ承諾ヲ受スシテ囑託ニ係ル寫眞ヲ增製スルコトヲ得ス

第九條　第三條ノ手續ヲナサスシテ版權登錄ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　寫眞版權ハ寫眞師ニ屬シ寫眞師死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但他人ノ囑托ニ係ルモノハ、寫眞版權ハ囑托者ニ屬シ囑托者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

損害賠償ノ責ハ其原寫眞ノ版權年限終ルノ後一年ヲ以テ期滿得免ノ期トス

第十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期限ハ一年トシ其犯罪ト認メラレンタル寫眞又ハ模寫物作爲ノ時ヨリ起算シ其發賣セルモノハ最後ニ發賣シタル時ヨリ起算ス

第十二條　條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

○式ニ依リ宣布セサル公文等ヲ記セル圖書ヲ出版スル者處分方

明治十七年十月太政官布達第二十六號

式ニ依リ宣布セサル公文及上書建白請願書ヲ記載セル圖書ハ明治十六年六月第二十一號布告以前ノ出版ニ係ルモノト雖モ再版反刻若クハ之ヲ抄出シテ出版スルモノハ新聞紙條例第三十一條ニ依ルヘシ

○官廳出版物ニ關スル注意

明治二十五年三月內務省訓令第六號

官廳出版物ノ中令達告示ヲ爲スモノヲ除クノ外自今總テ出版條例第四條ニ據ルヘシ

但其製本中ニ印刷出版ノ年月日ヲ記載シ仍ホ書肆ニ付シテ發行セ

官廳名印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ仍ホ書肆ニ付シテ發行セ

シムルトキハ該書肆ヲ發行者トシテ其氏名住所ヲモ記載スヘシ

○版權登錄料版權免許料竝登錄證再度下付手數料版權免許證明下付手數料納付現金持參時間

明治二十三年三月內務省告示第十一號

版權登錄料版權免許料竝登錄證再度下付手數料版權免許證明書下付手數料納付ノ爲メ現金持參スルモノハ左ノ時間タルヘシ

四月二十日ヨリ七月十日迄　午前八時ヨリ午後一時ニ至ル
七月十一日ヨリ九月十日迄　午前八時ヨリ同十一時ニ至ル
九月十一日ヨリ四月十九日迄　午前九時ヨリ午後三時ニ至ル

○出版條例施行以前屆出ヲナシ爾後出版スルモノ屆出方

明治二十一年三月內務省告示第二號

明治二十年勅令第七十六號出版條例施行以前出版屆出ヲナシ爾後出版スルモノハ更ニ同條例第三條ノ屆出ヲナス可キ筈ニ付右屆出ハ本年內務省令第一號第三條ノ書式ニ依ル可シ

○我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ル者ハ販賣ヲ禁ス

明治十一年十二月內務省達乙第九十號

我カ有版權ノ圖書ニシテ外國人ノ翻刻ニ係ルモノハ內國人民ニ於テ版賣不相成ハ勿論ノ事ニ候得共苟心得違ノ者無之樣兼テ其旨相諭置可申此旨相達候事

○文部省出版ノ圖書ヘ註解圖畫傍訓等ヲ加ヘ又ハ增減シテ出版スルヲ禁ス

明治十二年二月文部省布達第二號

文部省出版ノ圖書ヘ註解圖畫傍訓等ヲ加ヘ又ハ本文ヲ增減シテ出版致シ候儀自今不相成候尤原本ノ儘翻刻致シ候儀ハ可爲從前之通候條此旨布達候事

○文部省出版圖書翻刻ノモノハ檢查ヲ遂ケ誤刻ノモノ發賣差止方等

明治十四年三月文部省布達第一號

文部省出版圖書中世上ニ於テ翻刻スル圖書ノ內誤刻有之モノ相見エ敎育上ノ弊害ヲ生スル不勘儀ニ付自今翻刻ノ圖書ハ當省ニ於テ檢查ヲ遂ケ誤刻有之モノハ時宜ニヨリ其發賣ヲ可差止候條此旨豫メ布達候事

但本文翻刻圖書ハ檢查ノ爲メ入用ニ付翻刻出來次第翻刻人ヨリ當省ヘ一部納本可致候事

○神社寺院ノ守札及神佛號ヲ記セル畫像等ハ其神社寺院ノ外出販ヲ禁ス

明治十五年十月內務省達乙第五十五號

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事

但從前屆濟ノ分ト雖トモ本文ニ牴觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

第二款　集會政社　保安條例

○集會及政社法

明治二十三年七月法律第九十三號

朕集會及政社法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

集會及政社法

第一條　此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條　政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會四十八時以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ屆出ヘシ

前項ノ屆出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

屆書ニハ集會ノ場所年月日時迺ニ發起人及講談論辯者ノ氏名住所年齡ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

屆書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セサルトキハ屆出ノ効ヲ失フモノトス

第三條　日本臣民ニシテ公權ヲ有スル成年ノ男子ニアラサレハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第四條　現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官吏立公立私立學校ノ敎員學生生徒未成年者及女子ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得ス

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前三十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第五條　政談集會ニ於テハ外國人ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第六條　政談集會ハ屋外ニ於テ開クコトヲ得ス

第七條　凡ソ屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セントスルトキハ發起人ヨリ四十八時以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ屆出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬講社學生生徒ノ體育運動及其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニアラス

警察官署ハ前項ノ屆出ニ於テ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ得

警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第八條　帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以內ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲナスコトヲ得ス但シ第七條第一項但書ノ場合ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第九條　警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供スヘク集會ニ關スル事項ニ付尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

政談集會ニアラサルモ安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第十條　凡ソ集會ニハ戎器又ハ兇器ヲ攜帶シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ攜帶スル者ハ此ノ限ニアラス

第十一條　凡ソ集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若クハ刑事裁判中ノ者ヲ敎誘シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ敎唆スルノ談論ヲナスコトヲ得ス

第十二條　會場ニ於テ敎ヲニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十三條　警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一　集會ノ成立此ノ條例ニ背キタルトキ

二　第十一條ヲ犯シタルトキ又ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

此ノ場合ニ於テハ全會ヲ解散セシテ單ニ其ノ一人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

三　警察官ノ臨監ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

四　會衆騷擾ニ渉リ警察官之ヲ制止スルモ鎭靜セサルトキ

五　第四條第十條ノ逃犯者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

第十四條　第二條ノ屆出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ會場ヲ貸與シタル者亦同シ

第十五條　第二條ノ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前條ニ同シ

第十六條　第三條ヲ犯シタル者及第四條ニ背キ會同シタル者及其ノ之ヲ制止セサル發起人ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ヲ犯シタル發起人ハ罰前項ニ同シ

政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ本條第一項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第十七條　第六條ヲ犯シタル發起人及講談論議者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　第七條ニ背キタルトキハ發起人及敎唆人ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第八條ニ背タタルトキハ發起人及敎唆人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ之ヲ制止セサル發起人亦同シ

第二十一條　第十一條ヲ犯シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　政社ハ組成後三日以內ニ其ノ役員ヨリ社名社則事務所役員及社員名簿ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ屆出ヘシ其ノ屆出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ屆出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收證ヲ交付スヘシ

役員ハ其ノ政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキ何事タリトモ之ニ開答スヘシ

第二十四條　政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ講談論議者及會場ヲ豫定シテ定期ニ集會ス

ルモノハ之ヲ初會ノ開會四十八時以前ニ屆出ルトキハ前後ノ例會ハ屆出ヲ要セス其ノ屆出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十五條　現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍軍人警察官官立公立私立學校ノ敎員學生生徒未成年者女子及公權ヲ有セサル男子ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

第二十六條　政社ニ於テハ外國人ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十七條　政社ハ標章及旗幟ヲ用ヰルコトヲ得ス

第二十八條　政社ハ委員若ハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若ハ他ノ政社ト連結通信スルコトヲ得ス

第二十九條　政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言及表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ制規ヲ設クルコトヲ得ス

第三十條　凡ソ結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ內務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社スルノ實アル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第二十三條ニ背キ政社ノ屆出ヲ爲サヽルトキ又ハ警察官ノ尋問ニ答ヘサルトキハ其役員ヲ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキ又ハ尋問ヲ受ケテ詐僞ノ答ヲ爲ストキハ前項ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第三十二條　第二十五條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十三條　第二十七條ニ背キ標章旗幟ヲ用ヰタル者及其ノ政社ノ役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十八條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員及委員ヲ一月以上一年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　集會ノ發起人又ハ結社ノ役員タルノ實アル者ハ一人又ハ數人又ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス總テ發起人又ハ役員ノ責ニ任ス

第三十六條　此ノ法律ヲ犯シタル者ハ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十七條　此ノ法律ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六月トス

第三十八條　法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニアラス

○官吏公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得

明治二十二年一月內閣訓令

凡官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之ヲ叙述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

第三款　禁令

○帶刀禁止及違犯者處分方

明治九年三月布告第三十八號

自今大禮服着用並ニ軍人及ヒ警察官吏等制規アル服着用ノ節ヲ除クノ外帶刀被禁候條此旨布告候事

但違犯ノ者ハ其刀可取上事

○官國幣ノ諸神社神輿渡御ノ節供奉ノ者帶刀差許方　明治九年七月教部省達甲第五號

諸神社神輿渡御ノ節供奉之者非從前甲冑又ハ大紋素袍等着用ニテ帶刀致シ來候向ハ供奉中ニ限リ一社ノ古例ニ任セ帶刀不苦候尤モ其都度其筋ヘ届出候儀ト可心得此旨相達候事

○府縣社以下古代ノ裝飾ニ摸倣シ神輿供奉ノ舊例アル向供奉中帶刀差許方　明治十一年三月内務省達乙第二十一號

諸神社神輿渡御之節供奉之者帶刀之儀ニ付明治九年七月舊教部省甲第五號ヲ以神宮並官國幣社ヘ相達置候趣候處右ハ府縣社以下モ同樣事ニ古代之裝飾ニ摸倣シ神輿ニ供奉致來候舊例有之向ハ其人員ノミ供奉中ニ限リ帶刀不苦尤其都度其筋ヘ可爲届出儀ト可心得此旨相達候事

但普通祭服着用之者帶刀不相成儀ハ勿論ニシ

○富興行ヲ禁ス　明治元年十二月布告

富興行ノ儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來淺季之弊風僥倖之利ヲ以民心ヲ勝惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之ヲ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右樣之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事（刑法二百六十二條參看）

○富興行ヲ禁ス　明治元年十二月布告

富興行ノ儀ハ兼而御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來淺季之弊風僥倖之利ヲ以民心ヲ勝惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之ヲ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右樣之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事（刑法二百六十二條參看）

○年期奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同樣ノ所業ヲ禁ス　明治五年十月布告第二百九十五號

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幇助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス（刑法第二百六十二條參看）

第一條　凡富籤賣買ノ牙保若シハ幇助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條　第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條　富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條　富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條　富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍前項ニ依ル

一人身ヲ賣買スルハ古來ノ制禁ノ處年季奉公等種々ノ名目ヲ以テ其實賣買同樣ノ所業ニ至ルニ付娼妓藝妓等座入ノ資本金ハ賦金ト看做ス故ニ右ヨリ苦情ヲ唱フル者ハ取糺ノ上其金ノ全額ヲ可取揚事

一同上ノ娼妓藝妓ハ人身ノ權利ヲ失フ者ニテ牛馬ニ異ナラス人ヨリ牛馬ニ物ノ返辨ヲ求ムルノ理ナシ故ニ從來同上ノ娼妓藝妓ヘ借ス所ノ金銀並ニ賣掛滯金等ハ一切償ルヘカラサル事

但本月二日以來ノ分ハ此限ニアラス

一人ノ子女ヲ金談上ヨリ養女ノ名目ニ爲シ娼妓藝妓ノ所業ヲナサシムルモノハ其實際上則人身賣買ニ付從前今後可及嚴重ノ處置事

○幼兒ヲ外國人ニ賣渡ヲ禁ス　明治五年二月布告第五十五號

各港在留ノ支那人其我窮民ノ幼兒ヲ買取候儀ニ付テハ去ル庚午八月中相達候得共未タ右樣ノ所業致候者モ有之哉ノ趣キ畢竟內國人ヨリ賣渡シ候故支那人ニ於テモ買取本國ヘ運行販賣スルニ至候次第ニテ御國禁ヲ犯シ不容易儀ニ付向後右等不心得ノ者於有之ハ嚴重處置ニ可及候間地方官ニ於テ管內取締厚ク可加敎有候事

○禁裡御用等ノ會符標札及菊御紋ヲ畫キタル提灯器物等ヲ禁ス　明治元年三月布告

本月二日太政官第二百九十五號ニ而被仰出候次第ニ付左ノ件々可心得事

一禁裡御用或ハ禁裡御料又ハ禁裡御内坏ト會符榜示杭標札等ニ書記シ候儀ハ有之間敷事ニ候處往々見受候ニ付以來屹度相改御用御料ト而已書記致シ候樣被仰出候事

但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事

一提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何之儀ニ候以來右ノ類御紋ヲ私ニ附候事急度可禁止旨被仰出候事

但御用ニ付是迄被免之分モ一應伺出可申事

右之通被仰出候條末々迄不洩樣可申達事

○由緒有之社寺之外菊御紋ヲ用ユルヲ禁ス　明治二年八月布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社者伊勢八幡上下加茂等寺ハ泉涌寺般舟院等之外ハ一切被差止候旨被仰出候事

但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可願出候事

○由緒ノ有無ニ拘ハラス菊御紋ヲ禁ス　明治四年六月布告

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤モ御紋ニ紛敷品相用候儀モ同樣不相成候條相改可申事

但從來諸社ノ社頭ニ於テ持來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

○官幣社々殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用フルコトヲ許ス　明治七年四月太政官達

社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年已巳八月布告候處自今官幣社社殿ノ裝飾及社頭之幕提灯ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内官幣社ヘ可相達事

○國幣社々殿ノ裝飾幕提燈ニ限リ菊御紋ヲ用フルコトヲ許ス　明治十二年四月太政官達第二十號

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治二年八月布告ノ趣モ有之候處自今國幣社社殿ノ裝飾及社頭ノ幕提燈ニ限リ菊御紋相用不苦候條此旨管内國幣社ヘ可相達事

○一般社寺ノ神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ菊御紋存置ヲ許ス　明治十二年五月太政官達第二十三號

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ其儘存シ慥苦シカラス候此旨相達候事

○菊御紋章ヲ畫キタル賣品取締方　明治十三年四月宮内省達乙第二號

菊御紋章ヲ賣物等ニ畫キ候儀竝紛敷品相用候儀モ不相成旨明治元年三月二十八日明治四年六月十七日太政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付取締方一層注意可致候此段相達候事

第三章　銃砲　火薬　爆發物　古物　質屋等取締

○銃砲取締規則　明治五年正月布告第二十八號

銃砲取締規則別紙之通被定候條來ル四月ヨリ規則之通可相守事

銃砲取締規則（別紙）

第一則

一大小銃並彈藥類商賣ノ儀ハ府縣其定員商賈ノ外取扱致間敷右定員ノ商賈ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事（八年六月第百十一號達ヲ以テ内務省管理ニ屬スルヲ以テ右帳簡ノ廉ニ付但書ヲ除ク）

免許商賈ノ定員

一府下　各五員
一縣下　各三員
一鎭臺本分營下　各一員
但府縣廳下開港場等ニアルハ別ニ設ケス
一開港場　各五員

右免許差遣候商賈ノ姓名住所等内務省ヘ届クヘキ事（同上ニ付東京武庫司ヲ内務省ト改ム）

第二則

一免許商人タリトモ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照シ賣渡可申又買入ノ節ハ其管廳ヘ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可申事（同上但書ヲ除ク）

一免許商人ハ陸海軍准士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入ンソトスルトキハ買人願書ニ其賣主ノ連署ヲ爲サシムヘキ事（十三年三月第八號布告ヲ以テ末項ヲ增加ス）

第三則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥類ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ物ハ免手形相添毎月其管廳ヘ可差出其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ内務省ヘ差送可申事（八年六月第百十一號達ヲ以テ内務省管理ニ付管轄鎭臺ヲ内務省ト改メ但書ヲ除ク）

第四則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所ヘ差置間敷兼テ其地方管廳ヘ願出差圖ヲ受相圖可申事（同上但書ヲ除ク）

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲並彈藥類ピストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用銃砲ハ一々其管廳ニ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番號官印ヲ受可申他人ヘ讓リ與ヘ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ（同上（持出）ノ下割註ヲ除ク）

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通リタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

干支何番　何府縣（同上ニ付府縣ノ上（武庫司或ハ）ヲ刪ル）

右所持ノ人名番號等逐一書記シ證届出可申事（同上ニ付（證）ノ下十二字ヲ刪ル）（同上ニ付（届出）ノ下四字ヲ刪ル）

免許ノ銃類

一和銃四文目八分玉以下
一各國諸猟銃

但西洋猟銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレトモ發彈ヲ用ユルモノ

ハ之ヲ許ス

右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳ヘ屆出其廳ヨリ內務省ヘ差出可申萬一軍用獵用銃ノ差別難相辨者官ヘ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ證印ヲ据ヘ可相渡事（同上（其廳ヨリ）ノ下（東京武庫司）ヲ（內務省）トシ（可申）ノ下割書ヲ刪ル）

第六則（六年一月第二十五號布告銃獵規則ニ依リ廢ス但該規則ハ十年一月第十一號布告ヲ以テ改正ニ付揭ケス）

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明シ爲試製作致度者ハ其管廳ヘ相願管轄鎭臺ヘ屆出免許ヲ可受事

但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎭臺ヨリ武庫司ヘ差送リ檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可有之事

是迄銃砲並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記シ管轄廳ヘ爲指出其廳ヨリ內務省ヘ可差出事（八年六月第百十一號公達ニ依リ（其廳ヨリ）ノ下（東京武庫司）ヲ（內務省）トシ但書ヲ除ク）

○銃砲取締規則違背ノ者處分方

明治五年九月布告第二百八十二號

銃砲取締ノ儀ニ付別紙ノ通被相定候條此旨相達候事

別紙

銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且取扱候者有之節ハ各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五拾錢ノ過料可申付候事

但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可被下候事

免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以內ノ過料可申付事（七年十二月第百三十二號布告ヲ以テ但書共追加）

但書同前

右取上候品〔東京大坂ハ武庫司其他ハ所管ノ鎭臺ヘ〕可差出事

○銃砲彈藥類取締管理

明治八年六月太政官達第百十一號

今般銃砲彈藥取締ノ儀內務省ヘ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通相心得取締可致尤右規則中是迄陸軍省及各鎭臺等ヘ申出候分ハ總テ內務省ヘ可申出其他管理替ニ付牴觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事

○免許商人外國人ト銃砲彈藥賣買出願取扱方

明治十一年五月太政官達第十七號

銃砲彈藥賣買免許商人外國人ト銃砲〔彈藥〕類賣買願出候節取扱方ノ儀ハ明治七年七月第九十九號八年六月第百十一號達ノ趣有之候處今般第十一號布告ノ趣モ有之ニ付自今銃獵免狀付與有之外國人ヘ獵用ノ銃器彈藥類賣渡候儀ハ其廳限リ聞屆候儀ト可心得此旨相達候事

但免許商人ヨリハ其姓名數量等ヲ記載シ其時々爲屆出候樣可取計事

○海軍准士官以上銃器彈藥買收順序ヲ免許商人ヘ達

明治十三年四月海軍省乙第六號

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則本年第二十二號ヲ以テ公達相成候ニ付海軍准士官以上右買收順序別紙ノ通相定海軍一般ヘ相達候條各管下銃砲彈藥賣買免許人共ヘ無遺漏相達置可申此段相達候事

銃砲彈藥買收順序（別紙）

一海軍准士官以上軍用銃器及彈藥ヲ買收セントスル時ハ左ノ順序ヲ履行スヘシ

一軍用銃器及彈藥ヲ免許商人ヨリ買收セントスル者ハ左ニ揭ル雛形ノ證票ヲ受領スヘシ

一此證票ハ艦政局ニ於テ之ヲ授與スヘシ（二十年海軍省訓令第百一號ヲ以テ改ム）

一其銃器彈藥ヲ買收セントスル者ハ左ニ揭ル雛形ノ名刺ヲ海軍省第二局ヘ出シ證票ヲ請取自己姓名下ヘ捺印シテ之ヲ買收スヘキ免許商人ニ付シ現品ト交換スヘシ（二十二年海軍省訓令第十號ヲ以テ改ム）

一官ノ不用ニ屬スル兵器彈藥ノ拂下ヲ願フ者ハ成規ノ如ク願書ヲ海軍卿ヘ進呈シ卿ノ許可ヲ得ルトキハ其指令書ヲ以テ海軍省第二局ヨリ證票ヲ受領スヘシ（同上）

證票雛形（△印ハ朱書）

第△何號

買收人

△官姓名印

△軍器印

一△銃（彈藥）名挺（箇量）數

右買收允許候事

海軍省

銃器買收允許證

明治　年　月　日

此證票ハ一枚一品ニ限ル

名刺雛形

一銃（彈藥）名挺（箇量）數

官姓名

明治　年　月　日

用紙半紙竪六ツ切

○武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

明治十三年三月太政官達第二十二號

陸海軍武官所有ノ軍用銃ハ明治五年正月第二十八號布告ニ依リ管轄廳ノ檢査番號ヲ受來候處自今准士官以上ノ武官ハ左ノ規則ニ據ルヘシ此旨相達候事

武官所有ノ軍用銃賣買取扱規則

第一條　陸海軍省ニ於テハ武官所有ノ軍用銃買入ノ節交付スヘキ買入免狀ヲ定メ置キ豫メ其印影等照會ノタメ使府縣廳（東京ハ警視本署）ヘ通知スヘシ

第二條　武官軍用銃類ヲ買入ルヽ時ハ前款ノ免狀ヲ受取之ヲ該地ノ免許商人ニ交付シテ其買入ヲ爲スヘシ

第三條　武官轉任又ハ免官スル時ハ其奉職中所有セシ銃器ハ其銃名（檢印アラハ其番號）ヲ記載シ使府縣廳（東京ハ警視本署）ヘ屆出常則ニ從ヒ其取締ヲ受クヘシ

第四條　武官奉職中所有ノ軍用銃ヲ人民ヘ賣渡サントスル時ハ買受人ヨリ其使府縣廳（東京ハ警視本署）ヘ差出スヘキ願書ヘ連署スヘシ

○銃砲類外國人ト賣買出願方

明治二十年四月
内務省訓令第二十六號

銃砲類外國人ト賣買ノ儀兌許商人ヨリ願出ノ節ハ其廳ニ於テ許可シ賣買員數種目及ヒ雙方國名人名共一周年間統計シ翌年一月三十一日限リ當省ヘ報告スヘシ

○火藥取締規則

明治十七年十二月
布告第三十一號

火藥取締規則別冊ノ通制定ス

但從前ノ成規中此規則ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ス

火藥取締規則（別冊）

第一章　總則

第一條　凡火藥劇發火藥（棉火藥ナイトログリセリンダイナマイト雷汞其他劇發ノ物品ハ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス但烟火マッチノ類ハ此限ニ在ラス

第二條　火藥類（火藥劇發火藥ノ賣買營業ヲ爲サントスル者ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出兌許鑑札ヲ受ク可シ但營業者ハ一管内ニ十五人以内トス

第三條　火藥類ハ營業者ニ限リ陸軍海軍兩省ヨリ其貯藏品ヲ拂下ク可キモノトス

第四條　管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ於テ火藥類ノ檢査ヲ必要ト認ムル時ハ營業者タルト否トヲ問ハス警察官ヲシテ之ヲ檢査セシムルコトアル可シ

第五條　戰時若クハ事變ニ際シテハ陸軍卿海軍卿ハ火藥類ノ拂下タヲ停止シ内務卿ハ其賣買運搬ヲ停止スルコトアル可シ

第六條　火藥類ハ官許ヲ得ルニ非サレハ日出前日沒後ニ於テ賣買運搬其他荷造等ヲ爲ス可カラス

第二章　賣買

第七條　營業者ハ毎月買受ケタル火藥類ノ種類數量ヲ記シ（證書アレハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第八條　營業者ニ非スシテ所有ノ火藥類ヲ賣ラントスル者ハ營業者ニ之ヲ賣渡ス可シ營業者ハ其賣渡證書ヲ取リ置ク可シ

第九條　營業者ハ銃砲用又ハ坑業土工烟火其他職業用ニ限リ火藥類ヲ賣渡ス可キモノトス但十六歳未滿若クハ白痴風癲ノ者ニハ之ヲ賣渡スコトヲ許サス

第十條　火藥類ヲ買受ントスル時銃獵若クハ烟火製造ノ兌許ヲ得タル者ハ其免狀ヲ營業者ニ示シ銃砲用ノ爲メニスル者ハ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡シ陸海軍軍人ノ射的用ニ供スル者ハ其省ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ但一回ニ左ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

小銃用	火藥	三百目	雷管 五百個
艦船設備銃砲用	大砲一門ニ付火藥五十發分 導火管類七十個 小銃一挺ニ付火藥百發分 雷管百五十個		
烟火製造用	火藥	五貫目	

坑業土工其他職業用ニ供スル火藥類ヲ買受ケントスル者ハ其旨趣及種類數量並ニ使用ノ場所ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ營業者ニ渡ス可シ

第十一條　營業者ハ買受人ノ兌狀ヲ檢シ若クハ許可證ヲ受取リ火藥類ヲ賣渡ス可シ但第十條ノ數量ヲ超ルコトヲ許サス

第十二條　營業者ハ毎月火藥類買受人ノ住所氏名及其賣渡シタル種類數量年月日ヲ記シ之ヲ（證書アレハ之ヲ添ヘ）翌月十日迄ニ所轄警察署ニ届出可シ

第三章　貯藏

第十三條　火藥類ハ火藥三百目雷管導火管類五百個迄ハ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得

營業者ハ前項制限ノ外火藥拾貫目劇發火藥壹貫目雷管導火管類壹萬個迄烟火製造人ハ火藥五貫目劇發火藥五百目迄ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ許可ヲ受ケ倉庫ニ之ヲ貯藏スルコトヲ得其數量ヲ超ル時ハ火藥庫ノ外之ヲ貯藏スルコトヲ許サス火藥五百貫目以上劇發火藥五十貫目以上ハ火藥庫ト雖モ之ヲ貯藏スルコトヲ許サス

第十四條　火藥類ヲ一庫内ニ貯藏スル時ハ其種類毎ニ不燃質物ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十五條　火藥庫ヲ建設セントスル者ハ其位置幷ニ建設ノ方法書及近傍ノ地圖ヲ添ヘ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出許可ヲ受ク可シ

第十六條　火藥庫ハ皇居離宮ノ區域ヲ距ル十町以内ノ地ニ建設スルコトヲ許サス

第十七條　火藥庫ハ皇陵社寺公園家屋火ヲ取扱フ場所宅地國道縣道鐵道電信柱瀑船ノ通スヘキ河湖及他ノ火藥庫境界トノ中間ニ五十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ

第十八條　火藥庫ハ土藏又ハ煉瓦造ニシテ家根ハ輕量ノ不燃質物ヲ用ヒ内部ニハ鐵釘石瓦ヲ露ハサス窓ニハ透明ノ硝子ヲ用フ可カラス又避雷針ヲ設ケ庫外ノ周圍ニ二間以上ヲ隔テ、高サ六尺以上ノ土堤ヲ築キ其入口ニ火藥庫ト書シタル標木（曲尺六尺以上ニシテ五寸角以上ノモノ）ヲ建ツ可シ

第十九條　火藥庫ヨリ十四間以内ノ地ニ材木草秣其他燃質物ヲ蓄積ス可カラス又五十間以内ニ於テ火ヲ取扱フ建造物ヲ設ケ若クハ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ若クハ發火質ノ物品ヲ蓄積ス可カラス

第二十條　坑業土工其他多量ノ火藥類ヲ要スル爲メ其事業中假貯藏所ヲ設ケントスル者ハ第十七條ニ掲ケタル距離ヲ二倍シ第十五條ニ據リ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出許可ヲ受ク可シ但貯藏ノ數量ハ火藥武百貫目劇發火藥三拾貫目ヲ超ルコトヲ許サス

第二十一條　烟火製造所ハ家屋若クハ火ヲ取扱フ場所ヨリ十間以上ノ距離ヲ有ツ可シ又五貫目以上ノ火藥類ヲ置ク可カラス

第四章　運搬

第二十二條　五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬セントスル時ハ其種類數量運搬ノ日時場所及水陸通路ノ名稱ヲ記シ所轄警察署ノ許可證ヲ受ケ之ヲ携帶シ運搬畢ハ直ニ之ヲ返納ス可シ若シ其警察署管轄外ノ地ニ運搬スル時ハ其地ノ警察署ニ之ヲ納ム可シ

第二十三條　五貫目以上ノ火藥類ヲ運搬スル時ハ鐵釘鐵輪ヲ用ヒサル木製銅製若クハ亞鉛製ノ器ニ入レ其外部ハ褥包若クハ細卷ト爲シ毛布類ヲ以テ之ヲ覆ヒ赤地ニ火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗（陸路ニハ曲尺縦二尺横二尺五寸水路ノ小船ニハ曲尺縦三尺五寸横五尺）ヲ建テ護送人ヲ附ス可シ但船積スル時ハ明治六年八月第二百九十二號布告危害品船積法ニ從フ可シ

第二十四條　火藥類ヲ運搬スルニハ火氣ニ注意シ休泊ノ時ハ安全ナル場所ヲ撰ヒ看守人ヲ附ス可シ

第五章　罰則

第二十五條　私ニ火藥類ヲ製造シ若クハ販賣シタル者ハ軍用

品ニアラスト雖モ刑法第百五十七條ヲ適用シ私ニ之ヲ所有シタル者ハ刑法第百六十條ヲ適用ス

第二十六條　刑法第百五十八條第百五十九條第百六十一條ハ前條ノ犯罪ニ關シタル者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十七條　私ニ火藥庫又ハ假貯藏所ヲ建設シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第四條ノ檢查ヲ拒ミ又ハ第五條ノ停止ヲ犯シテ賣買運搬シ第九條第十條第十一條第十三條第十九條ニ違犯シ又ハ第二十條ノ制限ヲ超テ貯藏シ又ハ第二十一條ニ違犯シタル者又ハ營業者賣買ヲ除クノ外火藥類ヲ讓受若クハ讓渡シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第六條第七條第八條第十二條第十四條第十八條第二十二條第二十三條第二十四條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　營業者此規則ニ違犯シタル時ハ其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

附則

一從前免許ヲ得タル火藥製造人ハ來ル明治十八年二月廿八日迄ニ其營業ヲ差許シ又同日迄ニ火藥製造諸器械及火藥類ノ現貯藏數量ヲ記シ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ願出ルニ於テハ相當ノ代價ヲ以テ之ヲ買上ク可シ

一從前免許ヲ得タル彈藥免許商人ハ來ル明治十八年二月二十八日迄火藥賣買營業ヲ差許シ從前免許ヲ得タル烟火製造所ハ右同日迄其製造ヲ差許ス又從前火藥類ヲ貯藏シタル者ハ來ル明治十八年一月三十一日迄其貯藏ヲ差許ス其日限ヲ過クルトキハ總テ此規則ニ從フヘシ

○火藥類賣買ヲ免許シ火藥庫設置ヲ許可セシトキ届出方

明治十八年一月太政官達第一號

明治十七年十二月第三十一號布告ヲ以テ火藥取締規則被定候ニ付テハ管轄廳ニ於テ届出方左ノ通可相心得此旨相達候事

一火藥類ノ賣買營業ヲ免許シ又ハ火藥庫設置ヲ許可シタル時ハ營業者ノ住所族籍氏名火藥庫設置ノ地名番號ヲ記シ內務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

一營業者ノ賣買シタル火藥類ノ種類數量ヲ統計シ每年一月內務陸軍海軍ノ三省ヘ届出ヘシ

○火藥類賣買營業許可及其他ノ届方

明治二十二年五月海軍省令第五號

明治十八年一月第一號太政官達ニ依リ差出ス火藥類賣買營業許可及其他ノ届ハ自今海軍火藥工廠ニ送付スヘシ

○陸軍省ニ於テ火藥拂下ノ場所

明治十八年二月陸軍省達甲第十號

昨年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ於當省ハ砲兵第一方面及同第二方面ニ於テ火藥類拂下候條拂下希望之者ハ同方面ヘ願出候樣營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業人住所姓名竝營業免許證見本豫メ其廳ヨリ本文兩方面ヘ通知シ置キ營業人火藥類拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證ヲ携帶セシムヘシ

○海軍省ニ於テ火藥拂下場所

明治十八年三月陸軍省達乙第四號

昨年十二月第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ當省ニ於テハ東京赤羽兵器局ニ於テ火藥類拂下候條望ノ者ハ同局ヘ出願候樣營業人ヘ達方可取計此旨相達候事

但營業免許證見本豫テ其廳ヨリ同局ヘ通知シ置キ營業人ヨリ拂下出願ノ節ハ必ス營業免許證拂帶セシムヘシ

○火藥庫圍線規則

明治九年九月布告第百二十號

火藥庫圍線規則別紙之通相定候條此旨布告候事

火藥庫圍線規則（別紙）

第一條　火藥庫周圍近接ノ地ヲ分テ二圍トシ火害ヲ豫防スルコト左ノ如シ

第一圍　火藥庫墻壁外十四間以內ノ地ニ於テ諸種ノ建物ヲ設ケ材木草秣其他總テ燃質物ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第二圍　火藥庫墻壁外二十八間以內ノ地ニ於テ火ヲ取扱フ建物ヲ設ケ瓦斯ノ傳送管ヲ施シ及ヒ發火質ノ物品ヲ蓄積スルコトヲ禁ス

第二條　全國火藥庫所在ノ地名（地名表略之）

○爆發物取締罰則

明治十七年十二月布告第三十二號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

爆發物取締罰則（別冊）

第一條　治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス

第二條　前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

第三條　第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條　第一條ノ罪ヲ犯サントシテ得遂ケサル者及ヒ共謀ニ止マル者ハ重懲役ニ處ス

第五條　第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條　爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條　爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條　本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條　本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歲未滿ニシテ是非ノ

辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條　第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ

第十二條　本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○石油取締規則

明治十六年二月布告第六號

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス（十六年二月第十號ヲ以テ施行期限ハ追テ布告アルマテ延期ノ旨ヲ布告ス仍テ但書ヲ除去ス）

第一條　石油ヲ分テ二種トシ閃發發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度（華氏八十六度）以上ノ温度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條　點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條　石油營業者ヲ分テ壜業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條　石油ノ種類ハ內務卿ノ必要トスル地方ニ於テ檢查員ヲシテ之ヲ檢查セシムヘシ

石油ハ檢查濟ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但壜業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條　檢查濟ノ石油ヲ家屋內ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以內第二種ノ石油五斗以內トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條　石油營業者前條制限外ノ石油竝ニ檢查未濟ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳（東京府下ハ警視廳）ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條　第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但シ販賣時限ハ日出ヨリ日沒マテトス

第九條　石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルコトヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條　此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○古物商取締條例

明治十六年十二月布告第五十號

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

古物商取締條例（別冊）

第一條　古物商トハ古道具、古本、古書畫、古著、古銅鐵、潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋鑑甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬セル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準ス

第二條　古物商ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調查スルニ差支ナキ樣簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條　身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條　十五年未滿ノ者自痴痴顚者及ヒ屋人（組主ノ家ニアル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人屋主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルルコトアルヘシ

第六條　古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第八條　刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條　古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢查シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ屆人之ヲ擔當スヘシ

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條　品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルヤ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ若シ屆出テスシテ其理由ヲ辯解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條　物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第十三條　警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舖ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢查ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢查スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ屆出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條　特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一　物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所

氏名年齢及ヒ物品ノ形狀（徽章番號縞柄模樣損所ノ類ヲ云フ）價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二　日出前日沒後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三　營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四　物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知リ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五　毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六　住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラルヽコトアルヘシ

第十九條　古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條　此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條　商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖トモ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條　此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ク內務卿ニ屆出ツヘシ

○取締條例中官ニ沒スル物品處分方（明治十七年三月內務省達乙第十五號）

客年第五十號公布古物商取締條例第二十一條官ニ沒スル物品ノ儀ハ當省達九年乙第百三十六號十五年乙第七十號十六年乙第十三號ニ準據シ可取計此旨相達候事

○質屋取締條例（明治十七年三月布告第九號）

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

質屋取締條例（別冊）

第一條　質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條　質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ樣記載スヘシ但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條　身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條　十五年未滿ノ者白痴風癲者及雇人（雇主ノ家ニアル者）ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サルヽコトアルヘシ

第六條　盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受タル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第七條　贓物ノ疑アル品物又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條　流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條　流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ樣流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條　品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第十二條　質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第十三條　警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　此條例ニ違背シ又ハ詐僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處分ス

第十五條　此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條　營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條　此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ク內務卿ニ屆出ヘシ

○漉入紙製造取締規則（明治二十年七月勅令第三十六號）

朕漉入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漉入紙製造取締規則

第一條　文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ屆出ヘシ違フ者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條　紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條　此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

○漉入紙製造屆出手續 明治二十年八月大藏省令第十二號

文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ屆書二通ヲ管轄廳（東京府ハ警視廳）ニ差出スヘシ管轄廳又ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ニ遞達スルモノトス

雛形

（用紙半紙）

漉入紙製造屆

一何々漉入紙

右製造仕候間現品相添此段御屆仕候也

年　月　日　　貫籍　　何　　誰　印

廳府縣長官宛

第四章　難破船　漂流物　遺失物取締

○不開港場規則難船救助心得方等ノ條目 明治三年二月布告

不開港場規則難船救助心得方等ノ條目別紙彫刻之通被仰出候間此旨相達候事

（別紙）

外國貿易之儀ハ神奈川港ヲ初大坂兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賈トモ右場所オイテ取引可致處不開港場オイテ密商イタシ候哉之趣相聞以之外ノ事ニ候右ニ付而者先達而御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付向々オイテ厚可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙之場所ニ至候而者取計方不相辨モノモ可有之或ハ難船救助之筋ト入混シ難船人ヘ對シ不親切之取扱イタシ候而者御交際上ニ差響候儀ニ付夫是以今般猶又廉々別紙之通心得方被仰出候依而者府藩縣オイテ取締不行屆其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候節ハ假令其事不仕遂候共當人並其支配タル者マテ急度御咎可被仰付候尤吟味之上其土地管領之モノ同意致シ居候歟又ハ心得ナカラ見遁シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々オイテ取締之儀猶一層行屆候樣可致候事

一外國人之儀自己相對ヲ以雇入候儀不相成趣者兼而御布令之通ニ候得共諸學科又者國地開發或ハ西洋形之船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第ニヨリ御聞屆可相成候間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以東京外務省ヘ可願出其上御印章御渡可相成候尤御印章所持之外國人者何レノ向ニ而モ御國人同樣相心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘク候尤諸場所ニ而右御印章相改可申萬一右御印章所持不致外國人有之節者御許容不相願私ニ雇入候筋ニ付内地通行不相成儀者勿論竊ニ隱シ置相顯ルヽニ於テハ急度御沙汰之品モ可有之間心得違無之樣可致事

午正月　　太政官

追而別紙條目之儀者外務省ニ摺モノ有之候間不足之向者何部ニ而モ同省ヘ申立可受取候事

條目

不開港場取締心得方規則

一何レノ濱邊又者港浦ヲイテ西洋形之船入津候ハヽ時刻ヲ移サス直樣港役人（役人不居合場所ハ村長ノ内ヨリ可罷出事）其船ヘ乘組入津之趣意可相尋事

但言語不通ニ而十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ候儀甚少ク候間其大意丈ケ和語手眞似ニテ相分可申候事

一尋問之上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求候タメ入津之儀ニ候ハヽ其土地ヨリ横濱兵庫長崎新潟箱館迄之里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハヽ右品々タリトモ前文開港場之内ヘ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申或ハ右開港場ヘ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ候ハヽ無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承屆候上右里數ヲ計リ船中人數相當之分丈渡遣シ代金可受取事

但金高品數ハ勿論船之碇泊日數刻限等委細相認屆出可申事

一其船之國名船名船主之名書付ニテ承リ糺スヘキ事

但船名者多クハ船之艫ニ横文字ノ摺書ニテ認有之モノニ付右字樣寫取置ヘキ事

一船ニ引上ケ有之國旗並船主之旗等總而目印ニ可相成モノハ其雛形寫取可差出事

一闕乏之品相濟候上出帆遲々致シ候樣子ニ候ハヽ早々出帆候樣催促可致事

一御免許之上海岸測量之タメ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隱レ洲有之場所等差示可遣尤御免許之船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事

一軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船風帆船共總而船形大小トモ取糺相屆可申事

一軍艦ニ候ハヽ大砲之備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサルモノニ而モ相知レ可申軍艦ハ別而何事モ禮儀ヲ正シ不敬之取扱イタササル樣可心掛候事

一薪水食料等船中必用之品之外餘分ハ勿論其外土地産物類相求度旨申立候トモ一切賣渡候事不相成萬一利慾ニ迷賣渡候者有之後日相顯ハルルニ於テハ吟味之上屹度御咎可有之事

一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候トモ買求候儀是又一切不相成萬一竊ニ取引イタシ候節ハ前同樣御咎可有之事

一濱邊ニ近キ村里之モノ共其濱邊之モノ共内々外國人ト荷物之取引致シ候樣子ニ候ハハ其支配カ又者開港場ヘ可申立時誼ニヨリ御賞可有之事

一難船ニ無之食料闕乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定而其土地ニモ右ヲ呼迎候者可有之速ニ探索之上彌密商イタシ候ニ相違無之候ハハ雙方トモサシ押外國人者引留置御國人ハ入牢手鎖等其土地相當之仕置ニイタシ早々申立差圖可受尤横文字之書付類後日之證據ニ可相成品ハ始末イタシ可置事

但各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等ヘ參リ密商シ或ハ密商ヲ企テントイタシ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メキシコドルラルニ而千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同樣之企致シ候モノ於有之者兼而御布告之通其品取上過料トシテ金千兩御取上之事

一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乘組居萬一商買取引等致シ度段申立候歟或ハ其乘組御國人手引ニテ商買致シ候樣ニ相見候ハハ篤ト樣子ヲ探索致シ嚴敷拒絶可致萬一仕遂候跡ニ候ハハ其事實穿鑿之上早々其筋ヘ可申立事

但本文西洋形商船ニ不限御國通例之地乘船ニ而西洋人乘

組居候節モ同樣之事

一外國船ヲ御國人トモ借リ受開港場ヨリ開港場ヘ荷物運輸之儀ハ願之上御開屆可相成筋ニ候得共不開港場ヘハ決而御開屆無之儀ニ付萬一不屆之徒村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致シ度抔ト申唱ヘ候トモ一切差許申間敷事

但地方儀筋等ニテ不得止事外國船舶相屆不開港場ヘ相廻リ候事御免許無之筋ニモ無之其節ハ府縣縣之知事ヨリ其沙汰可有之且乘組人之內開港場之役人爲取締立會居候等ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事

一港ヘ碇泊イタサス沖繫リ又者其近海ニテイテ雙方ノ船出會致密商候樣子ニ候ハハ是又早々穿鑿可致事

一不開港場ヘ外國船碇泊イタシ薪水食料而已賣渡候儀ニテ咄心際リ之事無之トモ其都度相屆可申事

難船救助之事

一難船ニ而困苦之體ニ相違無之節ハ其困苦之輕重ニ隨ヒ相當ニ扶助イタシ可遣事

但船ニ乘組居リカタキ程ニ候ハヽ其海岸最寄寺院也民家也可然場ヘ止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事

一船之修復ニ取掛リ候ハヽ鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致シ可遣事

一乘組人之內溺死之戶有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハヽ墓所之內相合ヨキ場所ヘ埋葬可爲致事

一洋中テイテ大船破損シ乘組外國人之內猶船具等ニ取付生殘リ居候體見當候ハハ早々我船ヘ助ケ載開港場ヘ送屆候歟又者其土地支配之者ヘ引渡其支配之者受取海隘便宜ヲ見計開港場ヘ可差送事

一難船漂着候ハハ早々外務省歟又者開港場之內可成里數近キ所ヘ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員之出張ヲ申立差圖可受事

一難破イタシ船難用立陸路ヨリ開港場ヘ罷越度段外國人ヨリ願出候ハハ永屆附添之者可成條計ニサシ出最寄之開港場ヘ可送屆事

一困難之船體ン洲等ニ乘懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船澤又ハ鐵具碇鎖等迄沈沒之マヽ追々流失候トモ又ハ村方ニ而取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文之書面取證ヘキ事

一難破之船澤其マヽ差置外國人ハ一旦引拂追々右船引出シ方トシテ再可差越候ニ付其間船其外之モノトモ預リ置クレ候樣外國人ヨリ相願候トモ容易ニ引受申間敷彼方ヨリ遞而申立候ハハ其節ヘ伺之上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニ而異論不差起樣何事ニモ書而可取置事

一沿海地方ニ於テ外國船困難ノ節救助方ニ付出費ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカラサル部分於有之ハ內譯精細區分致シ其地管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候事ト相心得船主ヘ談判致シ船主ヨリ相當償却商ノ外猶不足ノ殘額ハ內譯精細書相添管轄府縣ヨリ大藏省ヘ申出處分ヲ可受候或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サヽル部分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置船主滯留中ナラハ其運船主ヘ心得置セ若シ船主其他乘組ノ者既ニ困難場引拂後ナル時ハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官ヘ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事ヘ申入置セ而後右區分ノ見込外

務省ヘ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハハ證書取置是又前文同樣開港場ノ府縣長官ヘ可相廻事（八年第七十號布告ヲ以テ全條改正）

一難破之船具又ハ沙濱之荷物或ハ船澤等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハハ右ハ相當之價ヲ以買求候儀不苦尤其段可相屆事

一難船ニ而永々滯留可相成樣子ニ候ハハ府縣トモ其筋ヨリ警衞之モノ可差出事

一乘組人無之西洋之難破船海岸ヘ漂着候ハハ其樣子イサイニ可相屆事

一總而外國人ニ取引イタシ候勘定書或ハ證書之類ニ至ル迄和文ニ而者難用立候ニ付彼國之文字ニ而爲相認書キ判又ハ調印爲致置ヘシ和文ニ而者後日之證ト難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハハ和文ニ相認右ヘ調印イタシ可差出彼方ヨリ認候トモ意味不相知西洋文ヘ調印ハ勿論名而認候儀不相成候樣有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得事

一右條目ニ有之伺出候儀又ハ屆書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省ヘ差出候事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場ヘ相屆候上猶又外務省ヘ可申立事

右之通

午正月

○日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用支出方

明治十年七月內務省達乙第六十八號

日本海岸ニ於テ英國船舶難破救助ノ費用向後別紙條目之通區別ヲ立支出相成候條右ニ憑據可致處分尤モ取扱方ノ儀ハ從前ノ通可相心得此旨相達候事

（別紙）

一英國船日本海岸ニテ難破ノ節官吏及ヒ巡査竝ニ區戶長等其場所ヘ出張ノ諸費官員困難人ヲ護送ノ旅費其他官府ノ間ニ報告スル諸費ハ總テ御國政府ノ給スル所タリ但シ難破セル者又ハ英國政府ヨリ償却セシムヘキ分左之通

第一救助人足及ヒ大小船雇賃竝沈沒荷物引上人足賃

第二船或ハ其破損諸具及ヒ荷物番人雇賃

第三困難船舉件ニ相用タル薪炭蠟燭及破壞場番小屋取建費其他雜費

第四困難人ニ給セシ衣類及其他諸物品代

第五言語不通ノ爲官員ニ非ラサル通辯人雇料及費用

第六困難人開港地ヘ發足ノ節荷物運送及途中諸費用

第七困難人溺死シタル時其捜索入費

第八同前ノモノ死傷スルトキ治療埋葬入費

○日英兩國船舶難破救助費用償還方

明治十二年三月內務省達乙第十五號

明治十年七月乙第六十八號ヲ以テ英國難破船救助費支出方之儀相達置候處今般日英兩國船舶難破救助費償還方ノ義ニ付別紙之通約定書交換相成候條此旨相達候事

（別紙）

日本政府ニ於テ英國破船人救助ノ爲メ衣類食料旅費或ハ溺流人骸ノ救援或ハ病者負傷者ノ治療其外死去人ノ埋葬ニ係ル諸入費ハ英國政府ヨリ日本政府ヘ償還スヘシ英國政府日本破船人ヲ救助スル時ハ日本政府ニテ右同樣ノ手續タルヘシ

日本政府又ハ英國政府ハ何レモ破船又ハ船內物貨ノ回復或ハ

其保證ニ係ル費用ハ之ヲ償還スルノ責ニ任セサルヘシ總テ斯ノ如キ費用ハ難ヲ免レタル貨物ヲ以テ右貨物ヲ受取ル節右關係ノ者ヨリ其費用ヲ償却スヘシ

日本政府又ハ英國政府ハ難船ノ場所ニ出張スル政府ノ官吏警察吏又ハ地方官ノ費用即チ難船人護送ノ官吏ノ旅費及ヒ公信往復費ヲ拂ハサル可シ是等ノ費用ハ右官吏警察吏及ヒ地方官所屬ノ政府ニ歸ス可キ者トス

○日米兩國難破船船費用償還方

明治十四年
內務省達乙第四十五號

難破船船費用償還方ノ儀別紙之通米利堅合衆國政府ト結約批准相成候條此旨相達候事

（別紙）

日本帝國ト米利堅合衆國ト俱ニ約ヲ締ヒ以テ此國ノ船彼邦ノ海岸ニ於テ難破ノ際ニ當リテ支出ス可キ一定ノ費用償還ノ法ヲ設クル事ヲ欲シ仍テ之カ爲メニ特約ヲ結フコトニ決意シ其全權委員トシテ日本國
皇帝陛下ハ外務卿正四位勳一等井上馨ヲ之ニ任シ米利堅合衆國
大統領ハ瞬下ニ駐劄セル合衆國特命全權公使ヲヨソン、ユー、ピソハムヲ之ニ任シ互ニ其委任狀ヲ相示シ其式ノ善良適切ナルヲ認メテ訂約スルコト左列ノ如シ

凡ソ風波ノ難ニ罹レル日本ノ窮民ヲ救ヒ之ニ衣食シ之ニ旅費ヲ給シ若クハ溺者ノ遺骸ヲ收得シ病者傷者ノ醫料ヲ償フノ力ヲキハ之ニ醫藥ノ費ヲ給シ若クハ死者埋葬等ノ爲メ合衆國政府ニ於テ支出シタル諸費ハ宜シク日本政府ヨリ之ヲ償還スヘシ

又合衆國市民ノ難破ニ遭遇シ日本政府ヨリ扶助ヲ受クル者アル時ニハ合衆國政府宜シク上ト同樣ノ手續ニ遵フヘシ然レトモ日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ難破船乃至其船中ノ貨財ヲ收回保存スルニ方リテ支出シタル費用ニ至テハ之ヲ償還スルノ責任ナカルヘシ凡テ遭標ノ費用ハ其拾得シタル貨財ニ關シコレニ關係アル證ヲシテ該貨財引取ノ上償還セシムル者トス

日本政府ニ於テモ將タ合衆國政府ニ於テモ其難破ノ地ニ出張セシムル政府ノ官吏警察吏或ハ地方吏ノ手當又ハ難民ヲ護送スル吏員ノ旅費若クハ公信往復ノ費用ハ之ヲ取立サルヘシ此類ノ費用ハ右官吏警察吏地方吏所屬ノ國ノ政府ニ於テ負擔スルモノトス

此約書ハ正當ノ法式ニ從ヒ各自政府ニ於テ之ヲ批准シ其批准ハ可成速ニ之ヲ華盛頓府ニ於テ交換シ右交換後三十日ヲ超ヘ之ヲ各自ノ國中ニ實施スル者トス

此約書ハ日本文及ヒ英文各二本ヲ作リ右ノ證據トシテ茲ニ兩國ノ全權委員各其名ヲ記シ印ヲ鈐ス

東京ニ於テ

明治十三年五月十七日

西曆千八百八十年五月十七日

井上馨 印

ヲヨソン、ユー、ピンハム 印

○內國船難破及漂流物取扱規則

明治八年四月
布告第六十六號

內國船難破及ヒ漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事

內國船難破及漂流物取扱規則（別冊）

第一條　諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈沒其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條　各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管廳ヨリ區戶長其他用掛リ等ノ內ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條　諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役人ニ報知スヘシ且ツ浦役人ヨリ指圖無之トモ速ニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ

但救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ賴談無之內ハ猥リニ船中ノ物品ヲ移シ移ス可カラス

第四條　浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ル時ハ速カニ其乘組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受ケ候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人數ヲ呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出サシム可シ

第五條　少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈ケ失費掛カラサル樣篤ク注意致シ救助方行屆候ハヽ早速人數ヲ退散セシムル可シ

第六條　保安シタル船具積荷其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置ヘシ尤小屋掛ヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條　難破ニ遭ヒタル船長又ハ乘組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知ス可シ

第八條　難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ハス可シ

第一　海面ニ漂流スル物品ハ其二十分一

第二　海中ニ沈沒スル物品ハ其十分一

第三　川而ニ漂流スル物品ハ其三十分一

第四　川底ニ沈沒スル物品ハ其十五分一

但其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條　浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人數及ヒ救助ノ爲メニ出タシタル小舟現ニ難船品ヲ保安シ及ヒ是レニ就テ盡力シタル證跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ制渡ス可カラス

第十條　保安シタル物品又ハ船滓等ノ餘殘物又ハ汐入リ水濡レ等ノ爲ニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ二名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乘組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ヒニ爲スヲ得可シ

但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈ケ最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ買人ノ證書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條　保安物ヲ賣拂ヒタルトキハ其代價金高ノ內ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシム可シ

第一　保安料

第二　救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三　保安物ノ爲ニ取設タル小屋掛ケ入費及ヒ番人ノ賃